

2023 年度

博士学位論文

現代ドイツ語における *Anglizismus* の形態・意味・統語の視点
からの考察：「賢い」に関連する語義を有する形容詞を中心に

2023 年 9 月

関西学院大学大学院 文学研究科

伊東 沙織

論文要旨

現代ドイツ語で使用される英語由来の借用語 *Anglizismus* は、これまで社会言語学的分析や形態的分析によりその用例の分析が試みられてきたが、本論文はその意味的特徴および統語的特徴を踏まえ、包括的な言語学的分析をすることで、現代ドイツ語における借用語の受容の一端を解明しようとするものである。まず現代ドイツ語の *Anglizismus* の使用の分析の基礎として、ドイツ語における通時的な借用現象に関する先行研究を辿る。中世におけるラテン語やフランス語等からの借用語は現代ドイツ語でも今なお使用されている語が多く、それらの借用語は形態統語的にドイツ語に統合されている。これらの特徴は現代ドイツ語の *Anglizismus* にも生じていると考えられる。本論文では現代ドイツ語の借用現象を分析するための考察対象として「賢さ」に関連する語義を有する *Anglizismus* の形容詞、*clever, cool, smart* を考察対象とした。まずこれらの形容詞に関する従来の記述を確認すると共に、当該形容詞のコーパス上の付加語的用例を分析することにより、Yang (1990) 他の形態的特徴の分析が「賢さ」に関連する語義を有する対象語にも適用できることを示す。また意味的分析では当該形容詞のコーパス上の用例を英語の語義と比較することで語義の選択借用の様態を示す。統語的特徴については、当該形容詞のコーパス上の付加語的用例を①副詞的な使用、②副詞との共起、③他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用に分類し、当該形容詞が統語的な観点でもドイツ語に統合されていることを示す。

まず序節で考察対象に関する分析の課題と本論文の目的に触れた後、続く第1章では、先行研究における借用現象による借用語の形式分類として Betz (1974) と Haugen (1950) を取り上げ、借用現象により生じた借用語が語借用 (*Wortentlehnung*) と借用造語 (*Lehnprägung*) に分類できることを示す。その上で、現代ドイツ語で使用される *Anglizismus* の各品詞の用例をコーパス上から取り上げ、*Anglizismus* は通時的観点からも従来の借用語との共通点が多く、特異な借用現象ではないことを示す。さらに先行研究では *Anglizismus* に関して意味的観点や統語的観点からの分析を踏まえた包括的説明が行われていないことを指摘し、本研究の対象語である *clever, cool, smart* に関して *Anglizismus* の借用は口語的な表現が選択借用されるという観点から意味的なアプローチが可能であるということを示唆する。

第2章では *Anglizismus* を形態的な視点で分析した先行研究を取り上げ、*Anglizismus* が形態的にドイツ語に統合される際に生じる特徴について言及する。その上で、対象語がドイツ語で述語的に使用される用例と付加語的に使用されるコーパスの用例を取り上げ、Yang (1990) に代表される *Anglizismus* の形態的なドイツ語への統合の記述、また、Eisenberg (2001) の外来語の文法的統合 (*Die grammatische Integration von Fremdwörtern*) に着目し、付加語的に使用される形容詞がドイツ語の屈折変化に順応するというこれらの研究の指摘に説得力があることを確認する。しかし、*smart* の比較表現の語尾 *-er* を含む屈折変化形と最上級を表す語尾 *-st* を含む屈折変化形が特定のコーパスでは確認できず、借用語の屈折変化には浸透の相違が存在することを指摘する。

第3章においてはまず *Anglizismus* の語義に関する先行研究を取り上げる。まず *Anglizismus* の語義に対応する既存語が存在せず、*Anglizismus* の使用が必然的であることに言及し、続いて Dewald (2008) の *Anglizismus* と英語の語義の不一致の分析に着目するが、Dewald (2008) の分析では *Anglizismus* の語義について包括的に説明できないことを指摘する。そこで、日本語における英語からの借用語の意味的特徴を分析した先行研究 (宮田 2007) に見られる借用語と既存語の用例や各語が有する語義の比較に着目する。この分析に従えば借用語が持つ特徴と性質を検証することができる。この研究を踏まえて、対象語のコーパスの用例が有する語義と英語の語義を対照することで、*Anglizismus* がどのような規則に基づいて借用されるかについてデータを提示することができ、*Anglizismus* がドイツ語で使用される際の語義は選択者用されることを指摘する。

第4章では統語的な諸点に関して調査し、対象とする *Anglizismus* の形容詞の統語的特徴について言及する。*Anglizismus* の形容詞はドイツ語の形容詞と同様の機能を有するのか、即ち、副詞的な使用や副詞との共起、他の形容詞との並列使用や名詞化、最上級としての使用がなされているのかをコーパス上の用例の分析を試みる。また、一般的ではない最上級の単独使用の用例が存在することから *Anglizismus* には口語的使用にのみ許容される文法的特徴に見られ、統語的な点でもドイツ語に統合していることを指摘する。

結論として、*Anglizismus* を形態的な視点のみならず、意味・統語の視点で分析することで、*Anglizismus* は総合的にドイツ語の文法体系に受容され、尚且つドイツ語の一部となり、ドイツ語の表現を豊かにすることに寄与していることを主張した。

目次

0. 序論-当研究の課題および目標	6
1. 先行研究と借用語 Anglizismus	7
1.1 語の諸相（借用形式）	8
1.1.1 借用形式の分類	8
1.1.2 借用語の意味変容	16
1.1.3 ドイツ語における外国語の影響	19
1.1.3.1 古ドイツ語（ゲルマン語）から古高ドイツ語における借用語	20
1.1.3.2 中高ドイツ語における借用語	26
1.1.3.3 初期新高ドイツ語、新高ドイツ語における借用語	28
1.1.3.4 現代ドイツ語における借用語	35
1.2 ドイツ語で使用される Anglizismus	37
1.2.1 通時的特徴	40
1.2.2 借用語と Anglizismus に対する批判	43
1.2.3 Anglizismus の用語の定義	47
1.2.4 Anglizismus の例	48
1.2.4.1 名詞	48
1.2.4.2 動詞	51
1.2.4.3 形容詞	54
1.3 「賢い」語義に関連する形容詞の例	61
2. Anglizismus の形容詞の形態的特徴	65
2.1 述語的形容詞としての用法	65
2.2 付加語的形容詞としての用法	67
2.2.1 先行研究における Anglizismus の扱い	68
2.2.1.1 Yang (1990)	68
2.2.1.2 小野 (2008)	69
2.2.1.3 Eisenberg (2001, 2004, 2011)	70
2.2.1.4 Burmasova (2010)	72
2.2.1.5 ケーススタディ : clever, cool, smart	73

3. Anglizismus の形容詞の意味的特徴	79
3.1 付加語的に扱われる形容詞 clever の意味受容	82
3.2 受容されない clever の語義.....	86
3.3 付加語的に扱われる形容詞 cool の意味受容.....	87
3.4 受容されない cool の語義.....	91
3.5 付加語的に扱われる形容詞 smart の意味受容.....	93
3.6 受容されない smart の語義.....	98
4. Anglizismus の形容詞の統語的特徴.....	99
4.1 Anglizismus の統語的分析	100
4.1.1 clever	100
4.1.2 cool	101
4.1.3 smart	103
4.1.4 Anglizismus の形容詞の統語上の共通点.....	104
4.2 最上級の単独使用	105
4.2.1 絶対的最上級 (Elativ) としての用法.....	106
4.2.2 möglichst や äußerst に類似する-st の派生	108
4.2.3 口語的用法の単独使用	109
5. 結論と展望.....	110
参考文献:	116

0. 序論 - 当研究の課題および目標

本研究の目的は現代ドイツ語における借用語である *Anglizismus* の形容詞に焦点を当て、言語学的観点、特に形態的・意味的・統語的観点から、その用法を明らかにすることである。本研究が着目するのは *Anglizismus* の形容詞のうち、「賢さ」に関連する語義を有する *clever, cool, smart* の3語である¹。これらの語にはほぼ同義と考えられるドイツ語が存在するものの、古くは1850年頃に英語から借用されている²。

Anglizismus はドイツ語における英語からの借用について総称する語であるが、これについて Bußmann (2008: 81) は、英語から英語以外の言語へ借用された表現と定義し、借用のタイプとして、(A) 語彙 (例 *Homepage, Highlight, Hooligan*)、(B) イディオム (例 *World Wide Web*)、(C) 統語構造 (例 *up to date, Global player, Roller skating*) の3つを挙げている。その中で *anklicken, recyceln, einchecken* のように英語の語彙がドイツ語の文法規則に従って使用されるものを *Denglisch* (ドイツ語英語) と呼称する。*Denglisch* とは *Deutsch* と *Englisch* から生成された混成語で、英語の語句の使用に対して批判的感情を持ち合わせた語としても認識されている。このように *Anglizismus* がドイツ語で寛容に受容されているとは一概に言えない状況ではあるが、このような他言語からの語の借用に対する不寛容さはこれまでのドイツ語形成の過程で常に生じている。例えば、中世以降にはラテン語やフランス語からドイツ国内へ借用されたが、17世紀から19世紀は国語浄化と国語育成の意識が向上し、「標準ドイツ語」の確立とともに、ドイツ語浄化への取り組みが加速することでラテン語やフランス語からの借用に対して寛容であった状況は一変し、他言語からの借用は消極的となった時期もある。*Anglizismus* もドイツ社会で批判の標的となることもあるが、*Anglizismus* に対する感情的な批判のみではドイツ語という言語にどのような現象が生じているのか明確にはならない。

Anglizismus の形容詞はドイツ語で使用される場合、付加語的に使用される場合や比較級・最上級で用いられる場合は一般的にドイツ語の形態的規則を遵守し、ドイツ語化され

¹ 形容詞 *cool* は、厳密にはこの意味領域の形容詞ではない可能性があるが、本論文では形容詞 *cool* が有する「冷静な」という意味を「賢さ」に含有することで考察対象とする。

² DWDS DTA-Kernkorpus(1598-1913)で *smart* を検索すると、既に屈折変化形で使用されていることが確認できる。

Ob nun der Franzose bloß staatsklug oder aus einer wirklich edlen Regung diesen Ton anschlug, bleibt bei der Doppel-Natur jenes merkwürdigen Mannes ungewiß; gewiß aber ist, daß ein armer Neger diesmal smarter war, als der smarteste Kaufmann der Union.(Kürnberger, Ferdinand: Der Amerika-Müde. Frankfurt (Main), 1855.)

て使用されるが³、それらがドイツ語で使用される際の英語との語義の差異やドイツ語の統語的特徴をどの示すのかという点をも含んだ *Anglizismus* の包括的な研究は未だなされていない。

本論文は、これらの疑問に関して意味的側面に関しては *Anglizismus* と英語の本来の語義には差異が生じ、英語の語義全てがドイツ語に借用されるわけでないこと、統語的側面については形態的特徴と同様にドイツ語に統合して使用されていることを示したい。一方で、他言語からの借用語をドイツ語で使用するには、少なからずドイツ語の既存語とは異なる性質を有することが予想される。先行研究との関連では、まず、形態的特徴に関しては Yang (1990) や Eisenberg (2001, 2004, 2011) による、*Anglizismus* の形容詞や動詞に関する考察があるが。特に、Eisenberg (2004, 2011) は *Anglizismus* の形容詞を 8 タイプに分類し、外来語の文法的統合 (Die grammatische Integration von Fremdwörtern) の特徴を示している。*Anglizismus* の意味に関しては、Yang (1990) が既存語には意味的に見て *Anglizismus* の相当語が存在しない場合もあることを指摘しているが、*Anglizismus* の語義の受容、特に多義的な形容詞に関する語義の受容に関する考察は確認できない。*Anglizismus* の統語面に関しては、*Anglizismus* の形容詞がドイツ語の形容詞と同様の統語的振る舞いを示すのか等の統語的諸点に関する考察はこれまで確認できない。

本論文では、*Anglizismus* の形態的特徴を中心として扱う先行研究を踏まえたうえで、その意味的特徴ならびに統語的特徴を考察していきたい。意味的特徴については特に英語では多義的な形容詞の語義がどのようにドイツ語へ受容されるのかについて着目する。統語的特徴については、*Anglizismus* の形容詞の副詞的な使用や副詞との共起、他の形容詞との並列使用や名詞化、最上級としての使用に着目して、統語的な面でのドイツ語への統合の様相を明らかにすることを試みる。本論文では、その際特に多義的な *Anglizismus* の形容詞のうち、「賢さ」に関連した語義を有する形容詞に着目する。このような形容詞にはすでにドイツ語にも類義語が複数存在するが、それにも関わらずドイツ語に借用されているという点で、特に興味深いものである。

1. 先行研究と借用語 *Anglizismus*

³ Yang (1990: 162), 小野 (2008: 177f.) , Eisenberg (2011: 209f.)

現代ドイツ語に限らず、通時的にドイツ語の特徴を観察すると、ドイツ語は他言語の影響を大きく受けており、現代ドイツ語に至るまでにさまざまな言語からの借用が行われてきた。

6世紀頃から15世紀頃にはラテン語からドイツ語へ教会用語や法律関係の語が借用され、12世紀後半からはフランスの文化が多大な影響を及ぼし、その結果、フランス語から中高ドイツ語へ多くの語が借用された⁴。特にドイツ中世盛期の宮廷文学においては、フランス語の多用で洗練された表現方法を詩に採用することが多く、ドイツ語に取り入れられた借用語は12世紀には300語に過ぎなかったが、13世紀には約700語にまで増加した⁵。1945年以降は英語からの借用が増加しているが⁶、英語からの借用は18世紀には確認されていた⁷。

ここでは現代ドイツ語で使用される *Anglizismus* の分析の基礎として一般的な借用現象について概観したのち、ドイツ語における通時的な借用現象に関する先行研究を辿る。それを踏まえてドイツ語における *Anglizismus* について概観し、本研究で考察対象とする *Anglizismus* の形容詞 *clever, cool, smart* の様態を示す。

1.1 語の諸相（借用形式）

ここでは借用現象を扱うにあたり、まず Betz (1974)、Haugen (1950) 他による言語における借用現象の形式分類を参考に、借用現象の全容を把握する。それを踏まえて、語彙と語義の変化がドイツ語語彙の発展に関与することに着目した先行研究（荻野 2012）を取り上げ、借用語の語義の変容について概観した上で、ドイツ語に与えた外国語の影響を通時的に辿る。

1.1.1 借用形式の分類

⁴ Moser (1969: 115f.), Wells (1990: 130f.), Polenz (1991: 219f.), 須澤・井出 (2009: 108f.), Eisenberg (2011: 37)

⁵ Wells (1990: 130), 須澤・井出(2009: 108f.)

⁶ 1.1.4.4 及び 1.2 にて詳説する。

⁷ Munske (2020: 2f.)

借用は他言語から語句を取り入れることを意味するが、借用には借用する手法や借用の程度が存在する。借用形式の分類については 20 世紀半ば頃より印欧諸語を中心として研究がすすめられ、特に Betz (1974) と Haugen (1950) が提唱した分類法がよく知られている。本節では、まず、Betz (1974) を基に借用について概観する。

語 (Wortschatz) には相続語 (Erbgut/ Erbwort。以下 Erbwort とする。) と借用語 (Lehngut/ Lehwort。ここでは広義的意味の「借用語」。以下 Lehngut とする。) が存在する。Erbwort とは語が借用によるものではなく、祖語にまで遡ることができる語を指す。Lehngut は他言語からの借用によりある言語に取り入れられた語を指し、Lehwort はさらに他言語の語をそのまま取り入れることを指す Wortentlehnung (語借用) と、他言語の形式をある言語に翻訳して模倣する Lehnprägung (内的借用) に分類される。

Wortentlehnung は音韻的に自国語に同化する程度の差により Lehnwort (狭義的意味の「借用語」) と Fremdwort (外来語) に分類される。Lehnwort は他の言語から借用された後、受容語の音韻規則等に同化したものであるが、依然として他の言語の要素として意識される度合いが高いものは Fremdwort とされる。例えば、ドイツ語の Wortentlehnung の分類は、a) ドイツ語における音声、b) ドイツ語におけるアクセント、c) ドイツ語における語尾変化形等の基準に関して、ドイツ語化の度合いが強いものは Lehnwort とされ、他の言語の要素が認められるものは Fremdwort とされる⁹。以下の例を見てみよう。

- (1) a. Pforte < *lat. porta*
- b. Krone < *lat. corōna*
- c. Fieber < *lat. febris*
- (2) Fenster < *lat. fenestra*
- (3) dichten – dichtete – gedichtet < *lat. dictāre*

(1)はドイツ語における音韻変容の例である。(1)a はラテン語 *porta* が現代ドイツ語では Pforte、(1)b はラテン語 *corōna* が現代ドイツ語では Krone、(1)c はラテン語 *febris* が現代ドイツ語では Fieber に変容された形でドイツ語化されている。(2)は語の強勢変容の例である。ラテン語 *fenestra* はアクセントが第二音節に置かれるが、現代ドイツ語 Fenster では

⁹ Betz (1974: 136), Eisenberg (2011: 29f.), 荻野(2012: 91f.)

アクセントは第一音節にある。(3)は動詞の語尾変化が変容する例である。ラテン語 *dictāre* は動詞「口述する」だが、現代ドイツ語では *dichten* のように *-en* という不定詞語尾を伴う動詞となり、過去形は *-te*、過去分詞は *ge-t* を伴って語尾変化する規則変化動詞となっており、ドイツ語の文法規則に適應している。(1)-(3)は借用後にドイツ語化されているため、先ほどの借用語の分類においては *Lehnwort* に分類される。しかし、*Lehnwort* と *Fremdwort* を分類する明確な基準や定義は存在しておらず¹⁰、個人の主観に頼る判断基準であるともいえる。

他方、*Lehnprägung* はその翻訳法が借用元の言語とどの程度対応するかにより細分化される。*Lehnprägung* はまず、既に受容語に存在している語に新たな外国語の意味を付与し、造語を伴わない *Lehnbedeutung* (意味借用、借義) と、造語を伴う *Lehnbildung* (借用形成) に分類される。*Lehnbildung* はさらに形態的影響を受けず、概念的 content に倣った自由な需要語の訳、つまり意識を充てた *Lehnschöpfung* (借用新造) と、語形の借用を伴う *Lehnformung* (語形借用語) に分類され、*Lehnformung* はさらに構成要素に配慮した厳密な受容語訳、つまり完全なる直訳の *Lehnübersetzung*¹¹ (直訳借用) と部分的に借用元の言語に影響された自由な受容語訳の *Lehnübertragung* (意識借用) に下位分類される。以上の借用の諸形式をまとめたのが以下の図 1 である。

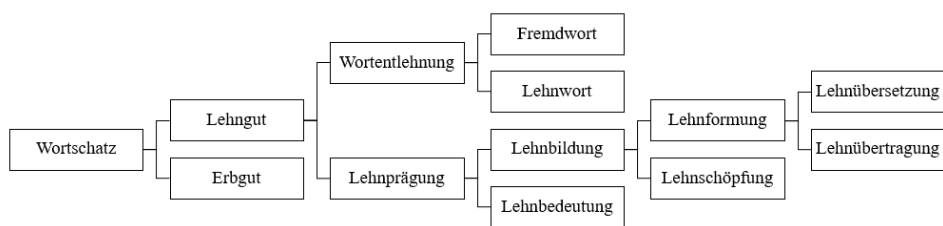


図 1 Betz (1974) による借用形式分類¹²

この図における各分類項目の例を見てみよう。

¹⁰ Eisenberg (2011: 25f.)

¹¹ *Lehnübersetzung* の例として、フランス語の *presqu'île* (*lat.* *paen-insula*)、英語の *loan-word* (*ger.* *Lehnwort*) が挙げられる (Haspelmath 2009: 39)。

¹² Betz (1974: 137), Polenz (1972: 43), 須澤・井出 (2009: 88), 荻野(2012: 92)を参考

Lehnbedeutung

- (4) Gott 神 < *ahd. got, as. god* 神的存在 < *lat. deus*
Buße 贖罪 < *ahd. buoza, as. bôta* 補償金 < *lat. paenitentia*
Trost 慰め < *ahd. trôst* 契約、同盟 < *lat. cōnsōlātiō*
Gnade 恩寵 < *ahd. ginâde, as. ginâtha* 慈悲 < *lat. grātia*

(須澤・井出 2009: 88)

(4)は Lehnprägung を下位分類した Lehnbedeutung の例である。Lehnbedeutung は既に受容語に存在している語に借用元の言語の新たな意味を付与する借用であり、これらの例は、既にドイツ語に存在した語にラテン語から借用した語義を新たに付与したものである。

Lehnschöpfung

- (5) *ahd. finduanga* 経験 < *lat. experīmentum*
ahd. wîhrouh 神にささげる薫香 (逐語訳 *geweihter Rauch* 聖なる煙) < *lat. incēnsūm*
ahd. zwelifbote 使徒 (逐語訳 *zwölf Boten* 12 人の使者) < *lat. apostolus*

(須澤・井出 2009: 89)

(5)は Lehnbildung を下位分類した Lehnschöpfung の例である。Lehnschöpfung は形態的影響を受けず、概念的 content に倣い自由に受容語の訳を充てた借用の手法である。(5)の例はラテン語から借用した語義をラテン語の形態の影響を受けずに古高ドイツ語に借用したものである。しかし、初期ドイツ語での Lehnschöpfung は少なく、現代ドイツ語に継承されたものはほとんどない¹³。

Lehnübersetzung

- (6) Gemeinde 教区 < *ahd. gimeinida, as. gimēntha* < *lat. commūniō*
Überfluß 余剰 < *ahd. ubarfleozzida* < *lat. superfluitās*
Sänger 歌手 < *ahd. Sangâri* < *lat. cantor*

¹³ 須澤・井出 (2009: 88f.)

Montag 月曜日 < *lat. dies lunae*
Gewissen 良心 < *lat. cōn-scientia*
Eisener Vorhang 鉄のカーテン < *engl. Iron Curtain*
Halbwelt 花柳界 < *fr. demi-monde*
herunterladen ダウンロードする < *engl. down-load*

(須澤・井出 2009: 89, Haspelmath 2009: 39)

(6)は *Lehnformung* の下位分類の *Lehnübersetzung* の例である。*Lehnübersetzung* は構成要素に倣って厳密に受容語の語を使用して訳した借用の手法である。つまり、起点語を構成要素に分解し、各要素を受容語の該当する語に翻訳する借用である。(6)の例はラテン語から古高ドイツ語に借用され、現代ドイツ語でも使用されている語の例 (*Gewissen*) と、英語からドイツ語に借用された例 (*Eisener Vorhang*)、フランス語からドイツ語に借用された例 (*Halbwelt*) である。

Lehnübertragung

(7) gehorsam 従順な < *ahd. gihōrsam* (< *ahd. hōrren* 聞く) < *lat. oboediēns* (< *lat. audiō* 聞く)
Bethaus 礼拝堂 < *ahd. bētahūs* < *lat. orātōrium* (< *lat. orātiō* 祈祷)
versagen 拒む < *ahd. farsagēn* < *lat. negāre* (< *lat. negō* = ne + aio 言う)

(須澤・井出 2009: 89)

(7)は *Lehnformung* の下位分類の *Lehnübertragung* の例である。*Lehnübertragung* は部分的には外来語に倣うところもある一方で、*Lehnübersetzung* と比較して自由に受容語の語を使用して訳した借用の手法である。つまり、起点語と翻訳語間には部分的にしか対応関係が認められない借用である。これらの例はラテン語から古高ドイツ語に借用され、現代ドイツ語でも使用されている例である。(6)と比較すると、古高ドイツ語への自由な翻訳が観察できる。

次に Haugen (1950) について概観する。Haugen (1950: 211f.) は、語を取り入れる輸入 (*importation*) と外国語に代替し、自国語で模倣的に取り入れる代用 (*substitution*) を区別する。さらに *importation* を借用語 (*loanword*) と混種語 (*loanblend*) に下位分類し、

代用を翻訳借用語 (loan translation) と借義語 (semantic loan) に下位分類している。また代用については総称して借用推移 (loanshift)¹⁴とし、さらに他言語との接触により生じた語形を創作 (creation) とした。(図2)

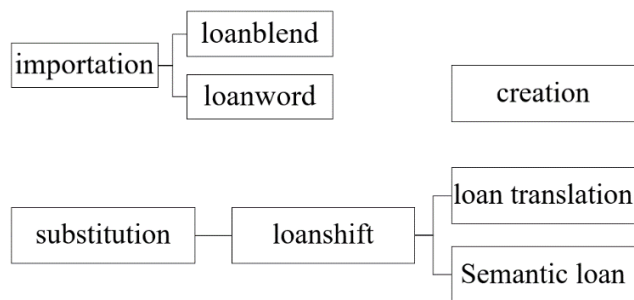


図2 Haugen (1950) による借用形式分類¹⁵

Haugen は Betz が取り上げていない loanblend (以下、ドイツ語の *Lehnverbindung* に相当するものとして扱う。) について僅かに扱っているが、Weinreich (1974: 52f.) は *Lehnverbindung*、つまりハイブリット混成語について説いており、*Lehnverbindung*¹⁶ は *Entlehnung* と *Lehnübersetzungen* による構成だとしている。*Lehnverbindung* にはドイツ語と英語による複合混成語 (*hybride Komposita*)、借用接辞 (*entlehntes Affix*)、基本的な語を借用した語 (*entlehntes Grundwort*) がある¹⁷。

- (8) ausknocken < *engl.* to knock out
 ausflippen < *engl.* to flip out
 aussitzen < *engl.* to sit out
 einchecken < *engl.* to check in
 aufpeppen < *engl.* to pep up
 Crosslauf < *engl.* cross country run
 brandneu < *engl.* brand new

(Munske 2000: 13)

¹⁴ Betz が提唱した *Lehnprägung* と対応する。

¹⁵ Haugen (1950: 211f.), Zisk (2015: 198f.) を参考。

¹⁶ ドイツ語での表現は *Lehnverbindungen* とされている (Munske 2000: 13)。

¹⁷ Weinreich (1974: 52f.) を参照。

(8)は英語からの *Entlehnung* と英語の語を翻訳した語から混成された語である。前置詞句から分離動詞を生成するだけでなく、*Crosslauf* のような名詞の造語も可能である。

Betz と Haugen の分類法が提唱されて以降、ドイツ語圏においては Betz の分類法に従い、英語圏においては Betz の分類法も参考にしつつ、基本的に Haugen の分類法に従う傾向があり¹⁸、1960年代以来、複数の研究者により内的借用の分類が提示されてきた¹⁹。とりわけ内的借用の重要な現象を挙げているのが Weinreich である。Weinreich が *Languages in contact* (1974)でその存在を主張した *Lehnverbindungen* を含め、Betz, Haugen, Weinreich による借用語の形式分類を統合してまとめると以下のようなになる。

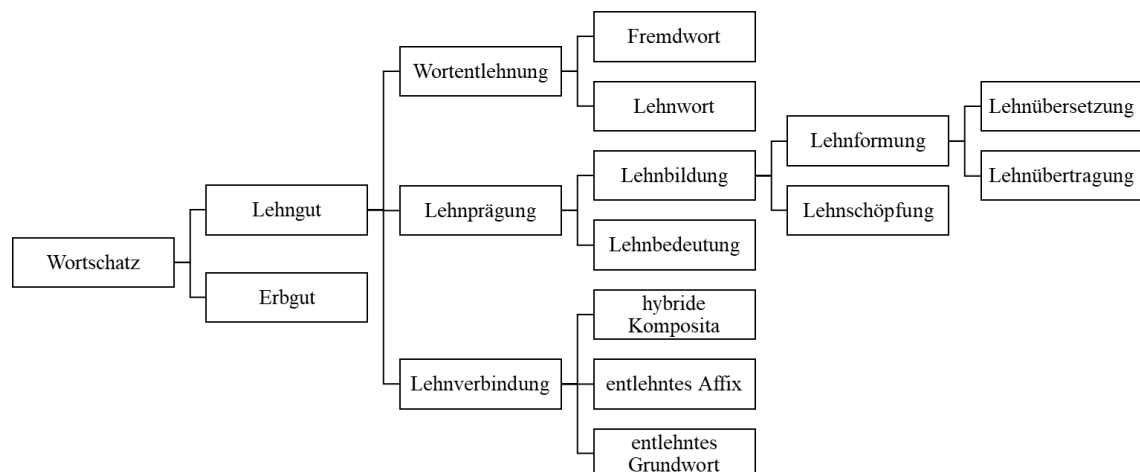


図 3 借用形式分類²⁰

図 3 の分類に沿い *Anglizismus* の例をしてみる。

Wortentlehnung

(9) Dressman < *engl. dressman*

¹⁸ Zisk (2015: 199)

¹⁹ Munske (2000: 9)

²⁰ Betz, Haugen, Weinreich による借用形式分類をまとめた Munske (2000: 16)を参考に筆者がまとめた分類図である。

Website / Webseite < *engl.* website

(9)は英語の語を直接借用した *Wortentlehnung* の例である。英語の *dressman* はドイツ語でもそのままの形で借用されている。なおドイツ語では通常 *mann* と表記するが、この場合 *Dressman* と表記され、複数形は *Dressmen* となる。英語の *website* は英語の表記と異なる *Webseite* という表記も見られるものの、そのまま借用した *Website* も使用される。

Lehnbedeutung

(10) Wanze < *engl.* bug 盗聴器

Papier < *engl.* Paper/ paper 文書

(Eisenberg 2011: 35)

Lehnbedeutung は既に受容語に存在している語に借用元の言語の新たな意味を付与する借用を指す。(10) *Wanze* は元来「虫かご」を表す語であったが、英語 *bug* の語義「盗聴器」を *Wanze* に付与した。同様に、*Papier* に「文書」の語義を付与したのは英語での相当語 *bug*, *paper* の語義の影響である。

Lehnbildung

(11) Klimaanlage < *engl.* air-condition

Fertiggericht < *engl.* instant meal

(Dewald 2008: 37)

Lehnbildung は形態的影響を受けず、意識を充てた *Lehnschöpfung* と、語形の借用を伴う *Lehnformung* に分類され、*Lehnformung* はさらに構成要素に配慮した厳密な受容語訳、つまり完全なる直訳の *Lehnübersetzung* と部分的に借用元の言語に影響された自由な受容語訳の *Lehnübertragung* に下位分類されるが、Dewald (2008:37)では *Lehnübersetzung* と *Lehnschöpfung* の上位概念として *Lehnbildung* を挙げている。(11) では *Klimaanlage* と *Fertiggericht* を扱う。*Klimaanlage* は英語 *air-condition* を意識した *Klima* (気候) + *Anlage* (設備) の造語として借用し、*Fertiggericht* は英語 *instant meal* を意識、並びに直訳した *fertig* (出来上がった) + *Gericht* (料理) の造語として借用している。

Lehnverbindung

- (12)a. Button- down- Kragen < *engl.* Button down collar
- b. jmd. die Show stehlen < *engl.* steal the show
- c. Mini- Kleid < *engl.* mini dress
- e. ausflippen < *engl.* to flip out

(Munske 2000: 16)

(12a), (12b)はドイツ語と英語による複合混成語の *hybride Komposita* の例である。(12a)は名詞 *Kragen* のみドイツ語で他の語は英語からの *Wortentlehnung* として借用された語を使用し、(12b)の名詞 *Show* は英語から *Wortentlehnung* として借用された語で、動詞は *steal* に相当するドイツ語 *stehlen* を使用する。(12c)は借用接辞との合成語の *entlehntes Affix* の例である。借用接辞 *mini* と *dress* に相当するドイツ語 *Kleid* からの混成語である。(12e)は基本的な語を借用した語との合成語の *entlehntes Grundwort* の例である。英語 *flip* をドイツ語に取り入れ、*out* に相当するドイツ語 *aus* との混成語としてドイツ語の動詞として造語されている。

本論文では、*Lehnprägung* と *Lehnverbindung* に該当する語を含まないことから、図3の分類における *Fremdwort* と *Lehnwort* に該当する語、すなわち英語の語がそのままの形でドイツ語に借用される語を取り扱う。

1.1.2 借用語の意味変容

借用について、1.1.1 では借用の形式の分類について概観した。ここでは受容側の言語で使用する際に借用語の語義の変化が生じる可能性について概観する。

荻野 (2012) はドイツ語語彙の発展に関して、語彙変化を取り上げている。とりわけ借用語による二重構造を基に、語彙変化を通時的観点から考察している。まず、語の意味変化について概観すると、その経過の特徴により次の5つに分類できる²²。

²² 荻野 (2012: 85f.)

- (1) *Bedeutungserweiterung* (意味拡張)
- (2) *Bedeutungsverengung* (意味縮小)
- (3) *Bedeutungsverschlechterung* (意味悪化)
- (4) *Bedeutungsverbesserung* (意味良化)
- (5) *Bedeutungsübertragung* (意味転用)

各定義におけるドイツ語の例を見てみよう。

Bedeutungserweiterung

- (13) *Gefährt* 「一緒に旅をする者」 > 「仲間」
nhd. Frau 「婦人」 < *mhd. frouwe* 「貴族の婦人」

(荻野 2012: 86)

(13)は *Bedeutungserweiterung* の例である。意味拡張は以前の語義より広い意味として使用されることを指す。*Gefährt* は「一緒に旅をする者」として使用されていたが、今日においては *Spielgefährte* のように「仲間」として使用される。同様に、*Frau* は中高ドイツ語においては「貴族の婦人」にのみ対象を絞って使用された語であったが、現代ドイツ語においてはあらゆる婦人を指す語である²³²⁴。

Bedeutungsverengung

- (14) *nhd. Hochzeit* < *mhd. hôch(ge)zît*

(荻野 2012: 86)

nhd. Schirm < *mhd. schirm, scherm*

(ドイツ言語学辞典 1994:118)

²³ 言語学小辞典 (1985: 18)

²⁴ *Frau* は *Bedeutungserweiterung* として認識される場合と、荻野 (2012: 86) のように *Bedeutungsverschlechterung* (意味悪化)、もしくは *Pejorativ* (蔑称形)、*Deteriorativ* として扱う場合がある。荻野 (2012) は *Frau* について、中世では「貴婦人」「女王」を指し、身分の高い既婚女性を表現していたが、近世の都市市民社会になると市民階級の女性を表す語として語の価値を減ずる結果となったとしている。

(14)は *Bedeutungsverengung* の例である。意味縮小は意味の領域が狭くなることを指す。例えば、*Hochzeit* は中高ドイツ語ではキリスト教の祝祭一般を表す語であったが、現代では結婚式にのみ限定されて使用される。*Schirm* は中高ドイツ語では *Augenschirm* (目おおい、日よけ) や *Ofenschirm* (オーブンの熱よけ)、*Regenschirm* (雨傘) のような「保護するもの」を指す語として用いられていたが、現代では「傘」を意味することが多い。

Bedeutungsverschlechterung

(15) *nhd. Weib* < *mhd. wîp*

(荻野 2012: 86f.)

(15)は *Bedeutungsverschlechterung* の例である。意味悪化は意味内容の低下を指す。中高ドイツ語において *wîp* は女性一般を表現していたが、現代ドイツ語 *Weib* は女性に対する軽蔑語である。

Bedeutungsverbesserung

(16) *nhd. Minister* < *lat. minister*

(言語学小辞典 2001:19)

nhd. Marschall < *ahd. marah* + *schalc*

(荻野 2012: 87)

(16)は *Bedeutungsverbesserung* の例である。意味良化とは意味内容の向上を指す。ラテン語で *minister* は「より小なる者」「召使」であったが、現代ドイツ語で「大臣」として使用される。同様に、現代ドイツ語の *Marschall* は古高ドイツ語では馬 *marah* と下男 *schalc* からの合成語で「馬丁」の意味であったが、主馬頭を経て、元帥を表す。

Bedeutungsübertragung

(17) *feuern* 「火を焚く」 < *engl. fire* 「解雇する」

(荻野 2012: 87)

(17)は *Bedeutungsübertragung* の例である。借用の際に、*Lehnübertragung* として借用することがあるが、*Bedeutungsübertragung* は比喩を含む意味借用を指し、語義のみを借用し、それを受容言語の語に付与する現象である²⁵。*feuern* は元来「火を焚く」語義のみであったが、英語 *fire* 「解雇する」から語義のみを借用し、ドイツ語 *freuern* に付与した。

特に、意味拡張と意味縮小は社会的要因と言語的要因により語に影響を与えており、借用語においても生じる現象である。意味縮小は、語句が借用される場合に本来語での語義が選択借用することも含む。例えば、英語 *voyage* がフランス語の相当語と同義である「旅行」として認識されていたが、時間の経過とともに意味範囲が狭まり「海や水路による旅」という限定的な意味範囲となることである。*Anglizismus* をドイツ語に借用する際には、英語の全ての語義を借用せず、一部の語義のみを借用していることが推測される。特に、多義的に使用される語は *Wortentlehnung* としてドイツ語に取り込み、語義は選択借用される可能性が高い。

1.1.3 ドイツ語における外国語の影響

これまでの歴史において他言語と接触する際に文化传播上、重要性を持っていた言語は古典中国語、サンスクリット、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語とされている²⁶。このような文化的に重要性を持つ言語の影響は、ドイツ語の言語形成においても見られる。ドイツ語が発展する過程においては、特に上記5つの言語のうち、ギリシャ語とラテン語がドイツ語に多大なる影響を与えた。また、地理的に近隣の言語であるチェコ語やポーランド語も、ドナー言語²⁷としてドイツ語に多大な影響を与えている。これらの言語の語彙は特に国境地域での直接接触を通してドイツ語へと借用された。近世においては宮廷文化において模範であったフランス語からの借用はもちろんのこと、外交関係の拡大とともに他言語からの借用の増加が見られ、例えばロシア語からは事物や概念と共に相互に語句の借用も行われていた²⁸。13世紀以降は *Fremdwörterbuch* の編纂により、借用語数が記録されているが、無論それ以前においても借用語は存在していた²⁹。

²⁵ 1.1.1 参照。

²⁶ Sapir (1963: 194)

²⁷ ドナー言語 (*Gebersprache*) とは、X 言語から Y 言語に Z が借用された場合、Y 言語において X 言語を指す。

²⁸ Eisenberg (2001: 40f.)

²⁹ Eisenberg (2011: 86f.)

本節ではドイツ語を通時的観点から 1.1.3.1 古ドイツ語（ゲルマン語）から古高ドイツ語における借用語、1.1.3.2 中高のドイツ語における借用語、1.1.3.3 初期新高ドイツ語、新高ドイツ語における借用語、1.1.3.4 現代ドイツ語における借用語に区分して、外国語がドイツ語に与えた影響について概観する。

1.1.3.1 古ドイツ語（ゲルマン語）から古高ドイツ語における借用語

ドイツ語の前身であるゲルマン語においても、隣接諸民族の言語との接触により言語間の借用が生じた。ゲルマン語が特に影響を受けたのはケルト語であるとされる³⁰。

(18)	国家体制・法制	<i>got.</i> reiki > <i>ahd.</i> rīhhi (> <i>nhd.</i> Reich 王国) [< <i>kelt.</i> *rīgiom 王]
		<i>got.</i> andbahti > <i>ahd.</i> ambahti (> <i>nhd.</i> Amt 職務) [< <i>kelt.</i> *ambactus 奉公人]
	建築	<i>ahd.</i> zūn (> <i>nhd.</i> Zaun 柵) [< <i>kelt.</i> -dūnum 地名 = 防護施設で囲まれた町 (<i>engl.</i> town 町)]
	河川名	<i>nhd.</i> Donau (ドナウ川) [< <i>lat.</i> Donubīus < <i>kelt.</i> Danu 川] <i>nhd.</i> Main (マイン川) [< <i>kelt.</i> Mogin, mei 水] <i>nhd.</i> Rhein (ライン川) [< <i>kelt.</i> Rhenos, ro-ean 流れる川]
	地名	<i>nhd.</i> Kempten (ケンプテン) [< <i>kelt.</i> Cambodunum, -dunum 城] <i>nhd.</i> Mainz (マインツ) [< <i>kelt.</i> , <i>lat.</i> Mogontiacum < Mogons 神の名前] <i>nhd.</i> Worms (ヴォルムス) [< <i>kelt.</i> Borbetomagus, magos 平地] <i>nhd.</i> Wien (ウィーン) [< <i>kelt.</i> Vindabona ³¹ < <i>lat.</i>

³⁰ 福本(1980: 9f.), Wells (1990: 60f.), 須澤・井出 (2009: 46f.)

³¹ Vindabona はケルト人が居住した、現在のウィーンの起源となる地名である。地名には

Vindobona]

nhd. Bonn (ボン) [< *kelt. Bona*³²]

(Wells 1990: 59f., Wolff 2004: 49, 須澤・井出 2020: 46f.)

(18)はケルト語からドイツ語に借用された語の例である。国家体制・法制、建築、河川名、地名と多分野においてケルト語からの借用が確認できる。当時のケルト人とゲルマン人を比較すると、ケルト人の文化がゲルマン人の文化より高い段階にあったことが影響し、ゲルマン人はケルト人から新しい事物やその名称を借用していた³³。

次に、ドイツ語に多大な影響を及ぼしたのはラテン語である³⁴。ローマ人がゲルマン人の隣人となり、接触する機会が増加した。その影響は言語にも現れ、接触の増加に比例してラテン語の借用が増加した。

(19) 国家体制・法制

ahd. keisur (> *nhd. Kaiser* 皇帝) [< *lat.*

Caesar カエサル]

got. karkara > *ahd. karkeri* (> *nhd. Kerker* 牢獄) [< *lat. carcer* 牢獄]

戦闘

ahd. kamph (> *nhd. Kampf* 戦闘) [< *lat.*

campus 戦場]

ahd. phîl (> *nhd. Pfeil* 矢) [< *lat. pîlum* 投げ槍]

ahd. êrdwal (> *nhd. Wall* 墨壁) [< *lat. vallum* 墨壁]

建築

ahd. fenstar (> *nhd. Fenster* 窓) [< *lat.*

fenestra 壁の小窓]

ahd. këllari (> *nhd. Keller* 地下室) [< *lat.*

cellārium 貯蔵庫]

ahd. mûra (> *nhd. Mauer* 塀) [< *lat. mûrus*

諸説あり、確たる検証材料がなく明確ではない。

³² 城塞 (Burg) の説も存在するが明確ではない。

³³ 福本(1980: 10), Schmidt (2007: 59f.)

³⁴ Schmidt (2007: 59f.)

壁]

ahd. scuola (> *nhd.* Schule 学校) [*< lat.*
schōla 講義、学校]

ahd. strâza (> *nhd.* Straße 道路) [*< lat.* via
strâta 舗装道路]

商業

got. kaupôn > *ahd.* koufen 商いをする (>
nhd. kaufen 買う) [*< lat.* caupo 行商人]

ahd. karro (> *nhd.* Karren 荷車) [*< lat.* carrus
四輪車]

ahd. korb (> *nhd.* Korb 籠) [*< lat.* corbi 籠]

ahd. munizza (> *nhd.* Münze 硬貨) [*< lat.*
monēta 硬貨]

got. sakkus > *ahd.* sac (> *nhd.* Sack 袋) [*<*
lat. saccus 袋]

園芸

ahd. fruht (> *nhd.* Frucht 果実) [*< lat.*
frūctus 果実]

ahd. kôl (> *nhd.* Kohl キャベツ) [*< lat.*
caulis キャベツ]

ahd. phlanzôn (> *nhd.* pflanzen 植える) [*<*
lat. plantāre 植える]

ahd. ratih (> *nhd.* Rettich 大根) [*< lat.* rādīx
大根]

got. wein > *ahd.* wīn (> *nhd.* Wein ワイン) [*< lat.*
vīnum ワイン]

ahd. wīnzuril (> *nhd.* Winzer ブドウ栽培者) [*< lat.*
vīnitor ブドウ栽培者]

文化・料理

ahd. karz (> *nhd.* Kerze ロウソク) [*< lat.*
charta パピルス紙]

ahd. kuhhina (> *nhd.* Küche 調理室) [*< lat.*
coquīna 調理室]

	<i>ahd.</i> simula (> <i>nhd.</i> Semmel ゼンメル、小型パン) [< <i>lat.</i> simila 上等の小麦粉]
	<i>ahd.</i> spiagal (> <i>nhd.</i> Spiegel 鏡) [< <i>lat.</i> speculum 模 写、鏡]
	<i>ahd.</i> scrīban (> <i>nhd.</i> schreiben 書く) [< <i>lat.</i> scrībere 書く]
地名	<i>ahd.</i> briaf (> <i>nhd.</i> Brief 手紙) [< <i>lat.</i> brevis 短い] <i>nhd.</i> Augsburg [< <i>lat.</i> Augusta Vindelicorum (vindelici 族の Augusta)] <i>nhd.</i> Koblenz [< <i>lat.</i> confluentes 合流点] <i>nhd.</i> Köln [< <i>lat.</i> colonia Agrippinensis (Agrippina の植民地)]
曜日	<i>nhd.</i> Sonntag (< <i>ahd.</i> sunnūntag, <i>as.</i> sunnundag) [< <i>lat.</i> Solis dies] <i>nhd.</i> Montag (< <i>ahd.</i> mānatag) [< <i>lat.</i> Lunae dies] <i>nhd.</i> Dienstag (< <i>ahd.</i> zīostag) [< <i>lat.</i> Martis dies] <i>nhd.</i> Mittwoch (< <i>ahd.</i> media hebdomas) [< <i>lat.</i> Mercurii dies] <i>nhd.</i> Donnerstag (< <i>ahd.</i> donarestag) [< <i>lat.</i> Jovis dies] <i>nhd.</i> Freitag (< <i>ahd.</i> frīatag) [< <i>lat.</i> Veneris dies] <i>nhd.</i> Samstag (< <i>ahd.</i> sambaztag) [< <i>lat.</i> Saturni dies]

(Moser 1965, Wells 1990: 60f., Schmidt 2007: 60f., 須澤・井出 2020: 47f.)

(19)はラテン語からドイツ語へ借用された語の例である。当時のローマは戦術に長け、国家組織や司法制度が発達しており、ゲルマン人の文化より高い文化を保持していた³⁵。そのため、ケルト語からの借用同様に、ラテン語からもローマの戦術や国家体制・法制、建

³⁵ 福本 (1980:10)

築、商業、園芸、文化、地名の分野で新しい事物と同時にその名称も借用した³⁶。(17)に見られるように、ラテン語からの借用の特徴は、ケルト語からの借用同様に、当時の社会背景により新しい事物を取り入れる際に語も付随して借用されているため、名詞の借用が顕著にみられることである。特に注視すべきは曜日に関する語の借用である。これらの語を借用するには *Wortentlehnung* ではなくドイツ語に翻訳する *Lehnprägung* の *Lehnübersetzung* として借用されているが、中にはラテン語で使用されているローマ神をゲルマンの神に変換して借用した表現もある³⁷。

ラテン語の次にゲルマン語に影響を与えたのはギリシャ語である。ギリシャ語からは教会に関する語が借用され、ギリシャ語はラテン語より限定的にゲルマン語に影響を及ぼした。これはギリシャと接触のあったゲルマン族であるゴート族との関係性が深いとされており、彼らが当時、ゲルマン民族として初めてキリスト教に接触し、自分の言語でギリシャ、ローマの聖書を翻訳し、アリウス教を奉じ、ローマ法皇やカトリック教義とは無関係で、且つ、ラテン語の束縛を逸脱した国民教会を建設した偉業が影響している³⁸。

- (20) *ahd.* kirihha, *as.* kirika (> *nhd.* Kirche 教会) [*< gr.* kyrikón]
ahd. biscof, *as.* biscop (> *nhd.* Bischof 司教) [*< gr.* episkopos]
ahd. fona fimfchustim, *as.* te piknkoston (> *nhd.* Pfingsten 聖霊降臨祭) [*gr.* pentekostê hēméra (復活祭後の 50 日目)]
ahd. pfaffo (> *nhd.* Pfaffe 僧侶) [*gr.* papās]
ahd. alamuosa (> *nhd.* Almosen わずかな報酬) [*gr. -lat.* eleemosyna]
ahd. angil/ engil (> *nhd.* Engel 天使) [*gr. -lat.* angelus]
ahd. tiuval (> *nhd.* Taufel 悪魔) [*gr.* diabolos]

(Wells 1990: 61f., 須澤・井出 2020: 86f.)

³⁶ Moser(1965: 116f.), 福本(1980: 11), Schmidt (2007: 59f.)

³⁷ Samstag はラテン語では Saturni dies (サートゥルヌスの日)、Sonntag はラテン語では Solis dies (太陽の日) であり、Lehnübersetzung の借用がなされている。Donnerstag はラテン語では Jovis dies (ユピテルの日) だがドイツ語に借用する際に Donar 神として翻訳し、Freitag はラテン語では Veneris dies (ヴェーヌスの日) だがドイツ語に借用する際に女神 Frīa として翻訳して借用造語を行った (Polenz 1978: 24)。

³⁸ Moser (1965: 115f.), 福本(1980: 13), Wells (1990: 61f.), Schmidt (2007: 61)

(20)はギリシャ語から借用された語である。キリスト教に関連する語はその多くがギリシャ語からの借用語でドイツ語に多く存在している。それらは現代ドイツ語においてもなお使用されている。借用現象は外部との接触により生じるが、当時の文化の発達の度合いと関連して、ゲルマン語に語が借用されるのは避けられない現象であった。(19)においても、他文化から新しい事象を自国の文化に借用する際に事物だけでなく語も借用したことにより名詞の借用語が多いことが特徴である。

ギリシャ語からの借用はドイツ語においては限定的であったが、一方のラテン語の影響は継続的で、ドイツ語に多くの語が借用された。宗教会議や国会において使用する言語はラテン語であった。この時期の借用語はキリスト教・教会用語に関する語が非常に多いが、それはドイツ語全体の3%を占めていた³⁹。借用に当たっては語を単純に借用する *Wortentlehnung* よりも、翻訳借用語 (*Lehnübersetzung/ Übersetzungslehnwörter*) として借用される語が多く⁴⁰、説教などで一般大衆向けにラテン語ではなくドイツ語を使用することを念頭に置き、ラテン語の原語をドイツ語で模造した表現で取り入れることが借用の手法として採用されていた。

- (21) *nhd.* Gewissen (< *lat.* cōn-scientia)
nhd. Gevatter (< *lat.* com-pater)
nhd. Mittler (< *lat.* mediātor)
nhd. Gemeinde (< *lat.* communio)
nhd. Gotteshaus (< *lat.* domus deī)
nhd. Beichte (< *lat.* confession)
nhd. auferstehen (< *lat.* exurgere)
nhd. barmherzig (< *lat.* miseri-coors)

(福本 1980: 26)

(21)はラテン語からドイツ語に翻訳借用 (*Lehnübersetzung*) された例である。これらの借用語は現代ドイツ語において不可欠である語となっている。

³⁹ Betz (1974: 145)

⁴⁰ Polenz (1978: 43f.)

1.1.3.2 中高ドイツ語における借用語

中世においてはフランスの多大なる影響が見られる。12世紀末から13世紀は叙事詩や抒情詩が生み出されたドイツ文学の興隆期であった。この時代の宮廷文学はフランスの影響を受けており、使用する語彙にも影響が及んだ。その影響は借用語数にも見られ、12世紀におけるドイツ語のフランス語からの借用語は300語に過ぎなかったが、13世紀には約700語、14世紀には約2000語にも達した。特に、騎士文化や軍事、武具に関する借用語が多い⁴¹。

(22) *mhd.* âventiure (> *nhd.* Abenteuer 出来事、冒険) [afr. aventure]

mhd. valsch (不誠実な) (> *nhd.* falsch 偽りの) [afr. fals]

mhd. vælen (> *nhd.* fehlen 欠けている) [afr. faillir]

mhd. fin (> *nhd.* fein 上品な) [afr. fin]

mhd. palas (> *nhd.* Palast 宮殿) [afr. palais]

mhd. panzier (> *nhd.* Panzer 甲冑) [afr. pancier]

mhd. pris (> *nhd.* Preis 称賛) [afr. pris]

mhd. stival (> *nhd.* Stiefel 長靴) [afr. estival]

(Wilhelm 2007: 97, 須澤・井出 2020: 108)

(22)はフランス語から借用された語である。新しい事物の借用に伴う語の借用により名詞の借用が多いが、ケルト語やラテン語、ギリシャ語からの借用と比較すると動詞や形容詞の借用語もある。フランス語の影響は語の借用のみならず、造語のための接尾辞の借用にも及び、形態的变化にも影響を及ぼした。フランス語からの接尾辞-*ie* (< *afr.* -*ie*), -*ieren* (< *afr.* -*ier*), -*lei* (< *afr.* -*ley*)⁴²がドイツ語の語幹と結合することで、新たな派生語の形成を可能とした⁴³。

(23) *mhd.* jegerie (> *nhd.* Jägeri 狩猟)

⁴¹ Polenz (1978: 53), Wells (1990: 130-132), 須澤・井出 (2020: 107f.)

⁴² 接尾辞-*lei* は現代ドイツ語においてはもはや生産的ではない (Wilhelm 2007: 97)。

⁴³ Schmidt (2007: 97f.), 須澤・井出 (2009: 104)

mhd. zouberie (> *nhd. Zauberei* 魔法)
mhd. halbieren (> *nhd. halbieren* 二分する)
mhd. stolzieren (> *nhd. stolzieren* 威張って歩く)
mhd. manegerleie (> *nhd. mancherlei* 様々な)

(須澤・井出 2020: 104)

(23)はフランス語からの借用が造語のための接尾辞に現れている例である。これらの造語により新しい派生語の創造が可能となった。

フランス語以外の言語もドイツ語に影響を与えた。その例として中世オランダ語が挙げられる。中世オランダ語は13世紀頃にドイツ語から独立した言語として考えられている。オランダは13世紀から16世紀にかけてフランドルとブラバントを貿易拠点として発展し、商業、文化の中心として繁栄したこの地域の言語が市民階級の共通の文章語として使用されていた。中世オランダ語もフランス語同様にドイツ語に影響を与えた。特に、航海、通商、治水技術に関する借用語が多い⁴⁴。

(24) *mnl. afsteker* 小艇による小航行 (> *nhd. Abstecher* 寄り道)
[> *mnl. afsteken* 船付属の小艇を爪竿で本船から突き放す]
mnl. baggheren (> *nhd. baggern* 泥砂をパワーショベルで彫り上げる)
mnl. dijc (> *nhd. Deich* 堤防)
mnl. jageschip 速度の速い船 (> *nhd. Jacht* ヨット)
mnl. stoffe (> *nhd. Stoff* 生地)
mnl. timmerwerf 船大工の仕事場 (> *nhd. Werft* 造船所)
mnl. suut 南へ (> *nhd. Süden* 南)

(Polenz 1978: 71, 須澤・井出 2009: 126)

(24)は中世オランダ語からドイツ語に借用された語である。特に、*Süden* については高地ドイツ語の *Sund* に代替してドイツ語で使用されることになった語である⁴⁵。

⁴⁴ 須澤・井出 (2009: 126)

⁴⁵ Polenz (1978: 71)

1.1.3.3 初期新高ドイツ語、新高ドイツ語における借用語

15世紀末から16世紀の人文主義時代においては古高ドイツ語時代頃までの借用元として主流であったギリシャ語とラテン語からの借用が再燃する。現代ドイツ語で使用されるラテン語由来の学術用語はこの時期に借用された語である⁴⁶。

一方で、同時期に活版印刷術の発明により文字を媒体とするコミュニケーションが拡大し、書きことばとしてのドイツ語が発展する。中世のドイツの公的機関や学術分野におけるの共通言語はラテン語であったが⁴⁷、この時期になるとドイツ語の使用が見られ、書き言葉としての地位も高まりつつあった⁴⁸。とりわけ、この時期のドイツ語は造語言語としてのドイツ語の発展が著しく見られ、造語法が他言語より卓越した言語として発展し始める。

さらに17世紀には文法学者による「標準ドイツ語」が確立され、ドイツ全域に通用するドイツ語を国語として普及させ、ドイツ語を取り巻く社会が急速に変容した時期でもある。しかし、依然としてラテン語の影響は大きく、ラテン語は学問や法制度の書きことばや話しことばとして主流であり、1518年ドイツにおける書籍出版のうちドイツ語で執筆されたものは10%に過ぎず、1570年においても約30%のみで、ラテン語で執筆されたドイツ書は1740年においても全体の28%、1770年においても尚、14%を占めていた⁴⁹。

(25) *nhd.* Akademie アカデミー

nhd. Apotheke 薬局

nhd. Autor 著者

nhd. Bibel 聖書 (< *mlat.* Biblia 書物) [*<gr.* býblos パピルス=フェニキアのパピルス積出港の名前から]

nhd. Bibliothek 図書館

nhd. Diät 治療食、食事療法 (< *lat.* diaeta 規則正しい生活様式)

nhd. diskutieren 討論する

nhd. Dokument 証拠書類、記録

⁴⁶ Moser (1969: 134f.), Polenz (1979)

⁴⁷ 1.1.3.2 参照。

⁴⁸ Polenz (1991: 122), 須澤。井出 (2009: 189)

⁴⁹ Polenz (1978: 92-93)

nhd. Examen 試験
nhd. Fakultät 学部 (< *mlat.* *facultas* 学問分野)
nhd. Familie 家族
nhd. Ferien 休暇
nhd. Gymnasium ギムナジウム
nhd. Horizont 地平線
nhd. komisch 滑稽な
nhd. Litaratur 文学、文献 (< *lat.* *litterātūra* アルファベット、文法)
nhd. Nation 国民、国家
nhd. Operation 手術
nhd. Ozean 海洋
nhd. Philosophie 哲学
nhd. Qualität 質
nhd. Quantität 量
nhd. Religion 宗教 (< *lat.* *religio* 敬神)
nhd. Thema テーマ
nhd. Tradition 伝統 (< *lat.* *trāditiō* 引渡し、教え)
nhd. Universität 大学 (< *spätmhd.* *universitêt* 全学生・教員の共同体 < *spätlat.* *ūniversitās* 組織、団体)
nhd. Zentrum 中心

(Polenz 1978: 93, 1991: 230, 須澤・井出 2009: 195)

(25)は初期新高ドイツ語時代にラテン語からドイツ語に借用された例である。ただし、(25)にはギリシャ語由来の語とその派生語 (Akademie, Bibliothek, Gymnasium, Horizont) も含まれており、ラテン語で書かれた文書からドイツ語に借用された可能性もある⁵⁰。(25)の例に見られるように、学術用語が多いことがこの時代の借用の特徴である。学術用語はラテン語の語をそのまま借用する *Wortentlehnung* としてドイツ語に取り込まれた。ラテン語やギリシャ語がドイツ語にもたらした影響は概して語彙の領域であったが、ギリシャ語

⁵⁰ Polenz (1978: 93)

やラテン語の語幹や造語法により新たなドイツ語の語彙形成も進んだ。ラテン語の語幹と接辞を用いた語が形成され、例えば、solemnitas (Feierlichkeit)に見られるラテン語の接尾辞-itas から外来接尾辞-ität を生成した⁵¹。

(26) inklusive einen Werkzeugkasten

pro Einwohner

qua Vorsitzender

(Eisenberg 2011: 84)

(26)はラテン語の前置詞が現代ドイツ語で振る舞う例である。ラテン語からは接尾辞に限らず、前置詞 *exklusive*, *inklusive*, *kontra*, *minus*, *per*, *plus*, *pro*, *punkto*, *qua*, *versus*, *via* が借用され、それらは現代ドイツ語においても尚、使用されている。

他方、古高ドイツ語時代から続くフランス語からの借用は16世紀から18世紀において、その数が増大する⁵²。その要因として、中高ドイツ語期のような文学領域での借用ではなく、政治領域に関する語の借用が増加したことが挙げられる。とりわけドイツの諸侯たちはカール五世（1500-1558, 在位 1519-1556）とフランス宮廷への羨望からフランス語を介して皇帝や他のドイツ諸侯の宮廷と交流をした。加えてユグノー戦争（1562-1598年）の結果、フランスから追放された各階級のプロテスタントがドイツ国内に避難することでドイツ社会全体にフランス語が波及した。また、依然として多くのドイツ人がフランスに渡り、学問や教養を身につけるため、あるいは兵士や商人として現地でフランス語を学んだ。フランスと交流を深めることで、フランス語からの借用はスペイン語やイタリア語からの借用を大きく超えるものとなった⁵³。

(27) *nhd.* Appetit 食欲

nhd. Armee 軍隊

nhd. Balkon バルコニー

nhd. doppelt 二重の、二倍の (< *frz.* double)

⁵¹ Eisenberg(2011: 83f.)

⁵² Polenz (1978: 105f. 1991: 232-234)

⁵³ Polenz (1978: 105f.)

nhd. Fasson 型、デザイン、ファッション
nhd. Koffer トランク (< *frz.* cofre 長持)
nhd. Kommandeur 指揮官
nhd. kontrollieren 監視する、制御する
nhd. Konversation 会話 (< *frz.* conversation 交際)
nhd. Mode 流行 (< *frz.* á la mode 当世風に)
nhd. nett 親切的な (< *frz.* net 明確な、純粋な)
nhd. Paket 小包
nhd. Pension 年金、ペンション
nhd. renovieren 改装する
nhd. Respekt 尊敬
nhd. Soße ソース
nhd. Tasse カップ、茶わん

(Polenz 1978: 106, 1991: 233, 須澤・井出 2009: 196)

(27)はフランス語から借用された語の例である。とりわけ、フランス宮廷の生活様式に関する語や服飾、料理に関する語が借用され、これらの語は現代ドイツ語でもなお使用されている。しかし、当時借用されて現代ドイツ語では使用されていない語や標準ドイツ語で消滅したが方言には残存するフランス語由来の借用語も存在する⁵⁴。更には音韻と形態においてもドイツ語に影響を及ぼした⁵⁵。

中世においてラテン語やフランス語には及ばない存在であったイタリア語からの借用も新高ドイツ語の時代には顕著に見られる。有力な商業都市であったヴェネツィアとの交流

⁵⁴ Polenz (1978: 105f., 1991: 233)

⁵⁵ フランス語由来の借用語にはドイツ語の音韻体系には存在しないフランス語の鼻母音が存在する。フランス語由来の借用語 *tanz*, *aventure*, *gerzun*, *schanzun* は本来フランス語特有の鼻母音を含む語である。しかし、借用に際して、この鼻母音まで借用されず、発音は「母音+n」で表記された。近代以降になると日常語では軟口蓋鼻音が鼻音化されない母音につけ加えられる語も出現した。例えば、*Balkon* [bal'kō:] に対して [bal'koŋ], [bal'ko:n]、*Restaurant* [resto'rā:] に対して [resto'ran], [resto'rant]、*Orange* [orā:ʒə] に対して [oraŋʒə] が挙げられる。形態的には、複数形語尾-s が 17~18 世紀のフランス語の影響によりドイツ語に導入された。この時代にフランス語から借用された名詞の複数形の多くは語尾-s を採用したが、*Ingenieurs* から *Ingenieure*、*Memoires* から *Memoiren* のように、その後の過程において変容した語も存在する (Polenz 1978: 81, 須澤・井出 2009: 226f.)。

により、商業・経済に関する語がドイツ語に波及した。さらに、ハプスブルク家皇帝マクシミリアン一世とカール五世によるイタリアにおけるフランス王国との戦争の波及により軍事関連の語がドイツ語に借用された。また、16世紀から17世紀においてはイタリア宮廷文化の影響を受けたウィーンとミュンヘンの宮廷を介して音楽と文学に関する語が借用された⁵⁶。

- (28) *nhd.* Alarm 警告 (< *ital.* all'arme 武器を取れ)
nhd. Alt 女性の低音 (< *ital.* alto 高い)
nhd. Bank 銀行 (< *ital.* banco 両替台 = Bank <ベンチ) のゲルマン語形からの借用語)
nhd. Bass 男性の低音 (< *ital.* basso 低い)
nhd. Fresko フレスコ (< *fr.* fresque < *ital.* fresco 新鮮な)
nhd. Kanal 運河、水路 (< *ital.* canale 運河、水路)
nhd. Kartoffel ジャガイモ (< *fr.* Tartoffel < *ital.* tartufolo 茸のトリュフ)
nhd. Kasse 金庫、レジ (< *ital.* cassa 箱、レジ)
nhd. Konto 口座 (< *ital.* conto 勘定)
nhd. Kontrast コントラスト (< *ital.* contrasto 対照、対比)
nhd. Konzert コンサート (< *ital.* concerto 競争)
nhd. Million 百万 (< *ital.* milione 多数、年千もの数)
nhd. netto 正味で、手取りで (< *ital.* netto 純粋な、きれいな)
nhd. Porzellan 陶磁器 (< *ital.* porcellana 寶貝)
nhd. Post 郵便、郵便局 (< *ital.* posta 特定の居所)
nhd. Prozent パーセント (< *ital.* per cento 百に対して)
nhd. Risiko リスク、危険 (< *ital.* ris[i]co 海中に突出した岩礁、障害)
nhd. Soldat 兵士 (< *ital.* soldato; soldare 兵隊・下士官の給料を受け取る人)
nhd. Spaß 楽しみ、冗談 (< *ital.* spasso; spassare まき散らす)
nhd. Tenor 男性の高音 (< *ital.* tenore 標準)
nhd. Zitrone レモン (< *ital.* citrus < *lat.* citrus レモンの木)

⁵⁶ 須澤・井出 (2007: 194f., 259f.), Eisenberg (2011: 65f.)

(Polenz 1991: 234-235, 須澤・井出 2009: 195-196, Eisenberg 2011: 65f.)

(28)はイタリア語からの借用された語の例である。イタリア語からは金融、軍事、建築、芸術、音楽領域の語が借用された。イタリア語からの借用語は古高ドイツ語や新高ドイツ語におけるラテン語やフランス語の数には決して及ばないが、この時期に借用された語は現代ドイツ語においても使用されている。しかし、本来その借用語がイタリア語由来でドイツ語に借用されたとしても、フランス語の影響により、それらに対応するフランス語の音形をとることもあった⁵⁷。

15世紀から16世紀はスペインの大航海時代でもある。新高ドイツ語にもスペイン語由来の借用語が流入した。

- (29) *nhd.* Hängematte ハンモック (< *span.* hamaca カリブ海ハイチ起源の語。)
nhd. Kakao ココア (< *span.* cacao)
nhd. Kannibale 人食い人種 (< *span.* canibal)
nhd. Mais トウモロコシ (< *span.* maiz)
nhd. Schokolade チョコレート (< *span.* chocolate)
nhd. Tabak タバコ (< *span.* tabac)
nhd. Tomate トマト (< *frz.* tomate < *span.* tomate)
- (Polenz 2000: 222, 須澤・井出 2020: 196f.)

(29)はスペイン語由来の借用語の例である。これらの例に見られるように、新しい事物と共に語も借用されたことから、*Wortentlehnung* としてドイツ語に借用された。スペイン語由来の借用語もイタリア語由来の借用語同様に、ラテン語やフランス語からの借用数には決して及ばないが、借用された語は現代ドイツ語でも今なお使用されている。

これらの言語から借用が増加した背景に、貿易での交流や傭兵の交流、ドイツ人の留学により外国との接触が増加した社会変容がある。フランス語は当時の外交語であり、社交上の言語としてその地位を確立した。その結果、17世紀後半から18世紀前半にかけて

⁵⁷ Polenz (1978: 105f.)

ドイツ国内での言語は、学術語としてラテン語、社交・外交語としてフランス語、文学語としてドイツ語が存在することとなった⁵⁸。

18世紀頃になると学術分野や社交上の言語はラテン語に代わり、フランス語が使用されることになり、ドイツ国内はそれまでのラテン語との言語併用状態からドイツ語とフランス語の二言語併用状態に変容した。他方で17世紀から19世紀は国語浄化と国語育成の高まりによる「標準ドイツ語」の確立とともに、ドイツ語浄化への取り組みが加速し、他言語からの借用に対して消極的にもなった。外来語の使用に対する抵抗は三十年戦争以前から始まっていたが、初期段階においては持続的ではなかった。しかしラテン語やフランス語からの借用語が増加する一方で、これらの洗練された言語と太刀打ちできる水準にまでドイツ語の水準を高めようとする動きが始まった。1617年にはWeimarでイタリア同様に母国語の育成を目指す団体（Fruchtbringende Gesellschaft：実りを結ぶ会、別名Palmenorden：椰子の会）が設立され、後に多岐にわたる言語協会（Sprachgesellschaft）⁵⁹も設立された。これらの団体には文法学者や言語学者、作家や詩人等の著名な人物が所属した。これらの団体はドイツ語の保護と浄化、統一されたドイツ語の育成を目指したが、ドイツ語の発展に大きな影響を与えることはなかったとされる。しかし、これらの団体はフランス語を中心とする外国語に倣ってドイツ語に文学的な言語表現を導入するために翻訳活動に力を入れたことにより、多くの外国語や外来語をドイツ語化するに至り、新造語による外来語形は現代ドイツ語にも残り、ドイツ語の語彙を豊かにした⁶⁰。特徴的なことは、ドイツ語における造語手段の確立である。つまり、外来語のドイツ語化や専門分野や

⁵⁸ 須澤・井出（2009: 259）

⁵⁹ 同時期に設立された言語協会には、樅の木の誠実な会（die Aufrichtige Gesellschaft von der Tannen：1633年設立）、ドイツ的志向の組合（die Deutschgesinnte Genossenschaft：1642年設立）、ペグニッツの花の会（der Pegnesische Blumenorden：1644年設立）、エルベの白鳥会（der Elbschwanenorden：1656年設立）がある（Polenz 1978: 108f., 須澤・井出 2009: 216f.）。

⁶⁰ 外国語や外来語をドイツ語化することで生じた新造語は現代ドイツ語にも残っている。例えば、Beistrich（< Komma）, Doppelpunkt（< Kolon）, Fragenzeichen（< *lat.* *signum interrogatiōnis*）, Zahlwort（< Nummerale）, Zeiwort（< Verbum）, Aufzug（< Akt）, beobachten（< *observoeren*）, Briefwechsel（< Korrespondenz）, Fernglas（< Teleskop）, Geschmack（< Gusto）, Irrgarten（< Labyrinth）, Anschrift（< Adresse）, Augenblick（< Moment）, Bücherei（< Bibliothek）, Entwurf（< Projekt）, Grundstein（< Fundament）, Leidenschaft（< Passion）, Oberfläsche（< *lat.* *superficiēs*）, Rechtschreibung（< Orthographie）, Tagebuch（< Journal）, Trauerspiel（< Tragödie）, Verfasser（< Autor）, Vertrag（< Kontrakt）が挙げられる。他方、Lehnbedeutungの手法を用いて借用した語もある。例えば、Abstand（間隔<放棄）, Bedeutung（意味, 意義<解釈）, Begriff（概念<範囲）, Versuch（試み<努力, 企て）, Verständnis（理解<思考力, 合意）, Wissenschaft（学問, 科学<知識）がある（須澤・井出 2009: 218）。

科学論文における専門用語を体系化することで、ドイツ語は造語力のある言語となった。他言語の事物をドイツ語で命名する際に名詞の造語力を駆使して、つまり、意味的に透明であることを条件に合成語を新造した。これらの一連の流れを受け、さらにドイツ語を国語とする言語教育も行われたことでドイツ国内に文章語としてのドイツ語が浸透した。しかし、依然としてフランス語からの借用には寛容な態度で、18世紀において全借用語の半数がフランス語由来であった⁶¹。

18世紀末以降は借用語による多大な影響がドイツ語に及ぶことは減少していったが⁶²、19世紀以降もなお国語浄化主義（Sprachpurismus）や外国語排除は続いた⁶³。

1.1.3.4 現代ドイツ語における借用語

反ナポレオン感情を含む外国語（フランス語）排除運動とドイツナショナリズムに動機づけられた外国語排除運動は排他的思想と相関関係となった。ドイツ帝国が1871年に成立すると、外国語純粋主義は公的に組織されるようになり、外来語のドイツ語化が一層進められた。

1800年頃におけるドイツ語への借用は英語からは8%に過ぎず、ラテン語から26%、フランス語から58%であったが、19世紀終わりには英語とフランス語からの借用語は40%、1920年頃には英語からは55%に増加し、一方のフランス語からは35%に減少した⁶⁴。18世紀までのフランス語からドイツ語への波及はその後衰退するが、他方で英語から

⁶¹ Polenz(1978: 105f.), 須澤・井出 (2009: 261)

⁶² フランス語からの借用語は全借用語において16世紀には約1割、17世紀には約4割、18世紀には半数となったが、19世紀には半数を下回り20世紀には2割に減少した。18世紀に借用されたフランス語はその約7割が依然としてドイツ語に残っている（須澤・井出2009: 260f.）。

⁶³ Polenz (1978: 108f.), 福本(1980: 206f.), Schmidt (2007: 154f.), 須澤・井出 (2009: 216f.)

⁶⁴ Eisenberg (2011: 48)

の借用は増加する。英語からの借用語は 17 世紀半頃から認められるが⁶⁵、とりわけ 19 世紀頃から借用数が増加する⁶⁶。

19 世紀は技術的革命に代表される時代でもある。1830 年代以降において、イギリスが発端の産業革命がドイツにおいても進行した。1850 年代から 60 年代にかけて経済的大変革が生じ、農業国であったドイツが 19 世紀末には世界の主要工業国の一つにまで成り得た。社会的変容に伴い、言語においても新語が形成され、特に、技術及び工業の領域、交通・交流と報道の領域、学問、政治、モード（ファッション）、社会生活の領域で著しく新語が見られた⁶⁸。

17 世紀以降にはすでにロシアとの交流によりロシア語がドイツ語へ波及していたが、特に、海運と毛皮貿易に関する専門用語を借用した。第二次世界大戦後に分断されたドイツにおいては、特にドイツ民主共和国（以下、DDR）ではソビエト連邦（以下、ソ連）との関係が密であったことから、ロシア語の影響が見られた。しかし、それは言語構造の相違や心理的距離間から大きな影響力はなく、語彙レベルのみであった。借用語の中には、ロシア語の語を直接ドイツ語に取り入れる *Wortentlehnung* として借用したものもあれば、ドイツ語化して借用した語句、*Lehnbedeutung*（意味借用）として借用した語もある⁶⁹。

⁶⁵ 1649 年にイギリス王チャールズ一世が追放され、1653 年にクロムウェルが実権を握ったことによる清教徒革命（ピューリタン革命）により、ヨーロッパとの交流が発展し、言語においても借用語が見られた。

⁶⁶ フランス語からの借用語の例として、19 世紀前半（1820 年から 1835 年頃）に借用された *integrierend, Loyalität, Expansion, Attaché, Bluse, Kollier, Plumeau, Depression, normieren, Chaiselongue, Elan, Masseur, Restaurant, Claqueur, Gastronom, virtuell, banal, flanieren, Prestige, repressiv, Beau, doktrinär, Hausse, markant* があり、20 世紀前半（1900 年から 1930 年頃）に借用された *Œuvre, Pazifist, Voyeur, Charmeur, Reportage, Semantik, sportiv, Sabotage, Tristesse, Surrealismus* が挙げられる。（Eisenberg 2011: 61f.）

⁶⁷ 英語からの借用語が多い中、英語以外からの借用語も存在する。その例として、フランス語から *Beton, Kostüm, Krawatte*、チェコ語から *Polka*、スペイン語（メキシコ）から *Tomate* がある（Moser 1969: 172f.）。

⁶⁸ 新語は借用語も含み、形成された。19 世紀に英語から借用された語の例として、技術・交通の領域では、*Tender, Waggon, Lift, Pier, Start, Stewardress, Trimmer, Tunnel, Club, Tramp*、経済・金融の領域では、*Budget, Pantry, Pool, Trust, Scheck, Safe, Shop, Standard*、政治領域では、*Boykott, Mab, Streik, Rowdy, Show, Tabu* が挙げられる（Eisenberg 2011: 47f.）。

⁶⁹ 直接借用の例として、*Bolschewik(i), Kolchos(e), Sowchos(e), Sputnik, Subbotnik, Datsche, Agrotechnik, Mechanisator, Kollektiv, Partisan, Exponat* がある。ドイツ語化され借用された語句の例として、*Plankommission, Kulturpalast, Fernstudium, Pädagogischer Rat, Schülertagebuch, Kurscheck, Held und Arbeit, Verdienter Arzt/ Lehrer ... des Volkes, mit der Sowjetunion an der Spitze, im Ergebnis der Konferenz* がある。意味を借用した語の例として、*Pionier, Freundschaft, Kandidat* がある（Schmidt 2007: 181f.）。

ハンガリーとの接触によりハンガリー語からの借用も存在する。ハンガリーとの接触は、政治的に密な関係を築いていたオーストリアを介しており、ドイツ国内で使用されるドイツ語よりオーストリアドイツ語でその借用語は顕著にみられる⁷⁰。

トルコ語からの借用も 17 世紀以前から存在する。トルコとの交流、および他の国や地域との交流の中継地としてのトルコとの交流は経済的、文化的交流、観光、ドイツのトルコ系住民との交流による接触により、ドイツ社会へ波及し、その過程で語が借用された⁷¹。

1945 年以降においてはイタリア語からの借用語も存在する⁷²。戦後のドイツにイタリアから多くの外国人労働者が入り、そしてイタリアはドイツ人にとって余暇を過ごす場所として発展した。この時期のイタリア語からの借用語は、飲食に関する語がその多くを占めていることが特徴である⁷³。

このように現代ドイツ語ではなお、フランス語からの借用語も存在するものの、社会変容と共に国際語に成り代わった英語からの借用語の数が増加する。本研究の対象である *Anglizismus* がこれに該当するが、1950 年以降におけるドイツ語における *Anglizismus* については 1.2 で概観する。

1.2 ドイツ語で使用される *Anglizismus*

古高ドイツ語や新高ドイツ語時代にはラテン語やフランス語がドイツ語に波及していたが、18 世紀には *Humour*, *Pudding*, *Parlament* のような英語からの借用語がドイツ語で使用されるようになり、19 世紀には *Klub*, *Roastbeef*, *Sport* が借用され使用されていた⁷⁴。20 世紀になるとさらに多くの語がドイツ語に借用され、その中には直訳借用語も含まれる

⁷⁰ ハンガリー語からの借用語の例として、*Dolmetscher*, *Gulasch*, *Husar*, *Kandare*, *Paprika*, *Tolpatsch* が挙げられる (Eisenberg 2011: 40f.)。

⁷¹ 飲食関係の例として、*Köfte*, *Döner*, *Pide*, *Manti* が挙げられる。 (Eisenberg 2011: 42f.)

⁷² イタリア語の影響は既に 15 世紀頃からドイツ語へ及んでいた (1.1.3.3 参照)。

⁷³ 例として、*Antipasti*, *Balsamico*, *Cannelloni*, *Cappuccino*, *Carpaccio*, *Espresso*, *Gnocchi*, *Mozzarella*, *Pasta*, *Penne*, *Pesto*, *Pizza*, *Prosciutto*, *Prosecco*, *Ravioli*, *Rucola*, *Scampi*, *Tagliatelle*, *Tortellini*, *Zucchini*, *Zabaione* がある。 (Eisenberg 2011: 69f.) 他方、*al dente*, *Ambiente*, *Catenaccio*, *Direttissima*, *Galleria*, *Graffito*, *klaro*, *Libero*, *Mafioso*, *Neutrino*, *paletti*, *Paparazzo*, *Schickeria*, *Stiletto*, *Szenario* もイタリア語からの借用語として挙げられる。

⁷⁴ 荻野・斉藤 (2015: 413f.)

75. フランス語由来の語が Gallizismen と呼称されることに倣って、英語由来の語は Anglizismus (pl. Anglizismus) と表現される。

戦後ドイツにおけるドイツ連邦共和国 (以下、BRD) と DDR での Anglizismus の使用においては、DDR では第一外国語としてロシア語が導入され、ドイツ語へもロシア語の影響が及んだ⁷⁶。一方の Anglizismus は、ロシア語を経由してドイツ語に借用された。その例として Festival, Kombine, Dispatcher, Meeting が挙げられる⁷⁷。しかし、この時期に借用された Anglizismus には BRD と DDR で使用する語義の相違がある語もある。例えば、Dispatcher は DDR では「作業主任」であるが、BRD では「(工場・鉄道などの) 管制主任」、Meeting は DDR では「政治的大集会」であるが、BRD では「会合」として用いられていた⁷⁸。

BRD における英語の存在は大きく、ドイツ語への英語の影響は総じて普遍的のものとなり、DDR と比較すると、その影響は多大であった。直接借用された語として、スポーツ分野では Tiebreak, Service、美容分野では Moisture, Lip Gloss、ファッション分野では Coordinate, Dress-Shirt がある。その他にも Single, Kids, Deadline 等の Anglizismus が見られる⁷⁹。さらに疑似借用、いわゆる「独製英語」の形成も見られ、これは英語がドイツ語に大きな影響をもっていることの表れである⁸⁰⁸¹。

では英語からの借用語はドイツ語にどの程度同化しているのだろうか。この点に関してはなお不明な点が多く、調査が進められている。発音・正書法においては、英語の sh をドイツ語では sch に変化させることや、c を k で置き換えることで表記上ドイツ語化させ

⁷⁵ 直訳借用は借用元の言語で使用されている語を借用した言語の語で表現するものである。英語からの直訳借用語の例として Schlagwortwolke (< tag cloud), Kollateralschaden (< collateral damage), herunterladen (< down load), Suchmaschine (< web search engine) が挙げられる。(荻野・齋藤 2015: 414)

⁷⁶ 1.1.3.4 参照。

⁷⁷ Schmidt (2007: 191f.)

⁷⁸ Schmidt (2007: 192)

⁷⁹ Schmidt (2007: 192)

⁸⁰ 疑似借用は英語の形態素と英語と同様の造語法を用いる語構成の一つである。その例として、Quizmaster に倣い、ドイツ語では Showmaster (ショーの司会者), Talkmaster (トークショーの司会者) や Dressman (男性ファッションモデル) が挙げられる。(Schmidt 2007: 192f.)

⁸¹ 英語の単語にドイツ語の語尾をつけた混合形式を「独英語」(Denglisch) と呼称することを示し、その例として anklicken (< click), recyceln/ recyceln (< recycle), canceln (< cancel), downloaden (< down load) が挙げられる。また、英語に存在しない「独製英語」として Handy (engl. mobile phone) が存在する。(荻野・齋藤 2015: 414)

て使用する語も存在するが、全ての語が共通してドイツ語化されるわけではない⁸²。また、形態的には複数形や動詞の人称変化等がなお定まっていない語もある。ドイツ語化された場合、英語の動詞や形容詞のような語彙はドイツ語の文法規則に従い使用され、そして意味的側面⁸³による影響、さらには統語的な変化も生じる。

- (30)a. [im Jahr]1989
b. *in 1989
- (31)a. normaler
b. mehr normal (< more normal)
- (32)a. sich an etwas erinnern
b. *etwas erinnern (< remember)

(荻野・齋藤 2015: 414)

(30-32) a は一般的なドイツ語で表現される語句の例で、b は英語の影響で統語変化が生じる例である。(30)は「1989年に」という表現である。ドイツ語では *im Jahr* と共に用いるか、年号のみで(30a)のように表記するのが一般的である。しかし、英語で一般的に使用される表現に影響され、(30b)のように前置詞 *in* のみとの共起で使用する例がドイツ語で観察できる。(31)は形容詞 *normal* の比較級についてである。形容詞 *normal* は独英において同じ表記でほぼ同義である。*normal* の比較級はドイツ語では通常、(31a)のように比較級の語尾 *-er* を付加させるが、英語では *more normal* という形で使用される。(31b) は英語の比較級の用法に影響され、*mehr normal* と使用する例である。(32)は動詞 *erinnern* の用法についてである。「何かを思い出す」と表現する場合、ドイツ語では通常、再帰代名詞 *sich* と前置詞 *an* と共に用いて(32a)のように表現する。しかし英語の動詞 *remember* はドイツ語の *erinnern* に意味的に類似した語で再帰代名詞や前置詞は伴わない。その影響を受

⁸² 例えば *action* を発音する時に [aktsio:n]ではなく、[ekʃən] (Duden (2007)で *Action* は [ækʃən]と表記されている) と発音されるように、ドイツ語化されず発音されることが多い (須澤・井出 2007: 314)。

⁸³ 借用語がドイツ語で使用される場合とドナー言語での場合に差異が生じる場合もある。例えば、ドイツ語 *Keks* は英語 *cakes* に由来する語であるが、ドイツ語は「ビスケット」を指し、英語では「ケーキ」「洋菓子」を指す。ドイツ語 *City* と英語 *city* も同様に、ドイツ語では「中心地区」「繁華街」を指すのに対し、英語では同様の語義も含有するが、「(行政上の)市」も指す。このように、ドナー言語の語義と比較すると受容言語の語義は限定化されていることが多い。(須澤・井出 2009: 313f.)

け、(32b) はドイツ語 *erinnern* を再帰代名詞と前置詞を用いることなく表現する例である。このように、英語からの借用は単純に語彙を借用するだけではなく、句や文構造を借用し、統語的にも影響を与えることもある。英語からの借用は17世紀半ばから始まり、その使用はドイツ語で年々増加傾向にある⁸⁴。

以下ではドイツ語で使用される *Anglizismus* について 1.2.1 通時的分析、1.2.2 借用語と *Anglizismus* に対する批判、1.2.3 *Anglizismus* の定義、1.2.3.4 *Anglizismus* の例について概観し、*Anglizismus* の全容を紐解く。

1.2.1 通時的特徴

ドイツ語における英語の借用は現代において突如として現れたものではなく、17世紀中期頃にはすでに *Anglizismus* はドイツ語に存在していた⁸⁶。ドイツ語へ借用される *Anglizismus* の増加に深く関係する社会的背景の一因としてイギリス革命⁸⁷による民主化や産業革命が挙げられる。17世紀は政治的にイギリスが勢力を拡大していた時期であり、これが英語の語彙がドイツ語へ流入する背景として影響していた⁸⁸。17世紀から18世紀にかけて、特に *Anglizismus* を使用する頻度が高かった領域の専門用語として、行政機関や法律用語、軍事用語、建築や造園・堡壘技術に関する語、食や飲料に関する用語、音楽や文化、服飾・美容に関する用語、流行に関する語、役職名や呼称・称号に関する語がある。以下がその例である。

(33)a. Bowle, boxen, Brise, City, Clan, Club, Elfe, Farmer, Grog, Jobber, Meeting, Mob, Mull,

⁸⁴ Eisenberg (2011:86)

⁸⁵ あらゆる領域において英語の影響が及んだ。例えば、スポーツ領域では *Clice, Lob, Tiebreak, Service, Pole-Position*、コスメティック領域では *Cold Cream, Lip Gloss, Moisture*、ファッション領域では *City-Shirt, Dress-Shirt, Coordinate, Tails*、その他の領域では *Single, Kids, Callgirl, Starlet, Caravan, Jitterbug, Pampers, Wrigley, Layouter, Joint, Plunger, Deadline, Mobbing* が挙げられる。また、余暇・娯楽の関連技術領域、経済・商業領域に加え、*Interviewer, popping, Nonstop-Flug, Körper-Spray, Computerei* のようなドイツ語と英語を混合する合成語 (*Mischkomposita*) も出現した (Schmidt 2007: 193f.)。

⁸⁶ Schmidt (2007: 133), Eisenberg (2011: 47) 及び 1.1.4.4 参照。

⁸⁷ イギリスで生じたピューリタン革命 (1642年に始まり、1649年に Charles I. を処刑した後、後に共和国を樹立した。別称は清教徒革命。) と名誉革命 (1688年から1689年に生じた無血革命。) の市民革命を指す。

⁸⁸ 1.1.3.4 参照。

Pony, Sandwich, Schal, Stopp, Spleen, Ticket, Toast, Trick, Twist

- b. lightning-conductor/ Blitzableiter, freethinker/ Freidenker, coffehouse/ Kaffeehaus,
visiting card/ Visitenkarte

(Eisenberg 2011: 47f.)

(33)は18世紀にドイツ語に借用された語の例である。(33a)は *Wortentlehnung* としてドイツ語に取り入れられ、英語の要素を保持している例である。*boxen* のように動詞であれば語尾-enを不定詞として人称変化することが推測される。しかし、*Brise, Elfe, Mull* のように完全にドイツ語化されていない語も存在する。(33a)の多くの語は単音節である。(33b)は英語の複合語を *Lehnübersetzung* としてドイツ語に直訳した語の例である⁸⁹。

19世紀後半以降は世界において科学分野の発展と帝国主義の時代となり、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語が広く話されるようになった。ドイツ国内においては従来の借用元であったフランス語より英語が主要な外国語となり、他分野の借用が見られるようになった。

技術・交通

- (34)a. Tender, Waggon, Lift, Pier, Start, Stewardess, Trimmer, Tunnel, Cab, Tramp
b. Express, Viadukt, Pneumatik, Telegramm, Teleskop, Traktion, Zentrifuge
c. Komfort, Lokomotive, Kabine, Magazin, Plattform, Propeller, Pullman, via

経済・金融

- (35)a. Budget, Pantry, Pool, Trust, Scheck, Safe, Shop, Standard
b. Abstinenz, Portfolio, Präserven, Prolongation, Transaktion
c. Lombard, Rekord, Konsols, Partner

政治

- (36)a. Boykott, Mob, Streik, Rowdy, Show, Tabu
b. Agiration, Demonstration, radikal, Imperialismus, international, konservativ, Legislatur,

⁸⁹ Eisenberg (2011: 47f.)

Sozialismus, Vulgarismus

c. Interview, Report, Verdikt, Pamphlet, Snobismus

(Eisenberg 2011: 49f.)

(34-36)は19世紀に技術・交通、経済・金融、政治の領域で英語から借用された語の例である。aは英語と考えられる語、bは広義的にラテン語系の表現、cはAngloromanismus⁹⁰の例である⁹¹。

1945年以降、ドイツ国内の占領とアメリカ関連の同盟政策を通じた英米起源の国際主義により、政治、軍事、経済の領域の国際機関を持つ全ての西ヨーロッパ諸国で国際共通語としての英語が促進された⁹²。その結果、現代においてドイツを含むヨーロッパのみならず、世界における普遍的な言語としての英語の影響がドイツ語にも波及している。1945年以降においてドイツ国内では外国語、特に英語に対する排除運動が高まっているにもかかわらず、Anglizismusの増加は顕著に見られるようになり、新しい英語の語がドイツ語に加わると日常生活においても使用されるに至っている⁹³。但し、Busse (1993)によるとAnglizismusの割合は1880年から1986年に総語彙数の1.36%から3.46%に微増したのみであった。これについてはAnglizismusの割合のみがドイツ語形成における借用語の中で突出しているわけではなく、従来のラテン語やフランス語からの借用語が英語からの借用語になった、つまりドナー言語が替わったのみだという考えもある⁹⁴。尚、これまでの借用語に見られた現象と同様に、Anglizismusとして借用された語彙数の中には消滅した語も含まれることを考慮しなければならない。

- (37)a. Bluff, Outsider, parken, Party, Poker, Pullover, Pumps, Rate, Set, Slogan, Spray, Sprint, Spurt, Tank, Taxi, Team, Test, Thriller, Trenchcoat, Trend, Vamp, Weekend
- b. Attraktion, Chiropraktik, Mentalität, Reservation, Stenotypist, Technokratie, Telepath

⁹⁰ Angloromanismusとは、英語におけるロマンス語の特徴のある語を指す。尚、AngloromanismusはAnglo+Romanismusから成る造語で、RomanismusはDUDEN ONLINE (2023年5月28日)によると非ロマンス語におけるロマンス語に特徴的な形態を有する語を指すことから、上記訳を適応させる。

⁹¹ Eisenberg (2011: 47f.)

⁹² Polenz (1999: 400f.)

⁹³ Hoberg (2000: 306f.)

⁹⁴ Polenz (1999: 402f.)

c. Globetrotter, Prosperity, Radio, Service, Sex-Appeal, Society, Spiritual, Vitamin

(Eisenberg 2011: 51)

(37)は20世紀末までにドイツ語に借用された語の例である。aは英語と考えられる語、bは広義的にラテン語系の表現、cはAngloromanismusの例である。この時期の英語の影響は広範囲に及び、日常生活から科学にまでその影響が及び、それらに関する語がドイツ語に借用された⁹⁵。

1.2.2 借用語とAnglizismusに対する批判

17世紀以降に発展した国語浄化主義や外国語主義はラテン語やフランス語に対する主張であったが、Anglizismusも同様に批判の対象となった⁹⁶。

17世紀から19世紀は国語浄化と国語育成の意識が向上し、「標準ドイツ語」の確立とともに、ドイツ語浄化への取り組みが加速した時期でもある。それにより、従前のラテン語やフランス語からの借用に対して寛容であった状況は一変し、他言語からの借用に対して消極的となった。他言語からの借用により生じた語の使用に対する抵抗は、三十年戦争以前から始まっていたとされるが、初期段階における抵抗は持続しなかった。同時期にラテン語やフランス語からの借用語が増加する一方で、これらの洗練された言語と太刀打ちできる水準にまでドイツ語の水準を高めようとする動きが始まり、1617年にはWeimarでイタリア同様に母国語の育成を目指す団体（Fruchtbringende Gesellschaft：実りを結ぶ会、別名Palmenorden：椰子の会）が設立され、後に言語協会（Sprachgesellschaft）も設立された。これらの団体はドイツ語の保護と浄化、統一されたドイツ語の育成を目指した。しかし、依然としてドイツ社会はフランス語からの借用には寛容な態度であり、18世紀における全借用語の半数がフランス語由来であった。

国語浄化主義や外国語排除は、17世紀から18世紀における文学にも影響を与え、ドイツ語育成のための言語浄化活動が盛んに行われた。17世紀における啓蒙初期段階の言語浄化活動では、学術分野において標準ドイツ語の使用が見られるようになる。とりわけ、Willhelm Leibniz（1646-1716）は言語浄化活動に積極的に関わっており、Leibnizはドイツ

⁹⁵ Eisenberg (2011:52)

⁹⁶ 1.1.3.3 参照。

語の表現が存在しない、もしくは造語できない場合の借用語の使用は理解しており、ドイツ語を正確に使用することを目的としていた。古典主義の Johann Wolfgang von Goethe (1749-1832) も言語浄化に関わっており、ドイツ語の語彙に影響を与えた。Goethe は借用語を使用せず既存のドイツ語で表現することでドイツ語を確立しようとした。しかし、一方で、Goethe はドイツ語純粋主義には反対しており、ドイツ語は外国語を吸収することで自分のものにする能力があることを確信していた。他方、Jacob Grimm (1785-1863) は、ドイツ語という言語に内在する力を信じ、外部から言語浄化の介入を必要とせず、ドイツ語自身が規制できると確信していたため、過激な言語浄化活動者を批判した。

18 世紀末以降は借用語による多大な影響がドイツ語に及ぶことは減少したが、19 世紀以降もなお、国語浄化主義 (Sprachpurismus) や外国語排除は続いた。この時期になると、ドイツ語は確固たる地位を築いていた。それにもかかわらず、積極的な言語浄化活動は 19 世紀まで継続した。19 世紀初頭には言語純粋主義者がより多く存在するようになり、その中でも特に有名な人物として、哲学者 Johann Gottlieb Fichte (1762-1814)、歴史学教授で政治家の Ernst Moritz Arndt (1769-1860)、「体操の父」として著名な Friedrich Ludwig Jahn (1778-1852) が挙げられる。特に、Arndt は “Über Volkshaß und den Gebrauch einer fremden Sprache” (1813) を発表し、ドイツ語の保護とフランス語の追放を目的とする「ドイツ社会」の構築を提案した。つまり、同時期における言語浄化活動は個人的活動を超越した社会的、国家的な活動であった⁹⁷。1871 年にドイツ帝国が成立すると、国家運営の多分野において統一された用語が必要となり、言語純粋主義者が関与する好機が訪れ、語彙のみならず、スペルも標準化された。Sprachverein (国語協会) を創設した Herman Riegel は „Gedenke , auch wenn du die deutsche Sprache sprichst, daß du ein Deutscher bist!“ と国民に要求し、ドイツ国民の名誉の義務とした。Sprachverein の会員の多くは行政職員であり⁹⁸、まさに言語浄化活動は国家的な活動の一つになっていた。行政分野の中でも、1875 年に郵便制度に関する 760 の外国語 (主にフランス語) をドイツ語にする条例を制定した他、交通分野においても多くの外国語がドイツ語化された時期でもある⁹⁹。

⁹⁷ Dewald (2008: 11f.)

⁹⁸ Polenz (1978: 160f.)

⁹⁹ 郵便制度に関する語の例として、recomman-dieren は einschreiben、telephon は Fernsprecher、poste restante は postlagernd にドイツ語化された。他方、交通機関に関する語の例として、Perron は Bahnsteig、Coupé は Abteil、Passagier は Fahrgast、Billet は Fahrkarte、Station は Bahnhof にドイツ語化された (Polenz 1978: 160)。

一方、第一次世界大戦を経て、Hitler 政権になると 1940 年に言語純化を禁じる法令を發布し、1945 年以降は公的な外国語排除は行われなくなり、これは Sprachverein の後続組織 Gesellschaft für deutsche Sprache においても同様であった¹⁰⁰。第一次大戦以降はアメリカが経済的に強い影響力を持ち、1945 年以降の西ドイツでは、政治、軍事、経済の分野で国際組織と共にアメリカとの同盟政策により、英米の専門用語が西ヨーロッパの全ての国で混合言語、あるいは多言語化するほど普及した¹⁰¹。

Mannheim のドイツ語研究所 (Das Institut für Deutsche Sprache) は世論調査機関と共に、1997 年 10 月から 12 月にかけて母語に対するドイツ人の見識を調査した¹⁰²。調査は、①現代ドイツ語の発展、②ドイツ語の地域差、③言語の東西関係、④ドイツ語およびその他の国内言語、⑤EU 域内の他の言語に関連するドイツ語、の 5 つのトピックに関して実施された。その結果、Anglizismus に関連する以下の 5 つの特徴的な回答により、Anglizismus に対するドイツ語話者の見解が表面化された¹⁰³。

- i. ドイツの成人人口のほぼ半数が言語問題に強い関心を抱く一方、半数がほとんど、または全く言語問題には興味がない。
- ii. 調査対象者の約 4 分の 1 が、現在の言語発展に疑問があると考えており、4.8%のみが言語発展が力となると回答した。
- iii. Anglizismus は現在の言語発展のうち否定的に評価された現象であった。
- iv. 将来的にも EU 域内での多言語主義の維持を回答者の 70.6%が希望している。
- v. 19%が将来的にドイツの公的場面におけるコミュニケーションは成立すると考えており、ドイツ語なしでのコミュニケーションについて約 40%がそのような言語発展には利点と欠点の両面を持ち合わせていると考え、さらに 40%がその状況について悪いと評価している。

¹⁰⁰ ただし、1933 年以降、同協会の業務は継続しており、国家社会主義者の文章や宣言に含まれる外国語について、ドイツ語化の提案をするとともに「不純な」外国語を好むことを批判し、継承語彙に由来するドイツ語のみが適切であるという主張をした。(Dewald 2008: 22f.)

¹⁰¹ Polenz (1978: 141f.)

¹⁰² Stikel(1999: 19), Hoberg(2000: 309f.)

¹⁰³ Stikel (1999: 42f.), Hoberg (2000: 309f.)

この調査結果より、ドイツ語話者が日常的に英語や *Anglizismus* と接触することで、その多用がドイツ語に影響を及ぼしかねないと危惧していることが判明した。しかし、*Anglizismus* に対する批判的な感情を抱く要因は不明である。そこで、Hoberg (2000: 311f.)は *Anglizismus* に批判的な約 330 人の意見を基に、*Anglizismus* の影響が拒絶されている 4 つの要因を挙げている。

- a. *Anglizismus* は不要であると考えられており、*Anglizismus* の語が新しいほど不要である語と認識され、非難の対象となる。
- b. 多くの人が英語を十分に理解できておらず、*Anglizismus* の使用により相互理解が難しくなる。
- c. *Anglizismus* を使用するにあたり、話者は心理的に誇示しているだけである。
- d. *Anglizismus* を使用する人はドイツ人としてのアイデンティティーに問題を抱えており、ドイツ語の使用を放棄している。

これらの要因は *Anglizismus* に対する批判者の主観と見られる。特に a. に挙げられる「新しいほど不要な *Anglizismus*」に関連して、どの語が不要なのかという議論は不毛である¹⁰⁴。他方、1997 年に VWDS (Verein zur Wahrung der deutschen Sprache) として創設された現在のドイツ語協会 (Verein Deutsche Sprache : VDS) はドイツ語化に積極的に取り組んでおり、英語の置き換えを積極的にした。*überflüssiger Anglizismen* (1998)¹⁰⁵では、*Anglizismus* について以下の指摘をしている：

- ①英語の表現がドイツ語で十分に普及している
- ②英語に対して、さらに適切なドイツ語の表現が少なくとも 2 つ以上存在する
- ③英語の表現がドイツ語の退陣理解の妨げになる
- ④英語の表現がドイツ語を貧しくしているに違いない

これらの表現は過激な言語純粋主義とは言えないが、ドイツ語で表現でき、ドイツ語にとって有害である英語の表現は排除することを目的としている。

¹⁰⁴ Niehr (2002: 5)

¹⁰⁵ *überflüssiger Anglizismen* (1998) は VWDS より発行された。

一方、同協会はドイツ語で使用される *Anglizismus* を早い段階で見出し、ドイツ語の同等表現と照合する活動をしている。不要な *Anglizismus* が出現する初期段階で、それに対抗する目的として *Anglizismen-Index* を発行している¹⁰⁶。この *Anglizismen-Index* はインターネット上でも閲覧可能であり、記載されていない最新の *Anglizismus* については報告するよう閲覧者に促している¹⁰⁷。

1.2.3 *Anglizismus* の用語の定義

Anglizismus を本研究で扱うにあたり、*Anglizismus* の定義をする必要がある。*Anglizismus* (*pl. Anglizismen*)を日本語にすると「イギリス語法（特に他言語での [イギリス] 英語ふうの慣用語法」と訳される¹⁰⁸。しかし、イギリス英語は他のヨーロッパ言語同様にアメリカ英語の影響を受けており、「イギリス語法」であるのか、「アメリカ語法」であるのかを明確に判断できないため、この定義は不十分である。Yang (1990: 7f.) は *Anglizismus* を以下の3つのカテゴリに分類している：

- 1) *Konventionalisierte Anglizismen*
- 2) *Anglizismen im Konventionalisierungsprozess*
- 3) *Zitatwörter und Eigennamen*

1) *Konventionalisierte Anglizismen* は慣用化された *Anglizismus* を指す。言語表現や表記の違いがあるにも関わらず、もはや外来語として見做されていない英語表現を表す。2) *Anglizismen im Konventionalisierungsprozess* は慣用化過程にある *Anglizismus* を指す。これは話者の多くは外国語だと認識するが、メディア等の媒体によって頻繁に使用されている英語表現を表す。2) に該当する *Anglizismus* は今後、ドイツ語に定着するか衰退するかの道がある。3) *Zitatwörter und Eigennamen* は引用語や固有名詞を指し、特定の文脈でのみ使用される英語表現を表す。これらは通時的（借用プロセスの結果）と共時的（英単語の統合の有無）の双方において判断されており、英国主義、イギリスかぶれを表す *Anglizismus*

¹⁰⁶ 2021年に発行された *Der Anglizismen-Index 2021 Deutsch statt Denglisch* が現時点において最新の *Anglizismen-Index* となっている。

¹⁰⁷ <https://vds-ev.de/arbeitsgruppen/deutsch-in-der-oeffentlichkeit/ag-anglizismenindex/>

¹⁰⁸ 独和大辞典（2000）

としてグループ化されていない。つまり、イギリス、アメリカの英語のみならず、カナダ、オーストラリアなどの英語圏からの借用も含めた総称として使用される。

Anglizismus を扱う研究の多くは Busse (1993) が採用した以下の定義を使用している¹⁰⁹：

Ein Anglizismus ist ein Wort aus dem britischen oder amerikanischen Englisch im Deutschen oder eine nicht übliche Wortkomposition, jede Art der Veränderung einer deutschen Wortbedeutung oder Wortverwendung (Lehnbedeutung, Lehnübersetzung, Lehnübertragung, Lehnschöpfung, Frequenzteigerung, Wiederbelebung) nach britischem oder amerikanischem Vorbild.

この定義は英語からの借用語のみに焦点を当てておらず、Wortverwendung (Lehnbedeutung, Lehnübersetzung, Lehnübertragung, Lehnschöpfung, Frequenzteigerung, Wiederbelebung)、つまり意味的借用も包括している。1.1.1 において借用語の形式分類 (図 3) では、借用現象には意味的借用も含まれており、Anglizismus にも当然意味的借用も含むことから上記定義が相応しいと言える。

1.2.4 Anglizismus の例

Anglizismus としてドイツ語で使用される語には名詞、動詞、形容詞などが存在する。各品詞に分類して Anglizismus を見てみよう。

1.2.4.1 名詞

Anglizismus のうち最も借用数が多いのが名詞である。これは新しい概念や事象、事物は名詞で表されることが多く、そういった事象、事物を自分の文化へ取り入れる際に語彙も取り入れるため、借用数が他の品詞より比較的多い。また、ドイツ語では名詞には性が存在するが、Anglizismus も含め、借用された語にも性が付与される。この場合、既存語彙に同等語彙¹¹⁰が存在すれば、その性を参考に借用語にも同様の性が付与される。

¹⁰⁹ Dewald (2008: 25)

¹¹⁰ ドイツ語に借用された語 X が既存語 Y と同義であれば、Y の性に従い、X に性が付与され、また、語根が同義もしくは類義であれば屈曲も同じ型を採用する振る舞いが見られる。例えば、Anglizismus の Boss, Gallizismus の Amateur の複数 は Dieb/Diebe と同型の-e 型となり、Bosse, Amateure になる。ただし、一部ではこの振る舞いが確認できない。し

ドイツ語の名詞は、男性、中性 2 格や複数において曲用させるが、借用語においても同様の語形変化が生じる。つまり、ドイツ語の名詞は格と数に応じて曲用するが、これは借用語においても同様に、Anglizismus にも該当すると言える。

- (38)a. Nach Absprache mit Ringrichter Mitch Halpern wurde der Fight beendet.¹¹¹
b. Der Kampf zwischen den beiden Gelehrten ist noch nicht ausgefochten.¹¹²

(38)は既存語を参考に性を決定する名詞の例である。(38a)は Anglizismus の Fight、(38b)は Fight の相当語である既存語 Kampf の例である。Kampf は男性名詞であり、Fight は Kampf の性を基に、Fight も同様に男性名詞として振る舞う¹¹⁴。

他方、接尾辞に応じて性の割り当てが行われる語も存在する。男性名詞になる接尾辞-er は借用語においても同様に男性名詞となる¹¹⁵。

- (39)a. Wie es sich für einen Bestseller gehört, steht schon zum Verkaufsstart ein breites Motorenangebot zur Wahl.¹¹⁶
b. Bei der offenen Weltmeisterschaft in Texas wurde sie 15. und war damit zweitbeste deutscher Starter.¹¹⁷

(39)は Anglizismus の Bestseller と Starter の例である。これらは接尾辞-er を含めてドイツ語に借用された Anglizismus であり、共にドイツ語で男性名詞として扱われる。(39a)の für einen Bestseller は für+男性の不定冠詞 4 格 einen が Bestseller の前にあり、Bestseller が男性名詞として振る舞う。(39b)の zweitbeste deutscher Starter は強変化として zweibest と deutsch が共に曲用し、その語尾変化により Starter が男性名詞として振る舞う。

たがって、完全にドイツ語に統合されているわけではない。また、これらは借用元の言語構造に左右されない (Eisenberg 2011: 209f.)。

¹¹¹ K97/NOV.84875 Kleine Zeitung, 10.11.1997, Ressort: Sport; Fünfmal am Boden - da "schlug" der Ringarzt zu

¹¹² Duden (2007)

¹¹⁴ Eisenberg (2011: 229)

¹¹⁵ Eisenberg (2011: 216f.)

¹¹⁶ A97/AUG.21025 St. Galler Tagblatt, 29.08.1997, Ressort: TB-AUT (Abk.); Golf IV: Aus Erfahrung gut

¹¹⁷ L11/JAN.00401 Berliner Morgenpost, 04.01.2011, S. 22; Allein unter Männern

同様に、英語由来の接尾辞-ing による派生語もドイツ語の構造を参考に名詞の性が割り当てられる。この場合、動詞不定詞の名詞化¹¹⁸を参考に中性名詞が割り当てられる¹¹⁹。

- (40)a. Der arbeitet aber auch während der vorlesungsfreien Zeit weit mehr als 44 Stunden pro Woche ... und nimmt sich höchstens kurze Auszeiten für ein Jogging auf den nahen Gulmen.¹²⁰
- b. Bessere Luft, weniger Lärm, eine andere Nutzung des öffentlichen Raums und mehr Attraktivität fürs Shopping sollte das bringen.¹²¹

(40)は英語の接尾辞-ing を含めた Anglizismus の Jogging と Shopping の例である。(40a)は für ein Jogging で ein が中性 4 格の不定冠詞であり、Jogging が中性名詞として扱われている。(40b)は fürs Shopping で für das の短縮形 fürs となり、中性 4 格の das が現れていることから Shopping が中性名詞であることが確認できる。

複数形については基本的に Anglizismus の名詞は複数形-s 型として振る舞う。

- (41)a. Also werden Babys mitgebracht.¹²²
- b. Sein Plan ist, bald etwas mehr Zeit für seine Hobbys Golfen und Tanzen zu haben.¹²³
- c. Alle drei Lifte sind von 9 bis 22 Uhr Betrieb.¹²⁴
- d. Die Teste 2 und 3 waren klar in der Hand der Marbacherinnen und Balgacherinnen.¹²⁵

¹¹⁸ schwimmen < das Schwimmen のように動詞を名詞化する際に中性名詞として振る舞うことを指す。

¹¹⁹ Eisenberg (2011: 229f.)

¹²⁰ SOZ06/AUG.01886 Die Südostschweiz, 12.08.2006; «Familie und Erziehung» als mögliches Schulfach

¹²¹ NKU22/AUG.00807 Nordkurier, 06.08.2022, S. 13; Die Hauptstadt tut sich schwer mit der Verkehrswende

¹²² U99/NOV.96602 Süddeutsche Zeitung, 30.11.1999, S. 4, Ressort: M; Die Frauen der Messestadt sind die wahren Experten

¹²³ NZS15/MAR.00086 NZZ am Sonntag, 01.03.2015, S. 58; Er ist noch immer ein Wettkämpfer

¹²⁴ NUN10/FEB.02179 Nürnberger Nachrichten, 19.02.2010, S. 19; Letzter Skispaß vor dem Frühling - Lifte sind zum Teil noch in Betrieb und die Loipen frisch gespurt

¹²⁵ A15/JUN.04055 St. Galler Tagblatt, 10.06.2015, S. 35; Rheintalerinnen siegen in den Einzeltesten

(41a), (41b)は英語由来の複数形¹²⁶表記を保持せず、ドイツ語の-s 型の複数形が用いられた例である。(41a)は動詞 *werden* が3人称複数形となっていることから *Babys* が複数形であることが確認できる。(41b)は *Hobby* が複数で *Hobbys* と表記される例である。*für seine Hobbys* の振る舞いから、複数4格 *seine* に後続する *Hobbys* は複数形であることが確認できる。他方、複数の標識として-eをとる語もある¹²⁷。(41c)では *Anglizismus* の *Lift* の複数 *Lifte* となっている。*Lifte* は数詞 *drei* に後続し、動詞 *sein* が3人称複数の *sind* であることから *Lift* が複数であることが確認できる。(41d)は *Anglizismus* の *Test* が複数で *Teste* となっている。*Teste* は複数の定冠詞 *die* と後続する動詞 *sein* の過去形が3人称複数の *waren* であることから複数であると確認できる。但し、(41c),(41d)の複数形は *Lifts*, *Tests* のように-sの複数語尾も可能であり、揺れが生じている¹²⁸。

1.2.4.2 動詞

名詞の次に借用される頻度が高い品詞は動詞もしくは形容詞である。ドイツ語の動詞は現在形と過去形において主語の人称に応じて屈折する。この規則は借用語にも適応され、語が外来語であるとみなされると基本的には規則的に変化し、不規則変化形になる動詞は現時点では1つも知られていない¹²⁹。

- (42)a. Derzeit boomt der Automarkt in Deutschland, doch die Hersteller sind skeptisch, ob der Boom anhält.¹³⁰
- b. Als erster Kanadier coacht er ein Team in der russischen Super League.¹³¹
- c. Die in Kopenhagen aufgewachsene Christina Ahlefeldt arbeitete in London mit Designern wie Vivienne Westwood, in Deutschland stylte sie das Grandhotel Heiligendamm.¹³²
- d. Ich powere jeden Tag in meinem Amt und habe vor, dieses noch lange hier in Regensburg zu

¹²⁶ *Baby* の複数形を英語では *Babies*、*Hobby* の複数形を *Hobbies* と語尾変化することを指す。

¹²⁷ Eisenberg (2011: 231f.)

¹²⁸ Eisenberg (2011: 231f.)

¹²⁹ Eisenberg (2011: 241f.)

¹³⁰ SOL11/DEZ.02623 Spiegel-Online, 27.12.2011; Grüner, größer, schöner (2023.03.22)

¹³¹ SOZ05/DEZ.05534 Die Südostschweiz, 30.12.2005; König in der Eishockey-Fabrik

¹³² NKU20/SEP.00127 Nordkurier, 01.09.2020, S. 16; Tautziehen um ein "Überraschungsei": Gutshausretter versus Bohley

tun.¹³³

(42)は Anglizismus の動詞を用いた例である。(42a)は不定詞 boomen が主語 der Automarkt に応じて三人称単数現在 boomt で使用されている。(42b)は不定詞 coachen が主語 er に応じて三人称単数現在 coacht で使用されている。(42c)は不定詞 stylen が主語 sie (= Christina Ahlefeldt)に応じて三人称単数過去 stylte となっている。(42d)は不定詞 powern が主語 ich に応じて一人称単数現在 powere で使用されている。

他方、jog, job, pin, shop, strip 等の語は子音文字を二重化した形がドイツ語の不定詞として定着している¹³⁴。

- (43)a. Gestern Mittag joggte Magnus Wislander (43) recht locker durch die schneebedeckten Straßen Trondheims, ein bisschen körperliche Ertüchtigung vor der Arbeit.¹³⁵
- b. Das machen die sozialen Netzwerke Pinterest und Svypply jetzt möglich: Dort pinnt du Fotos von Gucci-Handtaschen auf dein Profil – und es ist vollkommen irrelevant, ob du sie tatsächlich besitzt oder nicht.¹³⁶

(43)は子音文字が二重化する動詞 joggen と pinnen の例である。(43a)は不定詞 joggen が主語 Magnus Wislander に応じて三人称単数過去の joggte という形で使用されている。(43b)は不定詞 pinnen が主語 du に応じて二人称単数現在の pinnt という形で使用されている。

- (44)a. Wenn du ein Kind hast, musst du im Leben Prioritäten setzen, weswegen du dich stresst und worüber du dir Gedanken machst.¹³⁷
- b. Er ist ein moderner Wissenschaftsmanager, der im Fernsehen auftritt, zu Kongressen um die Welt jettet und obendrein bei Sponsoren Fördermittel lockerzumachen versteht.¹³⁸

¹³³ NUZ09/SEP.02289 Nürnberger Zeitung, 23.09.2009, S. 22; Interview mit dem Regensburger Uni-Rektor Prof. Thomas Strothotte

¹³⁴ 不定詞 joggen, jobben, pinnen, shoppen, strippen としてドイツ語に借用される (Eisenberg 2011: 242f.)。

¹³⁵ L08/JAN.03782 Berliner Morgenpost, 25.01.2008, S. 23; "Wir werden geradezu verheizt"

¹³⁶ 12/FEB.03018 die tageszeitung, 21.02.2012, S. 14; Ich pinne, also bin ich

¹³⁷ NKU13/FEB.04286 Nordkurier, 12.02.2013; Viele Angebote für Auftritte

¹³⁸ Z98/805.03031 Die Zeit, 20.05.1998; Hüter der Ordnung [S. 39]

(44)は語幹語末音に[s]もしくは[t]を保有する語の例である。(44a)は不定詞 *stressen* が主語 *du* に応じて二人称単数現在の *stresst* という形で使用されている。(44b)は不定詞 *jetten* が主語 *er* に応じて三人称単数現在の *jettet* という形で使用されている。これらはドイツ語の動詞 *reisen* や *arbeiten* のように、語幹語末音に[s]もしくは[t]を保有する語で、ドイツ語の文法規則に統合され使用されていることが確認できる。

- (45)a. Meinen Mentor habe ich nur kennengelernt, weil meine damalige Freundin dort babygesittet hat.¹³⁹
- b. Man kann lernen, wie man sein Fahrrad repariert, den Computer bedient oder Babys sittet.¹⁴⁰
- (46)a. Mit einer Selbstverständlichkeit downloadet die Jugend Handyspiele, verschickt die Großmutter Urlaubsgrüße per SMS und koordiniert der Geschäftsmann seine Termine via Bluetooth.¹⁴¹
- b. Die Teilnehmer haben die Möglichkeit zu Surfen, E-Mails zu schreiben, Dateien zu downloaden und vieles mehr.¹⁴²
- (47)a. Er chattet, surft und loadet down, dass seine Festplatte ächzt.¹⁴³
- b. Ganze Spielfilme downzuloaden ist wenig sinnvoll, denn es erfordert auf Grund der großen Datenmengen rund eineinhalb Tage, in denen Online-Gebühren anfallen.¹⁴⁴

(45)は動詞 *babysitten* の例である。Eisenberg (2011: 244)では *babysitten* は *er bebysittet/ sittet baby* のどちらも表現可能とした。(45a)は分離動詞として主語 *meine damalige Freundin* に応じて三人称単数 *hat* と過去分詞 *babygesittet* で表現される。他方、(45b)は名詞 *Babys* と

¹³⁹ HMP21/FEB.00436 Hamburger Morgenpost, 08.02.2021; QR-Code scannen und direkt zum Podcast"Für den HSV durfte ich sogar die Schule schwänzen"Jetzt überall, wo es Podcastsgibt: "Herz.Schlag.Verein"

¹⁴⁰ RHZ99/JUN.20673 Rhein-Zeitung, 29.06.1999; Tolles Ferienangebot

¹⁴¹ NZZ06/MAI.04121 Neue Zürcher Zeitung, 23.05.2006, S. 52; Zwischenrufe

¹⁴² RHZ12/OKT.32661 Rhein-Zeitung, 27.10.2012, S. 10;

¹⁴³ T00/APR.18150 die tageszeitung, 20.04.2000, S. 19, Ressort: Internet; STEFFEN SURFT SICH SÜCHTIG

¹⁴⁴ FOC00/JUN.00414 FOCUS, 19.06.2000, S. 172-184; GESELLSCHAFT

動詞 *sitten* を用いた慣用表現として使用された例である。(46)は動詞 *downloaden* が非分離動詞として振る舞う例である。*downloaden* は分離動詞か非分離動詞かの確定がなされていないが、(46a)は主語 *die Jugend* に応じて三人称単数現在の *downloadet* となり非分離動詞として振る舞う。(46b)は *zu* 不定詞を用いた例であり、*zu* と非分離動詞 *downloaden* を使用する。他方、(47)は動詞 *downloaden* が分離動詞として振る舞う例である。(47a)は主語 *er* に応じて三人称単数現在の *loadet ... down* となっており、分離動詞として振る舞う。(47b)は *zu* 不定詞を用いて *zu* が分離動詞と共に使用される規則に従い、*downzuloaden* となっている。

このように *Anglizismus* の動詞は基本的にはドイツ語の文法に統合され、規則変化動詞同様の人称変化をするが、語によっては子音の二重化が生じる場合があり、借用元の英語の表記と相違する。また、分離動詞か非分離動詞かの確定がなされておらず、文法的に統合はされているが揺れが生じる場合もある。

1.2.4.3 形容詞

借用される語として名詞の次に頻度が高いのが形容詞と動詞である¹⁴⁵。本項では *Anglizismus* の形容詞の例を挙げながら、*Anglizismus* の形容詞について概観する。

ドイツ語の形容詞には (i) 述語的、副詞的に使用する用法と (ii) 付加語的に使用する用法がある。(i) 述語的、副詞的に使用される形容詞は曲用せず、(ii) 付加語的に使用される場合は曲用する¹⁴⁶。*Anglizismus* もドイツ語の文法規則に統合し、(i)、(ii) の両用法が可能である：

- (48)a. Ich bin jetzt clean und nüchtern – ich brauche keine Drogen mehr – und es ist schön,
keine Angst zu haben.¹⁴⁷
- b. Das cleane Exterieur setzt sich im Interieur nahtlos fort.¹⁴⁸

¹⁴⁵ *Anglizismus* の動詞については 1.2.4.2 を参照。

¹⁴⁶ Duden Grammatik (2016: 340f.)

¹⁴⁷ U99/MAR.23869 *Süddeutsche Zeitung*, 27.03.1999, S. 12, Ressort: VERMISCHTES; Leute von heute

¹⁴⁸ NON17/MAR.03702 *Niederösterreichische Nachrichten*, 10.03.2017; Aufs Maximum reduziert

- (49)a. Ich denke an die Drogen, wie high ich mich damals gefühlt habe.¹⁴⁹
- b. Die extra highen High Heels unter den Füßen, Klunker um den Hals, viel Pappe im Gesicht und die Glamourfrisur kunstvoll aufs Haupt gebaut.¹⁵⁰
- (50)a. Doch die Schüler werden nicht nur fit für den Wettkampf, sondern auch fit fürs Berufsleben gemacht in Goldstein.¹⁵¹
- b. Einer der wichtigsten Ratschläge für ein fittes Gehirn lautet: genug schlafen und viel trinken.¹⁵²
- (51)a. Die elf Birken, die auf dem Friedhof gefällt werden, sind pink markiert.¹⁵³
- b. Im Congress Park stolziert und tanzt er im weißen Anzug über die Bühne, den Dandy-Hut schräg auf dem Kahlkopf, pinkes Hemd, gelber Schlips.¹⁵⁵
- c. Eine blonde Frau um die dreißig in schwarzen Hotpants und pink T-Shirt mit der Aufschrift „Smile“ schlendert mit einem Bier in der Hand vorbei.¹⁵⁶
- (52)a. Ich bin total happy, daß es im vierten Anlauf geklappt hat.¹⁵⁷
- b. *Das ist eine happye/ happie Situation.¹⁵⁸

(48a)-(52a)は (i) 述語的・副詞的使用の例で、(48b)-(52b)は (ii) 付加語的使用の例である。(48a)は形容詞 clean を形容詞 nüchtern と並列させて述語的に使用している。(48b)は形容詞 clean の付加語的使用法である。clean は中性単数主格の弱変化語尾-e が付加されて使

¹⁴⁹ U11/OKT.04192 Süddeutsche Zeitung, 28.10.2011, S. 18; Fluch des Lächelns

¹⁵⁰ HAZ08/SEP.04674 Hannoversche Allgemeine, 24.09.2008, S. 7; Spielen, immer nur spielen

¹⁵¹ R99/FEB.15579 Frankfurter Rundschau, 25.02.1999, S. 17, Ressort: STADTTEIL-RUNDSCHAU

¹⁵² SOL14/APR.02391 Spiegel-Online, 24.04.2014; "Nach dem Trinken klar im Kopf"

¹⁵³ RHZ21/SEP.29514 Rhein-Zeitung, 11.09.2021, S. 19;

¹⁵⁵ BRZ11/JAN.08582 Braunschweiger Zeitung, 21.01.2011; Stimmung wie im brasilianischen Puff

¹⁵⁶ T09/JUL.01251 die tageszeitung, 09.07.2009, S. 22; Fünf Feuerzeuge für Michael Jackson

¹⁵⁷ RHZ98/JUL.05767 Rhein-Zeitung, 11.07.1998; Ein großer Traum ging für Tanja in Erfüllung

¹⁵⁸ 形容詞 trendy (Wer einen trendy BWL-Studienplatz in Berlin ergattern will, muss sich auf einiges gefasst machen.) や sexy (Sie hat eine sexy Stimme.) のように無変化で付加語的に使用することもあり (Duden Grammatik 2016: 348f.)、形容詞 happy も無変化で付加語的に使用する可能性も考慮し、cosmasII で検索したが該当はなく、現状は happy を付加語的表現しないようである。

用されている。(49a)は形容詞 **high** を述語的に使用しており、(49b)は形容詞 **high** の付加語的用法である。**high** は複数主格の弱変化語尾-en が付加されて使用されている。(50a)では形容詞 **fit** が **werden** の述語内容語として述語的に使用され、(50b)は形容詞 **fit** に中性単数対格の混合変化語尾-es が付与されて付加語的に使用され、またその際子音文字が二重化が見られる。(51)は形容詞 **pink** を使用する例である。(51a)は形容詞 **pink** が述語的に使用され、(51b)は付加語的に使用している例である。(51b)は中性単数対格の強変化語尾-es が付与されて付加語的に使用している。(51c)は **pink** を T-shirt の付加語として使用するが屈折変化が見られない。(52a)は形容詞 **happy** を述語的に使用しているが、**happy** の場合には(52b)のように付加語的に使用するにあたり屈折変化することはない。

(51) **pink** のように色彩を表す形容詞の一部は付加語的用法で使用される際に屈折変化が見られない。例えば、色彩を表す形容詞 **beige, oliv, azur, türkis, lila, rosa** がこれに該当するとされ、無変形容詞として認識されている¹⁵⁹。だが、**Duden Grammatik (2016: 348f.)**によると一般的な色彩を表現する語は屈折変化を伴って使用されることも多いとされる：

(53) Er fährt ein pinkes Auto mit dem Kennzeichen R8DAT.

(54) Sie trug Mokassins, lavendelfarbene Shorts und ein beiges T-Shirt.

(55) Vor der Höhle lädt ein türkiser Pool zum Plansschen ein.

(56) Ein ultramariner Wassergeist kratzt sich mit dem Dreizack seinen Rücken.

(Duden Grammatik 2016: 348)

(53-56)は Eisenberg (2011) 他で無変化の形容詞として扱われる形容詞 **pink, beige, türkis, ultramarin** が付加語的に使用される例である。(53)は形容詞 **pink** に中性単数対格の混合変化語尾-es が付与されて使用され、(54)は形容詞 **beige** に中性単数対格の混合変化語尾-(e)s が付与されて使用されている。(55)は形容詞 **türkis** に男性単数主格の混合変化語尾-er が付与されて使用され、(56)は形容詞 **ultramarin** に男性単数主格の混合変化語尾-er が付与されて使用されている。

¹⁵⁹ Eisenberg (2011: 238f.), ドイツ語大辞典(2000), アクセス独和辞典 (2018)

実際に、COSMASII で„pinkes“を検索すると 375 件、„pinkem“を検索すると 308 件該当し¹⁶⁰、pink は付加語的形容詞としてドイツ語に統合されていることが判明した。しかし、(51)c のように無変化で使用する例もあり、付加語的使用に揺れが生じている。

他の形容詞については語の性質により、付加語的用法において無変化となるものもある。例えば、prima, trendy, sexy に見られる語幹末が母音で終わる形容詞では曲用が困難とされる：

(57) Das ist doch eine prima Idee!

(58) Wer einen trendy BWL-Studienplatz in Berlin ergattern will, muss sich auf einiges gefasst machen.

(59) Sie hat eine sexy Stimme.

(Duden Grammatik 2016: 348)

概して付加語的に使用する形容詞は屈折変化を伴うが、(57-59)は付加語的に形容詞を使用しているものの、語幹末の母音が影響し、無変化で使用されている。

他方、口語に限られるが、これらの形容詞の語末に-n を付与することで付加語的使用に際して屈折変化する形容詞もある：

(60) Der Fahrer mit den meisten Punkten gewinnt das lilane Trikot.

(61) Da stand ein rosanes Wildschwein.

(Duden Grammatik 2016: 348f.)

(60)は形容詞 lila、(61)は形容詞 rosa の例である。これらの形容詞は通常付加語的に使用する場合も無変化で振る舞うとされるが、口語に限って語末に-n を挿入することで屈折変化を可能としている。(60)は形容詞 lila に-n を挿入し、中性単数対格の弱変化語尾-e が付与されて使用されている。(61)は形容詞 rosa に-n を挿入し、中性単数主格の混合変化語尾-es が付与されて使用されている。

¹⁶⁰ COSMASII: <https://cosmas2.ids-mannheim.de/cosmas2-web/faces/investigation/archive.xhtml> (2023.03.23)

次に、動詞から形成される分詞について概観する。ドイツ語で現在分詞や過去分詞は動詞から形成されるが、Anglizismus の場合も多くの場合は共通している。まず、現在分詞を形容詞として使用する例を見てみよう：

(62) der nach dem Knochen suchende Hund

(63) das versinkende Schiff

(64) ein einladendes Hotel

(65) ein belastendes Erlebnis

(Duden Grammatik 2016: 341)

(66) Der Becher wird nun in eine unterhaltsam mixende Maschine eingeklemmt, dann in einer zweiten Vorrichtung zugeschweißt.¹⁶¹

(67) Interesse für den Job angemeldet haben aber auch ein durch die Welt jettendes Model aus der Region, eine Angela-Merkel-Parodistin, ein Gastronom und Förster sowie ein Polizist und ein Physik-Professor.¹⁶²

(62-65)は動詞から形成した現在分詞が形容詞として使用されるドイツ語の例である。(62)は動詞 *suchen* から形成した現在分詞が、男性単数主格の弱変化語尾-e を付与され付加語的形容詞として振る舞っている。(63)は動詞 *versinken* から形成した現在分詞が、中性単数主格の弱変化語尾-e を付与され付加語的形容詞として振る舞っている。(64)は動詞 *einladen* から形成した現在分詞が、中性単数主格の混合変化語尾-es を付与され付加語的形容詞として振る舞う。(65)は動詞 *belasten* の現在分詞に、中性単数主格の混合変化語尾-es を付与して付加語的形容詞として使用した例である。他方、(66),(67)は Anglizismus の動詞から現在分詞を派生し、それが形容詞として使用される例である。(66)は動詞 *mixen* から派生した現在分詞が、女性単数対格の混合変化語尾-e を付与されて付加語的形容詞として振る舞うものである。(67)は動詞 *jetten* から派生した現在分詞に、中性単数対格の強変化語尾-es が付与され付加語的形容詞として使用される例である。

¹⁶¹ RHZ12/MAI.18449 Rhein-Zeitung, 19.05.2012, S. 3; So schmeckt der Sommer: Eis schlägt Bubble-Tea

¹⁶² RHZ14/SEP.26804 Rhein-Zeitung, 27.09.2014, S. 3; Leben auf der Burg: Was Bewerber planen

次に、動詞から形成した過去分詞が形容詞として振る舞う例を見てみよう：

- (68) der gesuchte Knochen
- (69) das versunkene Schiff
- (70) die eingeladenen Gäste
- (71) der mit Schadstoffen belastete Boden

(Duden Grammatik 2016: 341)

- (72) Er ist überzeugt, dass gemixte Teams deutlich bessere Leistungen erbringen, als Abteilungen mit einer homogenen Altersstruktur.¹⁶³
- (73) Der nach Hamburg gejettete Schauspieler Klaus Maria Brandauer zum 50. Geburtstag des "Roncalli"-Direktors, den dieser Dienstag abend nächst St. Pauli auf typisch Paulsche Weise beging.¹⁶⁴

(68-71)は動詞から生成した過去分詞が形容詞として振る舞うドイツ語の例である。(68)は動詞 *suchen* から過去分詞を生成し、男性単数主格の弱変化語尾-e を付与し、付加語的形容詞として用いられている。(69)は動詞 *versinken* から生成した過去分詞が、中性単数主格の弱変化語尾-e を付与され、付加語的形容詞として用いられている。(70)は動詞 *einladen* から生成した過去分詞が、複数主格の弱変化語尾-en を付与され、付加語的形容詞として振る舞っている。同様に、(71)は動詞 *belasten* から生成した過去分詞が、男性単数主格の弱変化語尾-e を付与され、付加語的形容詞として振る舞う例である。他方、*Anglizismus* の動詞から過去分詞を生成し、形容詞として用いることもある。(72)は *Anglizismus* の動詞 *mixen* から生成した過去分詞が、複数主格の強変化語尾-e を付与され、付加語的形容詞として振る舞う例である。同様に、(73)は *Anglizismus* の動詞 *jetten* から生成した過去分詞が、男性単数主格の弱変化語尾-e を付与され、付加語的形容詞として振る舞うものである。

¹⁶³ NKU14/APR.01199 Nordkurier, 12.04.2014, S. 14; Anfänger und alte Hasen: Die Mischung machts

¹⁶⁴ O97/MAI.53889 Neue Kronen-Zeitung, 22.05.1997, S. 29; Er verschenkte 2,5 Mio. S!

Anglizismus の動詞がドイツ語の文法規則に適合した例とは異なり、英語の語を直接借用し、ドイツ語の曲用をせず振る舞う Anglizismus や、借用語を用いた曲用が複雑化するために簡素化され統合された表現も見られる¹⁶⁵ :

- (74) Jedenfalls stand ich diesen ominösen Samstagmorgen also beim Start zur Dornröschen-Etappe, Startnummer 611 auf dem T-Shirt, die eigens für unglaublich viel Geld erworbenen airconditioned Joggingschuhe an den Füßen – 14 Kilometer von Niederrodenbach nach Neuenhaßlau vor mir.¹⁶⁶
- (75) Sie spielt relaxed auf.
- (76) ein relaxedes/relaxtes Verhalten
- (77) das recycelte Papier

(Eisenberg 2011: 239f.)

(74)は英語の動詞 *aircondition* から派生した英語の形容詞 *airconditioned* がドイツ語に直接借用された例である。この場合、動詞から過去分詞を生成するドイツ語の文法規則を採用せず、英語の過去分詞を直接借用し、副詞的に使用している。同様に、(75)は英語の動詞 *relax* の過去分詞 *relaxed* を直接借用し、付加語的に使用している例である。一方で、英語の動詞 *relax* はドイツ語に借用され、動詞の不定詞は *relaxen* が定着している。また、過去分詞は英語の過去分詞 *relaxed* の使用とドイツ語に統合された過去分詞 *relaxt* が存在し、揺れが生じている¹⁶⁷。(76)は動詞 *relaxen* の過去分詞として英語の過去分詞を直接借用した場合と、ドイツ語に統合された過去分詞 *relaxt* の使用の例である。この例はどちらもドイツ語の文法規則に統合しており、中性単数主格の強変化語尾 *-es* が付与され、付加語的形容詞として振る舞っている。(77)の Anglizismus の形容詞 *recycelt* は Anglizismus の動詞 *recyclen* から派生した過去分詞である。中性単数主格の弱変化語尾 *-e* が付与され、付加語

¹⁶⁵ Eisenberg (2011: 240)

¹⁶⁶ R97/JUN.46549 Frankfurter Rundschau, 18.06.1997, S. 8, Ressort: LOKAL-RUNDSCHAU; Nach der Rotkäppchen-Etappe, der ersten beim Brüder-Grimm-Lauf, von Hanau nach

¹⁶⁷ Eisenberg (2011: 240)によると、Duden (2006) *Die deutsche Rechtschreibung* には *relax* の過去分詞として *relaxed* のみの記載で、Wahrig (2006a) *Die deutsche Rechtschreibung* には不定詞 *relaxen* のみの記載であった。しかし、*relax* の過去分詞形として文語 *relaxed* と口語が乖離している状態のため、今後は過去分詞 *relaxt* として統合されるだろうとしている。

的形容詞として使用されている。しかし、動詞 *recyclen* は不定詞に揺れが生じており、Duden (2007)には *recyclen* も併記されている。

(78) *das recyclete Papier*

不定詞を *recyclen* として扱う場合、過去分詞は *recyclet* になる。(78)は過去分詞 *recyclet* に中性単数主格の弱変化語尾 *-e* を付与して付加語形容詞として使用したものである。

ドイツ語の形容詞には (i) 述語的、副詞的に使用する用法と (ii) 付加語的に使用する用法があるが、*Anglizismus* の形容詞も同様に基本的には (i) 述語的、副詞的に使用する形容詞は曲用させず、(ii) 付加語的に使用する場合は形容詞を曲用させて使用するというドイツ語の文法規則に従っており、*Anglizismus* が無秩序にドイツ語の中で振る舞っているのではないことが確認できる。一方で、動詞の不定詞に揺れが生じる場合や、英語からの直接借用としての語を使用するのか、もしくはドイツ語に統合された語を使用するのかの揺れが生じる場合があり、多様な表現が可能となる語も存在する。

1.3 「賢い」語義に関連する形容詞の例

Anglizismus の形容詞の使用については、ドイツ語の形容詞と同様に述語的使用と付加語的使用が可能であることを 1.2.4.3 において概観したが、ここでは本論文で考察対象として扱う *Anglizismus* の *clever*, *cool*, *smart* について概観する。

対象語がドイツ語で使用され始めたとされるのは、*clever* が 1927 年、*cool* が 1980 年、*smart* が 1852 年である¹⁶⁸。

(79) Dieses bittere Los fiel dem Schwergewichtler des B. C. Westen, Wegener , zu, der eine ganz unzureichende Form gegen Nispel (Heros) an den Tag legte, viel zu temperamentlos seinem cleveren Gegner die Führung überließ und klar nach Punkten verlor.¹⁶⁹

(80) Es fällt mir unheimlich schwer, nach seinen coolen Statements von "Ich hab da nicht so'n

¹⁶⁸ 各形容詞が英語の語と共起せず、ドイツ語として形態的に統合された形で使用された例を DWDS-Kernkorpus(1900-1999)から抽出して例として挙げている。

¹⁶⁹ Berliner Tageblatt (Morgen-Ausgabe), 02.03.1927.(1927/BT_M19270302_013_0244)

Interesse dran", nochmal direkt zu sagen, daß ich da aber "ein Interesse dran habe."¹⁷⁰

- (81) Der etwa anfragenden Unbemittelten wußte man sich unter irgend einem einleuchtenden Vorwande zu entledigen, während die mit Mitteln versehenen Einwanderer dem smarten Oberclerk Mr. Wm. L. Roy und seinen experten Gehülften nicht eher entschlüpfen durften, bis sie ihr Quartier genommen oder ihre Reisekarten eingekauft haben.¹⁷¹

(79)の seinem cleveren Gegner の clever は男性単数与格の混合変化の語尾-en が付加されて使用されている。同様に、(80)の seinen coolen Statements の cool は複数形与格の混合変化の語尾-en が付与されて使用され、(81)の einem smarten Gesellschaftsmenschen の smart は男性単数与格の強変化の語尾-en が付与されて使用されている。

これらは全て形容詞として使用されている例であるが、英語の clever, cool, smart は形容詞でもあり、副詞でもある。語によっては名詞でもあり、動詞としての機能も果たし、汎用的な語である。これらの対象語が形容詞として使用する場合は、一義的ではなく、多義的な形容詞としても使用されることもある。ドイツ語で形容詞を使用する際には、述語的用法と付加語的用法があるため、同様に、各語が述語的形容詞として使用される英語の例を見てみよう。

clever

- (82) She's clever at getting what she wants.¹⁷²
(83) You're cleverer than I thought.¹⁷⁴

cool

- (84) Let's sit in the shade and keep cool.¹⁷⁵
(85) She was decidedly cool about the proposal.¹⁷⁶
(86) You look pretty cool with that new haircut.¹⁷⁷

¹⁷⁰ Merian, Svende: Der Tod des Märchenprinzen, Hamburg: Buntbuch-Verl. 1980 [1980], S. 106 (1980/merian_maerchenprinz_1980)

¹⁷¹ Deutsche Auswanderer-Zeitung, Nr. 25. Bremen, 26. März 1852.

¹⁷² Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

¹⁷⁴ ジーニアス英和大辞典 (2019)

¹⁷⁵ Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

¹⁷⁶ Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

¹⁷⁷ Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

smart

(87) You look very smart in that suit.¹⁷⁸

(88) He is smart in German.¹⁷⁹

(82)の clever は前置詞 at との共起で「(作業や腕前が) 上手な、器用な」の語義として使用される。(83)の clever は比較級となり「抜け目のない」語義として使用される。

(84)の cool は「涼しさ」の語義として使用され、(85)の cool は「冷静な」の語義として使用される。(86)はファッションセンスや外観を褒める「かっこいい、素敵な」の語義として振る舞う例である。(87)の smart は「きちんとした(身なり)」語義で振る舞う例である。(88)は smart を「賢い」語義で使用する例である。

次に付加語的形容詞として使用される例を見てみよう。

clever

(89) What a clever idea!¹⁸⁰

(90) a clever liar¹⁸¹

cool

(91) They gave the Prime Minister a cool reception.¹⁸²

(92) There was a cool breeze blowing the sea.¹⁸³

(93) It's a cool movie.¹⁸⁴

(94) The car cost a cool thirty thousand.

smart

¹⁷⁸ Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

¹⁷⁹ ジーニアス英和大辞典 (2019)

¹⁸⁰ Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

¹⁸¹ ジーニアス英和大辞典 (2019)

¹⁸² Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

¹⁸³ ジーニアス英和大辞典 (2019)

¹⁸⁴ Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015)

(95) His son is a very smart boy.¹⁸⁵

(96) a smart restaurant¹⁸⁶

(97) a smart chip¹⁸⁷

(89),(90)は clever を付加語的に扱う例である。(89)は idea の付加語として「賢い」の語義で振る舞う例であり、(90)は liar の付加語として「巧妙な」の語義で振る舞う例である。(91-94)は cool を付加語的に扱う例である。(91)は reception の付加語として「冷静な」の語義で振る舞う例である。(92)は breeze の付加語として「冷たい、涼しい」の語義で振る舞う例である。(93)は movie の付加語として「素敵な、かっこいい」の語義で振る舞う例で、(94)は金額や数量を表す語と共起する場合にのみ振る舞う例で thirty thousand が後続し、「正味」を有する語義として振る舞う例である。(95-97)は smart を付加語的に扱う例である。(95)は boy の付加語として「賢い」の語義で振る舞う例で、(96)は restaurant の付加語として「高級な」の語義で振る舞う例である。(97)は精密機械を表す語と共起する場合にのみ振る舞う例で、chip の付加語として「精密で高感度な」の語義で振る舞う例である。

このように、本研究の対象語である clever, cool, smart は述語的にも付加語的にも振る舞う形容詞で、多義的な語である。これらがドイツ語に借用され、ドイツ語で使用されるには、英語同様に述語的にも付加語的にも振る舞う可能性が非常に高く、英語の多義性に倣い、多義的に使用されることが推測される。しかし、これらの対象語は文語的、口語的の双方で使用される語であり、共起する語が限定される語義も存在する。他方、これらの対象語はドイツ語に借用されるにあたり障壁となりうる、語の語幹の音節末が母音となる語は対象語には含まれていないため、ドイツ語に借用し、統合する過程において屈折変化させるにあたり、ドイツ語の文法規則を逸脱して変容する必要はなく、動詞 recycle に見られるように、不定詞を設定するにあたり揺れも生じる語である可能性も低い。したがって、これらの語を対象語とする事で、「賢い」に類似した語義を有する同義語の借用は語レベルで相違が生じるのかを調査することが可能である。

¹⁸⁵ ジーニアス英和大辞典 (2019)

¹⁸⁶ ジーニアス英和大辞典 (2019)

¹⁸⁷ ジーニアス英和大辞典 (2019)

2. Anglizismus の形容詞の形態的特徴

Yang (1990) は Anglizismus の形容詞についても言及しており、そのような形容詞を以下の二つに分類している：

- ① Anglizismus の形容詞の中でも述語的形容詞として扱われる語
- ② 述語的形容詞と付加語的形容詞のどちらも使用可能な語

このうち①はドイツ語で使用される Anglizismus のうち、down, in, live, out, up to date のように述語的にのみ使用される語を指し、②は cool, fair, unfair, unklar, portable, smart, clever のように述語的、付加語的の双方の振る舞いが可能である語を指す¹⁸⁸。

そもそもドイツ語の形容詞は述語的に使用する場合と、付加語的に使用する場合があり、Anglizismus の形容詞がドイツ語の他の形容詞同様に、(i) 述語的、副詞的に使用する場合と (ii) 付加語的に使用する場合があり、(i) 述語的、副詞的に使用する形容詞は屈折させず、(ii) 付加語的に使用する場合は形容詞を屈折させて使用する¹⁸⁹。この屈折変化の有無を対象語 clever, cool, smart のデータを基に証明することで、Anglizismus の形容詞は形態的にドイツ語に統合しているという先行研究を支持することを示唆する。

2.1 述語的形容詞としての用法

Anglizismus の形容詞はドイツ語の他の形容詞同様に述語的に使用される。述語的に使用される形容詞は、ドイツ語の文法規則上、屈折変化は不要となり、借用元の英語の語をその状態のままドイツ語文で使用することが可能である。本研究が対象とする語 clever, cool, smart がドイツ語で述語的に使用される例をコーパス¹⁹⁶から抽出して見てみよう。

¹⁸⁸ Yang(1990: 162)

¹⁸⁹ 1.2.4.3 参照。

¹⁹⁶ COSMAS II の W - Archiv der geschriebenen Sprache, W-öffentlich - alle öffentlichen Korpora des Archivs W (mit Neuakquisitionen) [1]

clever

- (98) Barbaro ist clever, aber alles andere als ein klassischer Parteisoldat.¹⁹⁷
- (99) Dabei begannen die Gäste aus Bobstadt/Hofheim konzentriert und spielten clever im Angriff.¹⁹⁸

(98)の Barbaro ist clever は sein 動詞 (ist) と共起し、「Barbaro は賢い」として述語的に振る舞っていることが確認される。(99)の die Gäste aus Bobstadt/Hofheim...spielten clever...は動詞 spielten と共起し、「Bobstadt/Hofheim 出身の客たちは巧みに演奏した」として副詞的に使用されており、屈折変化が不要な述語的な使用として振る舞っている。(98), (99)はいずれも英語の語を無変化でドイツ語に取り入れられて使用されているが、述語的に使用されていることから、ドイツ語の文法規則にも矛盾しておらず、ドイツ語に統合された形で使用されている。

cool

- (100) Er ist cool, clever, sympathisch und vor allem erfolgreich: Armand van Helden gehört zur Elite der House-DJs.¹⁹⁹
- (101) Der Film war echt cool, ich bin beeindruckt.²⁰⁰
- (102) Doch der Präsident der Fürth Pirates bleibt cool.²⁰¹

(100)は cool が他の形容詞と並列し、sein 動詞 (ist) との共起し、「彼はかっこよく、賢くて、魅力的だ」として述語的に振る舞う例である。(101)は副詞 echt と sein 動詞 (war) との共起が確認され、「その映画は本当に素晴らしかった」として述語的に使用されている。(102)は動詞 bleiben (bleibt) との共起で副詞的に使用されており、「大統領は冷静である」として述語的に振る舞う例である。これらはいずれも英語の語を無変化でドイツ語

¹⁹⁷ RHZ12/APR.15678 Rhein-Zeitung, 17.04.2012, S. 17; SPD-Dilemma: Jung, weiblich, chancenlos

¹⁹⁸ M99/APR.23050 Mannheimer Morgen, 13.04.1999; TG Biblis macht Lampertheim zum Meister

¹⁹⁹ NUN97/APR.01453 Nürnberger Nachrichten, 19.04.1997, S. 23; "Knall durchs Gehirn" Interview mit dem bekannten House-DJ Armand van Helden

²⁰⁰ BRZ05/OKT.01333 Braunschweiger Zeitung, 29.10.2005;

²⁰¹ NUN03/APR.01365 Nürnberger Nachrichten, 16.04.2003; Die Baseballer der Fürth Pirates wollen sich bereits in ihrer ersten Bundesliga-Saison im Oberhaus etablieren

に取り入れられて使用されているが、述語的に使用されていることから、ドイツ語の文法規則にも矛盾しておらず、ドイツ語に統合された形で使用されている。

smart

(103) Die Idee ist smart, aber nicht neu.²⁰²

(104) Smartphones leben von ihrem Bildschirm, erst er macht sie richtig smart.²⁰³

(103)は smart が sein 動詞 (ist) と共起し、述語的に使用されているのが確認できる。

(104)は動詞 machen (macht) との共起が確認され、述語的に使用されており、屈折変化が不要な述語的使用が確認される。

このように、いずれも英語の語を無変化でドイツ語に取り入れられて使用されているが、述語的、副詞的に使用されていることから、ドイツ語の文法規則にも矛盾しておらず、形態的にドイツ語に統合され使用されている。

2.2 付加語的形容詞としての用法

ドイツ語の文法規則上、付加語的に使用される形容詞は、格、数、性別において名詞との一致が必要となる²⁰⁴。

(105) Die freundliche Nachbarin zeigte dem keuchenden Vertreter den Weg.

(Duden Grammatik 2016: 345)

(105)には付加語的に使用される形容詞が2つある。まず、die freundlichen Nachbarin の freundlich は女性単数主格 Nachbarin に付加し、弱変化語尾-e が付与され使用している。次に、dem keuchenden Vertreter は男性単数与格 Vertreter に付加し、弱変化語尾-en が付与され振る舞う。ここではドイツ語で付加語的に使用される Anglizismus について先行研究を挙げ、実際の用例を概観する。

²⁰² A09/MAI.04846 St. Galler Tagblatt, 15.05.2009, S. 11; Start und Stop durch die Stadt

²⁰³ U14/DEZ.04302 Süddeutsche Zeitung, 31.12.2014, S. 28; Helligkeit runter

²⁰⁴ Duden Grammatik (2016: 345)

2.2.1 先行研究における **Anglizismus** の扱い

Anglizismus がドイツ語で使用される場合の形態的特徴はこれまでも調査されている。ここでは Anglizismus の形容詞がドイツ語で使用される場合の形態的特徴にも着目した Yang (1990) と Anglizismus の動詞と形容詞に着目した小野 (2008)、外来語の文法的統合 (Die grammatische Integration von Fremdwörtern)」という概念を提言した Eisenberg (2001)、ドイツ語で使用される外来語を音韻、語形変化、造語法、正書法の観点から考察した Eisenberg (2004, 2011) を取り扱うことにより、Anglizismus の形容詞の形態的特徴について確認する。

2.2.1.1 Yang (1990)

Yang (1990)は Anglizismus の形容詞について、付加語的に使用する形容詞はドイツ語の形容詞同様に、ドイツ語の文法規則に統合されドイツ語で使用されることを指摘している：

- (106) Bubi Scholz, der elegante, intelligente kämpfende faire Sportmann wird zum Idol einer neuen Generation ...²⁰⁵
- (107) Der größte Teil dieser fairen Regeln ist jede sozialstaatlichen Eingriff bereits erreicht...²⁰⁶
- (108) Straße und Schiene stehen in fairem Wettbewerb.²⁰⁷
- (109) Sportler brauchen einen fairen Boden.²⁰⁸

(Yang 1990: 162)

Yang (1990: 162) は Anglizismus の形容詞の屈折変化について、fair がドイツ語で付加語的用法として使用される例を挙げている。(106) の der ...faire Sportsmann の fair は男性単数主格の弱変化の語尾-e が付加されて使用され、(107) の dieser fairen Regeln は複数属格

²⁰⁵ (SPIEGEL 16 / 1980 S.249)

²⁰⁶ (SPIEGEL 24 / 1980 S.98)

²⁰⁷ (SPIEGEL 40 / 1980 S.99)

²⁰⁸ (SPIEGEL 24 / 1970 S.51)

の弱変化語尾-en がついて付加語として使用されている。(108)の *in fairem Wettbewerb* では *fair* が男性単数与格の強変化の語尾-em が付加されて使用され、(109) の *einen fairen Boden* は *fair* が男性単数対格の混合変化の語尾-en が付加されて使用されている。

これらの例が示す *Anglizismus* の形容詞 *fair* にはドイツ語の形容詞が適用される文法規則が同様に適用されている。つまり、この形容詞は形態的にドイツ語に統合された形で使用されていると言える。

Yang (1990) は、調査した *Anglizismus* について、その大部分がドイツ語の語形変化規則に従い、その中でも動詞および付加語的形容詞は例外なくドイツ語化されて使用されていると指摘している。

2.2.1.2 小野 (2008)

同様に、小野 (2008) は Yang (1990) を支持し、*Anglizismus* がドイツ語で使用される際はドイツ語の文法規則に従う必要があることを指摘している。

- (110) a. Das ist eine stylische Hose.
b. Das ist eine modische schöne Hose.
- (111) a. Der Flug wurde gecancelt.
b. Der Flug wurde abgesagt.
- (112) a. Ich habe das Programm gedownloadet/downgeloadet.
b. Ich habe das Programm heruntergeladen.

(小野 2008: 177f.)

(110a-112a) は形容詞および動詞の *Anglizismus* の例である。a の実線部の *Anglizismus* は形態的にドイツ語に順応した形で使用されている。(110a)では *stylish* が女性単数主格の混合変化の語尾-e を伴って女性名詞 *Hose* の付加語として使用されており、(111a)では *cancel* がドイツ語における通常の過去分詞の接頭辞 *ge-*と接尾辞-t を伴って *gecancelt* の形が受動文において使用されている。(112a) は *downloaden* を過去分詞として使用する例だが、過去分詞の形成にあたり揺れが生じており、*gedownloadet* もしくは *downgeloadet* の形

で使用されることを表している。しかし、いずれもドイツ語の文法規則に従い文法的である。

b の破線部は a の同義とされる Erword である。しかし、小野は(110b)の *modisch* のように *Anglizismus* の同義とされるドイツ語を使用する場合、*Anglizismus* として使用されている(110a)の *stylish* の語義と完全に一致しないことを指摘している。それは(111b)の *absagen* や(112b)の *herunterladen* も同様であり、*Anglizismus* を用いた方が適切な表現もある。

2.2.1.3 Eisenberg (2001, 2004, 2011)

外来語がドイツ語に統合することに関して小野 (2008) では Eisenberg (2001) の「外来語の文法的統合 (Die grammatische Integration von Fremdwörtern)」を紹介している。Eisenberg (2001) では外来語の文法的統合について、(i)音韻統合、(ii)造語法、(iii)屈折形態論の観点から外来語のドイツ語への統合について概観している。ここでは形態的側面から Eisenberg (2001) が扱うトピックについて概観する。

まず、英語の動詞がドイツ語に統合される際にどのような問題が生じるだろうか。以下の例文を見てみよう：

- (113) a. er recycelt
b. *er recyclet
- (114) a. recyceltes Papier
b. *recycledees Papier
- (115) a. ein gut gemanagtes Unternehmen
b. *ein gut gemanagedes Unternehmen

(Eisenberg 2001: 193f.)

(113)は英語の *recycle* がドイツ語の動詞として統合される場合を示したものである。ドイツ語での不定詞は *recyclen* が考えられるが、人称変化は *-eln* 型 (*angeln, segeln*) 同様に 3 人称単数で (113a) のように *er recycelt* となり、(113b) の *er recyclet* とはならない。

過去分詞は英語での表現が借用されドイツ語で使用されることもあるが²⁰⁹、(114)のよ
うな付加語的に使用される過去分詞の場合は(114a)のように *recyclertes Papier* となり、
(114b)に見られる英語の過去分詞を形容詞として語尾変化させた形は許容されない。同様
に、(115)は *managen* (英語: *manage*) の過去分詞が付加語的に使用される例である。
(115a)の *ein gut gemanagtes Unternehmen* は動詞 *managen* の過去分詞 *gemanagt* が付加語的
に使用されているが、英語の過去分詞 *managed* は英語の過去分詞 *managed* にドイツ語の
過去分詞を形成する接頭辞 *ge-*と接尾辞 *-t* を付加した *gemanaged* を、(115b) のように形容
詞として付加語的に使用することはできない。

以上のように、英語からの借用語は形態的にドイツ語の文法規則に従った語形変化を
する。また、英語の過去分詞を形容詞として語形変化することは、例えそれが文法的であ
っても許容されない。一方で、ドイツ語の過去分詞として扱われる場合は付加語的に使用
され、文法規則に従い語形変化する。

形態的特徴を総括した Eisenberg (2001) に Eisenberg (2004, 2011) は音韻的特徴と造語
法、正書法の観点を組み合わせて考察している。Eisenberg (2004, 2011) は *Anglizismus*
の形容詞を以下の8タイプに分類している。

- a) clean, cool, soft, fair, smart, safe, tough
- b) clever, proper, gentle, open
- c) crass, high, hype, light, life, pure
- d) fit, hot, hip, top
- e) pink
- f) easy, dirty, fancy, groggy, happy, trendy, tricky, sexy
- g) relaxed, recycled, gelabelled, gepuzzled, geleased, interviewed, airconditioned
- h) big, full, second, electronic, essential

a)は表記も音韻的にも明らかに外来語であるもの、b)は明らかに外来語で、有声子音を含
む2音節から成るもの、c)は語形変化せず、通常名詞の後の付加語として使用するもの、

²⁰⁹ 英語の過去分詞がそのままドイツ語で使用される例として *recycle* と同時もしくはそれ
以前に借用された *recycled* が挙げられる。(Eisenberg 2001: 193f.)

d)は語形変化せず、述語的ならびに副詞的使用に制限されるもの、e)は滅多に語形変化しないものである。pink はドイツ語で使用されている色彩を表現する形容詞 lila (ein lila Rock) のように、付加語的に使用される場合であっても形容詞の語尾変化はしない²¹⁰。f)は2音節目の音素が母音/i/となっていることが語尾変化しないことに影響しているものである。g)は英語で使用されている過去分詞である。これらの形容詞もドイツ語への借用が見られる。ドイツ語で使用される際には述語的、副詞的に使用可能である。例えば relaxed は Er ist ganz relaxed. Sie spielt relaxed auf. と使用される。relaxed が付加語的に使用される場合には語形変化を伴い、書き言葉では通常のドイツ語の文法規則に従い ein relaxedes Verhalten と変化させることになるが、この場合は発音と一致しないため ein relaxtes Verhalten と表記される。

このように Eisenberg (2004, 2011) は音韻的な観点と形態的な観点から Anglizismus の形容詞を分類し、外来語は基本的にドイツ語の文法規則に従うことが多いとした。しかし、音韻形態の影響により形態的にドイツ語に完全に統合されていない語もあることを指摘している。

2.2.1.4 Burmasova (2010)

Burmasova (2010) は 1994 年と 2004 年の *Die Welt* を対象に、Anglizismus の相対的な総数を調査し、全ての品詞に共通して明らかな増加が見られることを指摘している。その中で Anglizismus の形態的特徴も取り上げ、Anglizismus のドイツ語化に関して考察した。ドイツ語では付加語的形容詞ならば比較変化や語形変化が必要であり、ある形容詞のドイツ語への統合の有無は、付加語的形容詞の語形変化の有無で判断することが可能とした：

- (116) nach fairer Verständigung
- (117) die cleveren Gäste
- (118) sein progressiv gestyltes Coupé

²¹⁰ しかし、1.2.4.3 でも取り扱ったが、Duden Grammatik (2016: 348f.)によると一般的な色彩を表現する語は屈折変化を伴って使用されることも多いとされる：

(49)Er fährt ein pinkes Auto mit dem Kennzeichen R8DAT.

Eisenberg (2004, 2011) では一般的には pink を屈折変化しないとされていたが、時の経過とともに形態的にドイツ語に統合され、屈折変化を伴う形容詞に変容した可能性がある。

(119) *sexy-e Erscheinung

(120) *?super-es Angebot

(121) *?top-e Leistung

(Burmasova 2010: 103)

(116-118)の Anglizismus はドイツ語の文法規則に従って形容詞を曲用させたものである。それに対し(119-121) はドイツ語の文法規則の適用に関して問題が生じる例である。(119)は sexy の開音語末音節が影響して変化語尾の付加が難しくなっていると考えられる²¹¹。(120), (121) については Superangebot (super+Angebot) や Topleistung (top+Leistung) のような複合語としての使用が super や top を付加語形容詞として (120), (121) の文に見られるような使用をするより好まれるため、文法的には問題ないはずであるが、変化語尾の付加が余剰に感じられると考えられる。

このように Burmasova (2010) では Anglizismus の形容詞についてドイツ語化の有無でドイツ語への統合の程度を測る判断材料として扱っている。しかし、(120), (121)に見られるように文法上間違いはないが、実際にこれらの表現を使用するとなれば、曖昧だとする表現もあり、Anglizismus 全体において、ドイツ語の文法規則は普遍的だとは言いがたく、借用語される語により変則的で特殊な語も存在する。

2.2.1.5 ケーススタディ : clever, cool, smart

本研究の対象語 clever, cool, smart もドイツ語の他の形容詞と同様に、付加語的に使用される。COSMAS II Archiv der geschriebenen Sprache (W-öffentlich - alle öffentlichen Korpora des Archivs W.)で対象語が付加語的に使用される際のそれぞれの屈折変化の生起数を抽出した。まず、clever の屈折変化とそれぞれの生起数を見てみよう (表 1) ²¹²。

²¹¹ 同様に、形容詞 prima, trendy も屈折変化は難しい。また、Anglizismen の happy も付加語的に使用する際は無変化として使用される語である。1.2.4.3 を参照。

²¹² 2023年5月8日時点の clever が付加語的に使用されるデータを COSMAS II にて抽出したところ、総数 47060 のデータが確認された。

clevere	16705
cleverer	13550
cleveren	11550
cleveres	2199
cleversten	820
cleverere	762
cleverste	669
cleverem	538
clevereren	174
cleverster	51
cleverstes	16
clevereres	10
clevererer	9
clevererem	4
cleverstem	2
cleverst	1

表 1 付加語的に使用される clever の屈折変化

clever が付加語的に使用される場合、付加語的に使用される際の語尾変化の全てが観察される。このことから付加語的な clever は形態的にドイツ語に統合していると言える。中でも最も多く出現した語形は clevere である。形容詞の屈折変化では語尾が-e となるケースが多く、その影響で必然的に使用数が多くなっていると考えられる²¹³。

次に cool の屈折変化とそれぞれの出現数を見てみよう（表 2）²¹⁴。

²¹³ clevere は clever が女性単数主格および対格に付加する形容詞の強変化語尾、弱変化語尾、混合変化語尾-e、複数形主格および対格に付加する形容詞の強変化語尾-e、男性単数主格に付与する形容詞の弱変化語尾-e、中性単数主格および対格に付与する形容詞の弱変化語尾-e に該当する。

²¹⁴ 2023 年 5 月 9 日時点の cool が付加語的に使用されるデータを COSMAS II にて抽出したところ、検索結果の総数は 85333 であった。

coole	31273
coolen	21457
cooler	16090
cooles	6225
coolste	3843
coolsten	3595
coolem	1234
coolere	539
cooleren	407
coolster	297
cooleres	204
coolstes	108
coolerer	26
coolstem	22
coolerem	11
coolst	2

表 2 付加語的に使用される cool の屈折変化

cool が付加語的に使用される場合、clever 同様に、付加語的に使用される際の語尾変化の全てが観察される。このことから cool も形態的にドイツ語に統合していると言える。cool も clever と同じく、付加語として用いられる際に最も多い語形は coole である。

次に smart の屈折変化とそれぞれの出現数を見てみよう（表 3）²¹⁵。

²¹⁵ 2023 年 5 月 9 日時点の smart が付加語的に使用されるデータを COSMAS II にて抽出したところ、総数 38785 のデータが確認された。

smarte	17683
smarten	12580
smarter	6893
smartes	1337
smartem	292

表 3 付加語的に使用される smart の屈折変化

smart が付加語的に用いられる場合、他の対象語と同様に、最も多く観察された語形は語尾-e を伴う smarte であった。だが、smart の屈折変化のタイプは他の対象語より明らかに少ない。特に付加語的に使用された比較級と最上級の例が確認できず、屈折変化に制限があるように見える²¹⁶。なぜ smart のみ屈折変化形に制限が生じるのだろうか。smart は-t で終わる形容詞で、比較級は形式的には-er を付加すれば可能で、最上級も-e を挿入する必要はあるものの、語尾-st を付与して smartest とすることができるはずである。これはドイツ語の既存語 leicht や schlecht にも見られるため、特異現象ではない。

上に述べたように、COSMAS II においては例えば Burgenländische Volkszeitung (2007) や Hannoversche Allgemeine (2012) から smart の付加語的用法のデータを抽出できたが (図 4)、smart の比較級と最上級を含む屈折変化は確認できなかった。しかし、DWDS Wörterbuch の Die ZEIT (1946–2018) コーパスでは比較級と最上級を含む屈折変化が確認できる。以下の例を見てみよう。

- (122) Das erhofft sich aus der geballten Rechenkraft unter anderem Hilfe für die Steuerung seiner autonomen Raketen und noch smartere Bomben.²¹⁷
- (123) Wenn sich erst herumgesprachen hat, wie auch in Bayreuth mit Wasser gekocht wird, wenn der Rangbegriff „Bayreuther Format“ ersetzt wird durch die „Nachwuchs“-Devise „Jeder einmal in Bayreuth“, dann dürfte das smarteste Management bald in Verlegenheit geraten – jedenfalls im Rahmen des vorläufig noch geltenden Wagner-Programms.²¹⁸

²¹⁶ すなわち clever や cool のように、cleverste, clevereres, coolsten, coolerem の屈折変化が確認できない。

²¹⁷ Die Zeit, 18.03.2004, Nr. 13

²¹⁸ Die Zeit, 07.08.1958, Nr. 32

(122) の *smartere Bomben* の *smart* はその比較級に複数対格の強変化語尾-e が付与されている。他方、(123) *das smarteste Management* の *smart* はその最上級に中性単数主格の弱変化語尾-e が付与されている。これらは COSMAS II のコーパスでは確認できなかったタイプの用例である²¹⁹。このように *smart* の比較級や最上級を含む屈折表現が確認されたことから、*smart* も形態的にドイツ語に統合されていると言える。しかし、その出現が特定のコーパスに限定されることから、*smart* の比較級と最上級の使用は媒体や文体に依存する可能性がある。

Treffer	Texte	von	bis	Korpus
田	1	1	2007	2007 BVZ07 Burgenländische Volkszeitung 2007
田	1	1	2000	2000 FLT00 Falter 2000
田	1	1	2012	2012 HAZ12 Hannoversche Allgemeine 2012
田	1	1	2010	2010 LTB10 Luxemburger Tageblatt 2010
田	1	1	1997	1997 M97 Mannheimer Morgen 1997
田	1	1	1967	1967 MK1 Mannheimer Korpus 1
田	1	1	2007	2007 NEU07 Neuland: Das Wirtschaftsmagazin der Regionen 2007
田	1	1	1997	1997 NZF97 NZZ Folio 1997
田	1	1	1999	1999 NZF99 NZZ Folio 1999
田	1	1	2001	2001 NZF01 NZZ Folio 2001
田	1	1	2002	2002 NZF02 NZZ Folio 2002
田	1	1	2003	2003 NZF03 NZZ Folio 2003
田	1	1	2004	2004 NZF04 NZZ Folio 2004
田	1	1	2014	2014 NZF14 NZZ Folio 2014
田	1	1	2015	2015 NZF15 NZZ Folio 2015
田	1	1	2017	2017 NZF17 NZZ Folio 2017
田	1	1	2021	2021 NZF21 NZZ Folio 2021
田	1	1	2003	2003 PMV Plenarprotokolle des Parlaments Landtag Mecklenburg-Vorpommern
田	1	1	2019	2019 STG19 Stern Gesund leben 2019
田	1	1	2021	2021 STG21 Stern Gesund leben 2021
36.459		31.699	1947	2022 930 Korpora

図 4 *smart* の検索結果 (COSMAS II)

次に、各対象語が付加語的に使用される具体例を見てみよう²²⁰。

clever

(124) Das Portal ist eine Art riesiges Archiv, das Nutzer durch sein cleveres Empfehlungssystem

²¹⁹ DWDS の *Die Zeit* (1946-2018) コーパスにおいては最上級を含む屈折変化形は 1958 年、比較級を含む屈折変化形が 2004 年以降に確認できる。

²²⁰ COSMAS II の W - Archiv der geschriebenen Sprache, W-öffentlich - alle öffentlichen Korpora des Archivs W (mit Neuakquisitionen) [1]からデータを抽出した。

bei der Stange hält.²²¹

(125) Wie aus Lassie Amerikas cleverster Filmhund wurde ▶ Seite 59²²²

cool

(126) Am Anfang hatte ich eine recht coole Hipster-Crowd, da waren die Kommentare zum Teil sehr lustig.²²³

(127) Letzte Woche lief die bislang coolste Kampagne an.²²⁴

smart

(128) Dass sich mit smarterer Technologie sehr viel Energie und damit CO2 sparen lässt, zeigt Andreas Wirth, Bundesinnungsmeister für Elektro-, Alarm-, Gebäude- und Kommunikationstechnik, an einem einleuchtenden Beispiel: "In unzähligen Schulen in ganz Österreich wird durchgeheizt.²²⁵

(129) Neues Projekt bietet smarteres Innenstadt-Eigentum.²²⁶

(124), (125)は clever の付加語的な例である。(124)の clever は sein cleveres Empfehlungssystem として中性単数対格の混合変化語尾-es が付与され、Empfehlungssystem の付加語となっている。(125)の clever はその最上級に男性単数主格の弱変化語尾-er が付与され、Filmhund の付加語となっている。(126), (127)は cool の付加語的な例である。(126)の cool は女性単数対格の混合変化語尾-e が付与され、Hipster-Crowd の付加語となっている。(127)の cool はその最上級に女性単数主格の弱変化語尾-e が付与され、Kampagne の付加語となっている。(128), (129)は smart が付加語として振る舞う例である。(128)の smart は女性単数与格の強変化語尾-er が付与され、Technologie となっている。(129)の smart は中性単数対格の強変化語尾-es が付与され、Innenstadt-Eigentum の付加語となっている。

このように対象とした Anglizismus の形容詞は大部分が形態的にドイツ語に統合されており、先行研究を支持する結果となった。しかし、これまで smart の比較級、最上級が付

²²¹ RHZ20/FEB.14105 Rhein-Zeitung, 15.02.2020, S. 7;

²²² U18/DEZ.03590 Süddeutsche Zeitung, 29.12.2018, S. 55; Verlässlich

²²³ P15/OKT.03578 Die Presse, 30.10.2015, S. 32,33,34; "Ich bin ein Beisl-It-Girl"

²²⁴ Z98/804.02382 Die Zeit, 23.04.1998; England sagt man nicht mehr [S. 76]

²²⁵ P22/OKT.01039 Die Presse, 08.10.2022, S. 65; Smarte Technik, clevere Nutzer

²²⁶ P16/JUN.02192 Die Presse, 18.06.2016, S. 65; Mit Doorman, ohne Flügeltür: Renngasse Nø 10

加語として使用されることがまれであることの指摘はなく、**Anglizismus** 形容詞に見られる屈折変化は媒体や文体によって差異がある可能性があることが明らかになった。

3. **Anglizismus** の形容詞の意味的特徴 ²²⁷

Yang (1990) では Der SPIEGEL を対象に **Anglizismus** の調査を実施し、アメリカやイギリス、もしくは他の英語圏で使用されている特徴的な語彙もしくは語彙の結合をドイツ語で表現する場合に、その相当語が存在しない場合があることを指摘している。そのような場合の **Anglizismus** をドイツ語に翻訳することは困難であり、あえてドイツ語で表現しようとする場合には、類似の相当語を使用することになる。しかし、それらは元の語義とのニュアンスの差が生じるため、一般的な **Anglizismus** とは区別して使用されるべきであると主張している。つまり、**Anglizismus** を使用しなければならない状況が少なからず存在していることを示唆している。

他方、Dewald (2008) は **Anglizismus** を使用する際の語義の不一致に関して言及している。そこでは英語由来の語彙の使用時に、英語本来の意味範囲とは異なるコンテキスト内で使用することによる誤解や意味の悪化が生じる場合があることが指摘されている。

	英語	ドイツ語
Vital	gesund, kräftig, energiegeladen	lebenswichtig, kräftig
eventually	schließlich, endlich	eventuell
Familiar	vertraut	familiär

表 4 既存語との語義の不一致が見られる例²²⁸

表 4 では Dewald (2008) で取り上げられている *vital, eventually, familiar* という形容詞が、英語とドイツ語で使用される場合で意味範囲が異なっていることが示されている。*vital* は英語で使用される際は、*gesund, kräftig, energiegeladen* の意味を持つが、ドイツ語では

²²⁷ 第 3 章の 3.1~3.4 については、伊東(2023)「現代ドイツ語の **Anglizismen** に関する一考察—*clever, cool, smart* の語義の受容—」の内容に一部修正を加えたものである。また、3.5 および 3.6 は深水(2018)「現代ドイツ語の **Anglizismen** における多義語の受容—*smart* を対象としたコーパス調査とその考察—」の内容に一部修正を加えたものである。

²²⁸ Dewald (2008) で扱われている形容詞を筆者が表にまとめたものである。

lebenswichtig, kräftig の意味で使用されている。eventually は英語では schließlich, endlich の意味を持つが、ドイツ語に借用されて使用される場合は、ドイツ語に存在している eventuell の意味で使用される。familiar は英語では vertraut の意味を持つが、ドイツ語で使用される場合は、ドイツ語に存在している familiär の意味として使用される。つまり、これらの語は本来英語で使用されている意味範囲とは全く異なって使用されていることとなる。

しかし Dewald (2008) で列挙されている語は vital, eventually, familiar の3語にすぎず (表4)、借用後の英語との意味の差異については深く言及されていない。また、列挙された語はどれもドイツ語に存在している語が影響して別の意味で使われる例であり、極端な例を取り扱っている可能性もあるという問題もある。

借用語に関する研究は Anglizismus のみならず、日本語における借用語研究にも見られるが、その多くは Anglizismus に関する研究と同様に心理的、社会的側面等から論じられることが多い (佐藤 2013)。その中でも宮田 (2007) は日本語における「メリット」とその類義語「利点」「利益」「長所」など既存語の語義との比較により意味的観点から日本語と外来語の考察を行っている。本研究が調査対象としている言語はドイツ語であり、宮田 (2007) の対象言語とは異なるが、外来語に関する意味的観点による分析は参考になると考えられる。

宮田 (2007) は、外来語「メリット」と既存語の類義語を意味的観点による考察を行うために、まず「メリット」の類義語を以下の (A) ~ (C) に分類した。

(A) 「長所」「美点」「取り柄」「強み」「売り (物)」「セールスポイント」

(B) 「利益」

(C) 「利点」「うまみ」

(A)は、[個体] (人・商品など) の恒常的特性としての「良い点」を表すが、「メリット」にはそのような用法はなく、ある[行動]を選択した際に付随する「良い点」しか表さないという点で、明確に異なる。

(B)の「利益」は行動選択に際して用いられる点でより「メリット」に近いが、“儲けた金額” (≒利潤) を表す用法が中心である点で異なっている。

(C)の「利点」「うまみ」はもっぱら行動選択に際して用いられる点で、「メリット」に最も近いと思われるが、「うまみ」は評価的意味を含み、しかも使用頻度もさほど高くない。以上を踏まえて、宮田（2007）では外来語「メリット」と類義語「利点」について、コーパスを用いた共起語検索で検証している。共起した用言類は以下の意味カテゴリに分類し、外来語「メリット」と類義語「利点」を比較した。

- (a) 人が被る影響
- (b) 認識・伝達
- (c) 行動
- (d) 程度の変化
- (e) 発生・消失
- (f) 存在
- (g) その他

検証の結果、(a) (e) (f) は外来語「メリット」との共起が比較的高いことが判明している。既存語が外来語よりも用法的に縛られて使用されることを指摘し、外来語「メリット」の使用範囲が広く、その結果、「メリット」の使用が普及したとされている。そもそも外来語は意味が不透明で、それが日本語で使用されているカタカナ語の「分かりにくさ」に繋がっているというが、一方で、既存語のような規則性を持ち合わせていないため、比較的自由に他の語と共起できる特徴がある（宮田 2007）。

このように、外来語と既存語の使用例やそれぞれが有する意味を比較することは、外来語が持つ特徴と性質を検証することで、その結果、同義語の使用域を明確にすることができる。

Anglizismusに関する研究はドイツ国内外で研究対象として扱われているが、その多くは統計を用いた分析方法による量的調査および質的調査か、形態的特徴に着目した研究であり、ドイツ語へ借用され、ドイツ語で使用される Anglizismus の語義に関する研究は不十分である。ここでは宮田（2007）を参考に、英語の多義語の語義がドイツ語にどのように受容されるのか、またどのような特徴が見られるのかを対象語のコーパス上のデータを基に考察する。

3.1 付加語的に扱われる形容詞 clever の意味受容

共起語を調査することで、テキスト上で使用するその語の語義が判断できるため clever の共起語を調査した。clever は述語的用法および付加語的用法で使用される形容詞だが、ここでは付加語的用法を調査することで、直後の共起語との関係に着目し、付加語形容詞として使用されている clever の用法のみに焦点を当て (&clever で検索)、COSMASII の全てのコーパスで抽出をした。

clevere	14904
cleverer	12069
cleveren	10502
cleveres	1875
cleversten	743
cleverere	686
cleverste	609
cleverem	475
clevereren	156
cleverster	50
cleverstes	16
clevereres	9
clevererer	8
clevererem	4
cleverstem	2
cleverst	1
合計	42109

表 5 clever の屈折変化形の内訳と総数²²⁹

コーパスでの検索結果によると、表 5 に見られるように clever の屈折変化形として考えら

²²⁹ 2019 年 7 月 12 日時点で抽出した結果を示している。

れる語は 42109 件がヒットした。使用数から判断して **clever** はドイツ語にすでに定着している **Anglizismus** の一つと考えられる。上記 42109 例のうち、本調査では 100 例を上位共起語の頻度順で抽出した。英語の **clever** は ①利口な (a clever boy) ②器用な (a clever magician) ③巧妙な (a clevere reply) ④抜け目のない (make a clever excuse) に分類される。これらの語義がはたしてドイツ語にすべて取り入れられているのかを知るために、ドイツ語で使用されている **clever** について共起語を調査した。以下では英語の辞書で挙げられている語義の順に従って、考察していきたい。なお DUDEN ONLINE で **clever** の語義は mit Schläue und Wendigkeit alle vorhandenen Fähigkeiten einsetzend und geschickt alle Möglichkeiten nutzend が示されている。これは①利口な (a clever boy)、③巧妙な (a clevere reply)、④抜け目のない (make a clever excuse) の英語の語義に対応すると考えられるが、本稿ではこの DUDEN ONLINE の記述がどの程度当てはまるのかも、コーパスのデータをもとに検証する。

第 1 の語義である「利口な」について見てみたい。

①利口な+人

(130) Der elfjährige Dominik Wirschnitzer ist ein cleverer Junge: Er hat bereits durchschaut, wie begehrenswert eine Anstellung als Bademeister ist.²³⁰

(131) "Er wollte uns wachrütteln, er ist ein cleverer Hund", sagte Manager Horst Heldt, der den gestern schwachen Mario Gomez mit Vehemenz verteidigte.²³¹

(130)ein cleverer Junge は Junge を共起語として clever を「利口な、賢い」の語義として使用されている。(131)ein cleverer Hund は「利口な犬、賢い犬」であり、clever は「利口な、賢い」の語義で使用されていると考えられる。以上のように、ドイツ語の clever は、借用元の英語と同様に「利口な」の語義を有している。

次に第 2 の語義である「器用な」について見てみたい。

²³⁰ NUN01/AUG.01663 Nürnberger Nachrichten, 20.08.2001, S. 11; Bademeister: Keine Zeit für Flirts - Nixen sind tabu - Besuch im Stadionbad: Harte Arbeit rund um den Beckenrand

²³¹ HMP09/APR.00544 Hamburger Morgenpost, 05.04.2009, S. 9; Stuttgart siegt trotz Lehmann-Patzer

②器用な+人

clever が「器用な」の語義で使用されている例は存在しなかった。

次に第3の語義である「巧妙な」について見てみたい。

③巧妙な+事象、対象物

(132) Grundsätzlich ist der fünfsitzige X4 mit dem cleveren Allradsystem xDrive ausgestattet.²³²

(133) Ein „Movie-Movie“, dessen clevere Kunstfertigkeit mitunter ebenso erdrückend wirken kann wie die schwüle Atmosphäre, die hier diese sonnengeplagten Nachtmenschen einlullt.²³³

(132) mit dem cleveren Allradsystem は車の技術に関する記事であり、Allradsystem（全輪システム）を共起語として、clever を「巧妙な」の語義として使用されている。(133) clevere Kunstfertigkeit は「巧妙な芸術性」として clever は「巧妙な」の語義で使用されていると考えられる。以上のように、ドイツ語の clever は、借用元の英語と同様に「巧妙な」という語義を有している。

次に第4の語義である「抜け目のない」について見てみたい。「抜け目のない」語義は第1語義の「利口な、賢い」の語義と解釈できる場合もあるが、ここでは否定的なニュアンスが含まれる場合に「抜け目のない」語義として使用することとしたい。

④抜け目のない+人、対象物

(134) In diesem Spiel mit wenig Tormöglichkeiten holte sich die clevere Mannschaft die drei Punkte.²³⁴

(135) Heutzutage werde der clevere Geschäftsmann Bill Gates als Vollendung des

²³² NON14/JUN.00131 Niederösterreichische Nachrichten, 05.06.2014; Konkurrenzlos in der Nische

²³³ Z82/MAR.00268 Die Zeit, 19.03.1982, S. 45; Filmtips

²³⁴ A07/OKT.13622 St. Galler Tagblatt, 30.10.2007, S. 45; Heimmiederlage

Technologen angesehen, schreibt Laughlin, «doch meiner Ansicht nach war John Bardeen der wahre Held des elektronischen Zeitalters.²³⁵

(134) clever の共起語は Mannschaft であり、「得点機会が少ない試合において準備を整え挑んだ（抜け目のない）チームが3点を獲得した。」として clever は「抜け目のない」の語義として使用されている。(135) der clevere Geschäftsmann は後続の Bill Gates を指しており、彼は技術面において完璧と称される実業家であり、clever は「抜け目のない」の語義で使用されていると考えられる。以上のように、ドイツ語の clever は、借用元の英語と同様に「抜け目のない」という語義を有している。

以上のように、ドイツ語で使用されている clever を英語 clever が有する語義から分析すると、英語には存在している語義がドイツ語では見られない場合があることが判明し、ドイツ語へ借用される際は、語義を選択的に借用している。

また上記した①「利口な」②「器用な」③「巧妙な」④「抜け目のない」で clever を分類した結果、ドイツ語で使用されている clever は DUDEN ONLINE が示しているように、③巧妙な (a clevere reply) と④抜け目のない (make a clever excuse) の英語の語義で使用されていることが明らかで、その使用は clever 全体の8割となっており (図4)、借用される語義の有無を表にまとめると以下のようなになる (表6)。

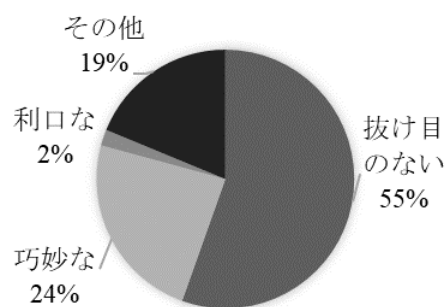


図 5 共起語から判断する clever の語義の内訳

²³⁵ A07/OKT.02897 St. Galler Tagblatt, 06.10.2007, S. 25; Der Held aus der Touristenklasse

語義・用法・使用場面	ドイツ語への借用（付加語的用法）
利口な・限定/叙述・口語文語	○
器用な・限定/叙述・口語文語	×
巧妙な・通例限定・口語文語	○
抜け目のない（英）・限定/叙述・口語	○

表 6 clever が有する語義のドイツ語への借用

3.2 受容されない clever の語義

英語に存在する②「器用な」という語義で clever を使用する場合がないことが判明した。しかし、このような語義での使用は本当に見られないのだろうか。この点を確認するため、英語の clever が「器用な」という意味で使用される際の共起語として考えられる magician と hands に対応するドイツ語の名詞 Zauber と Hände が clever と共起することがあるかをコーパスで調査した。

(136) *? cleverer Zauber

(137) *? ein cleverer Zauber

(138) *? der clevere Zauber

(139) *? clevere Hände

(140) *? die cleveren Hände

調査の結果、(136 - 140) の組み合わせはヒットしなかった。この結果から clever を「器用な」の語義で使用しないと判断される。したがって、clever の借用の際には英語の語義がすべてドイツ語に取り入れられるわけではなく、借用されるのはその一部の語義のみであることが判明した。

表 6 を見てみると、clever は使用場面が制約された語義はなくドイツ語に借用されやすいことが考えられる。しかしなぜ「器用な」の語義は観察できなかったのだろうか。英語の clever が「器用な」の語義で使用される例を見てみよう。

- (141) He is clever at making model cars.
(142) He's clever with his hands.
(143) You tied your shoes up yourself? – What a clever girl!

(ジーニアス英和大辞典 2019)

(141)と(142)は叙述用法として使用され、(143)は限定用法として使用されている。(141), (142)については「器用な」の語義で使用されているが、(143)は「靴ひもを自分で結べる」ことは「器用」だが、幼い少女に対しては「おりこうさん」という表現が適切だろう。以上のように叙述用法において使用されることの多い「器用な」の語義については述語的表現時に現れる語義だろうと想定される。

3.3 付加語的に扱われる形容詞 cool の意味受容

共起語を調査することで、テキスト上で使用するその語の語義が判断できるため cool の共起語を調査した。cool は述語的用法および付加語的用法で使用される形容詞だが、本稿では付加語的用法を調査することで、直後の共起語との関係に着目し、付加語形容詞として使用されている cool の用法のみに焦点を当て (&cool で検索)、COSMASII の全てのコーパスで抽出をした。

coole	25951
coolen	18466
cooler	13570
coolem	1080
coolere	423
cooleren	336
cooleres	164
coolerer	20
coolerem	10
合計	60020

表 7 cool の屈折変化形の内訳と総数²³⁶

コーパス検索の結果、表 7に見られるように cool の語尾変化形として考えられる語は 60020 件がヒットした。使用数から判断して cool はドイツ語にすでに定着している Anglizismus の一つと考えられる。上記 60020 例のうち、本調査では 100 例を上位共起語の頻度順で抽出した。英語の cool は①涼しい、ひんやりとした、冷たい (a cool day, a cool dress) ②冷静な、冷淡な (a cool head, a cool greeting) ③厚かましい (a cool customer) ④すてきな、かっこいい (a cool guy) に分類される。これらを参考に、これらの語義がはたしてドイツ語にすべて取り入れられているのかを知るために、ドイツ語で使用されている cool について共起語を調査した。以下では英語の辞書で挙げられている語義の順に従って考察していきたい。なお DUDEN ONLINE で cool の語義は第 1 の語義として die Ruhe bewahrend, keine Angst habend, nicht nervös [werdend], sich nicht aus der Fassung bringen lassend; kühl und lässig, gelassen、第 2 の語義として keine Gefahren bergend, risikolos, sicher (-ein cooles Versteck, -das ist die coolste Art, den Stoff über die Grenze zu bringen)、第 3 の語義として keinen, kaum Anlass zur Klage gebend, durchaus annehmbar, in Ordnung (-1000 Euro ist doch ein cooler Preis für die Anlage)、第 4 の語義として in hohem Maße gefallend, der Idealvorstellung entsprechend (-auf der Fete waren unheimlich coole Leute, -die Musik war echt cool) が示されて

²³⁶ 2019 年 9 月 4 日時点で抽出した結果を示している。

いる。第2の語義についてはドイツ語で確立されたと考えられ、英語 cool の語義には含まれていない。その他の語義については英語の語義である②冷静な、冷淡な (a cool head, a cool greeting) と④すてきな、カッコいい (a cool guy) に対応すると考えられるが、本研究ではこの DUDEN ONLINE の記述がどの程度当てはまるのかも、コーパスのデータをもとに検証する。

第1の語義である「涼しい、冷たい」について見てみたい。

①涼しい、冷たい+対象物

cool が「涼しい、冷たい」の語義で使用されている例は共起語が英語の場合のみであった。以下の例文を見てみよう。

(144) Dixieland-Rhythmen, südländischer Risotto und coole Drinks, das ist der musikalisch-kulinarische Mix, den die Donnerstags-Gesellschaft arrangiert hat.²³⁷

(144)は cool の共起語として Drinks が用いられ、「冷たい」の語義として使用されている。

第2の語義である「冷静な、冷淡な」について見てみたい。

②冷静な、冷淡な+人、対象物

(145) Ein Designer war ursprünglich mal ein Intellektueller und Denker. Heute muss man auch noch Unternehmer sein. Nach dem Motto: Wir sind die coolen Köpfe und machen gleichzeitig die großen Geschäfte in London.²³⁸

(145)は cool の共起語として Köpfe を用いており、cool は「冷静な」の語義で使用されている。このように、ドイツ語の cool は借用元の英語と同様に「冷静な、冷淡な」という語義を有している。

²³⁷ A99/APR.30217 St. Galler Tagblatt, 29.04.1999, Ressort: TB-OT (Abk.); Jazz-Open-air auf Kirchplatz Thal

²³⁸ Z17/APR.00009 Die ZEIT, 06.04.2017, S. 30; 1

第3の語義である「厚かましい」について見てみたい。

③厚かましい+人、事象

cool が「厚かましい」の語義で使用されている例は存在しなかった。

第4の語義である「すてきな、かっこいい」について見てみたい。

④すてきな、かっこいい+人、対象物

(146) Und wenn die Lehrperson eine coole Sonnenbrille trägt, einen Baseballcap aufhat und während der ganzen Unterrichtszeit den Pausenplatz mit Musik beschallt, macht das Ganze, das auch eine Promotionstour für verschiedene Firmen ist, gleich doppelt Spass.²³⁹

(147) Alex' Pool Hall: Hier gehen nicht nur die Meister des Queues ein und aus. Die Pool Hall zählt mittlerweile zu den absoluten Favoriten der jungen Szene, vor allem Schüler und Studenten schätzen die coole Atmosphäre sehr.²⁴⁰

(146)は cool の共起語として Sonnenbrille を用いており、cool は「かっこいい」の語義として使用されている。(147)は cool の共起語として Atmosphäre を用いており、cool は「すてきな、良い」の語義として使用されている。以上のように、ドイツ語の cool は借用元の英語と同様に「すてきな、かっこいい」という語義を有している。

ドイツ語で使用されている cool を英語の cool が有する語義の観点から見ると、英語の第3の語義「厚かましい」がドイツ語では観察されないことや第1の語義「涼しい、冷たい」は英語との共起にのみ観察されており、smart や clever の場合と同様に語義の選択借用が観察された。さらに他の対象語との比較で英語の共起語が多いことが明らかになった。また、本調査では DUDEN ONLINE が示している第3の語義 keinen, kaum Anlass zur Klage gebend, durchaus annehmbar, in Ordnung (-1000 Euro ist doch ein cooler Preis für die Anlage) は観察されなかった。

cool の共起語 100 例を上記①～⑤に分類すると、ドイツ語で使用されている cool は英語

²³⁹ A00/AUG.56821 St. Galler Tagblatt, 26.08.2000, Ressort: AT-APP (Abk.); Kein ganz normaler Unterrichtstag

²⁴⁰ I00/FEB.08709 Tiroler Tageszeitung, 17.02.2000, Ressort: Allgemein; Szene-Treffs, die man erleben muss

の語義のうち②冷静な、冷淡な (a cool head, a cool greeting) と④すてきな、かっこいい (a cool guy) の英語の語義で使用されており、その大部分が④すてきな、かっこいい (a cool guy) の語義で使用されていることが判明し、その使用は cool 全体の約5割となっている (図5)。また、ドイツ語で cool を使用する際にはその半数が英語として使用されていることが判明した。借用される cool の語義を表にまとめると以下のようなになる (表8)。

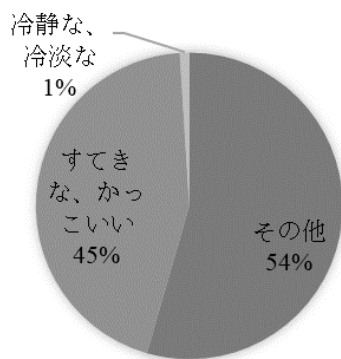


図 6 共起語から判断する cool の語義の内訳

語義・用法・使用場面	ドイツ語への借用 (付加語的用法)
冷たい・限定/叙述・口語文語	×
冷静な・限定/叙述・口語	○
厚かましい・限定/叙述・口語	×
すてきな・限定/叙述・口語	○

表 8 cool が有する語義のドイツ語への借用

3.4 受容されない cool の語義

英語に存在する①「涼しい、冷たい」と③「厚かましい」という語義で cool を使用する場がないことが判明した。しかし、このような語義での使用は本当は見られないのだろうか。この点を確認するため、英語の cool が「涼しい、冷たい」という意味で使用される際の共起語として考えられる wind と air 「厚かましい」という意味で使用される際の共起語として考えられる lie と behaviour にそれぞれ対応するドイツ語の名詞 Wind と Luft, Lüge と Benehmen が cool と共起することがあるかをコーパスで調査した。

- (148) *? cooler Wind
- (149) * ? ein cooler Wind
- (150) * ? der coole Wind
- (151) * ? coole Luft
- (152) * ? eine coole Luft
- (153) * ? die coole Luft
- (154) * ? coole Lüge
- (155) Die HipHop-Szene feiert ihn trotzdem als Superstar, denn sie zieht eine coole Lüge der lahmen Wahrheit vor. Und dann ist da natürlich dieser rauchige Bass.²⁴¹
- (156) *? cooles Benehmen
- (157) Vor allem ausländische Medien deuteten die moderat elegante Aufmachung und das coole Benehmen Zschäpes als Ausdruck der Verachtung gegenüber den Hinterbliebenen der zehn Mordopfer, die angebliche Selbstsicherheit der Angeklagten wurde bedauert.²⁴²
- (158) Auf die Gruppen-Codes, also das richtige „coole“ Benehmen, auf Tanzrituale, das Zusammenleben in heruntergekommenen, zugigen Wohnungen, starrend vor Schmutz, rattenverseucht und schimmelig, oder gleich auf der Straße.²⁴³

(148- 154) および(156)の組み合わせは本調査では検索できなかった。(155),(157),(158)は cool と共起する一方で、「厚かましい」の語義としての使用ではないようだ。(155) eine coole Lüge は直後の lahmen Wahrheit と関係し、「面白みのない真実より、センスのある (クールな) 嘘を好む」として、cool は「かっこいい、素敵な」の語義で使用されている。Lüge との共起は不定冠詞と定冠詞を用いた場合、(155)の 1 件のみであった。次に、Benehmen との共起について見てみよう。Das coole Benehmen は 2 件ヒットし、(157) das coole Benehmen は 10 人の殺人を犯した Zschäpes 容疑者の「(残酷で) 冷淡な態度」として使用されており、ここで使われている cool は「冷淡な」の語義で使用されている。(158) das richtige „coole“ Benehmen は後続するコンテキストより「厚かましい」の語義ではなく「イケてる (クール

²⁴¹ SOL10/SEP.00104 Spiegel-Online, 02.09.2010; Vom falschen Koks-König zum Knastwärter

²⁴² NZZ13/JUL.00462 Neue Zürcher Zeitung, 03.07.2013, S. 6; Die brave Geschäftsfrau und ihre Helfer

²⁴³ T03/JAN.00431 die tageszeitung, 04.01.2003, S. 14, Ressort: Kultur; Das Beatmädchen

な) 態度」として使用されていると考えられる。この結果から、cool を「涼しい、冷たい」や「厚かましい」の語義で使用する例はドイツ語では存在しないと判断され、cool の借用においても英語の語義がすべてドイツ語に取り入れられるのではなく、借用されるのは一部の語義のみであることが判明した。

英語の cool の語義は、用法と使用場面に制約はないが、「冷たい、涼しい」と「厚かましい」の語義はドイツ語に借用されていない(表8)。英語の cool が「冷たい、涼しい」と「厚かましい」の語義で使われる例を見てみよう。

(159) Cooler weather is forecast for the weekend.²⁴⁴

(160) There was a cool breeze blowing off the sea.²⁴⁵

(161) It's cool of him to behave like that.²⁴⁶

(159)と(160)は「涼しい」の語義で使用され、(161)は「厚かましい」の語義で使用されている。(159)と(160)は限定用法で使用されており、clever の「器用な」の語義に見られた、叙述用法としての制限はないことが確認できる。一方で、「厚かましい」の語義で使用されている。(161)は叙述用法として使用されており、用法の制限が語義に影響している可能性もあり、本論文の調査方法が叙述用法を含まないため観察されなかった可能性が考えられる。しかし、Anglizismus の cool はその約半数が「すてきな、かっこいい」の語義で使用されることから、「冷たい」というような性質・属性を表す語義はドイツ語では kalt, kühl が既にあり、人の評価・活動の評価を表す意味で、転義的な意味として cool 「すてきな、かっこいい」が用いられていると想定できる。

3.5 付加語的に扱われる形容詞 smart の意味受容

共起語を調査することで、テキスト上で使用するその語の語義が判断できるため、smart の共起語を調査することにした。smart は述語的用法および付加語的用法で使われる形容詞であるが、本研究では smart の付加語的用法を取り扱うことで、直後の共起語と

²⁴⁴ オックスフォード現代英英辞典 (2015)

²⁴⁵ ジーニアス英和大辞典 (2019)

²⁴⁶ ジーニアス英和大辞典 (2019)

の関係に着目するために、付加語形容詞として使用されている smart の用法のみに焦点を当て (&smart で表示)、COSMASII の全てのコーパスで分析を行った。

smarte	9140
smarten	6781
smarter	3393
smartes	531
smartem	156
合計	20001

表 9 smart の屈折変化形の内訳と総数²⁴⁷

コーパス検索の結果、smart の語形変化形として考えられる語は 20001 件が検索された (表 9)。使用数から判断して、smart はドイツ語にすでに定着している Anglizismus の一つと考えられる。上記 20001 例のうち、本調査では 200 例を対象として調査を行った。

英語の smart はジーニアス英和大辞典によると、①利口な (a smart boy、 a smart reply、 buy smart) ②活発な (a smart discussion、 a smart pace) ③エレガントな (a smart restaurant、 look smart) ④厳しい (a smart attack、 a smart punishment) ⑤ハイテクの (a smart car、 a smart house) に分類される。このような語義がはたしてドイツ語にすべて取り入れられているのかを知るために、ドイツ語で使用されている smart について調査を行った。以下では英語の辞書で挙げられている語義の順に従って考察する。なお DUDEN ONLINE では smart は第 1 の語義として clever, gewitzt、 第 2 の語義として von modischer und auffallend erlebener Eleganz; fein が挙げられている。これは①と③の英語の語義に対応すると考えられるが、ここではこの DUDEN ONLINE の記述がどの程度当てはまるのかも、コーパスのデータをもとに検証する。

まず第 1 の語義である「利口な」について見てみたい。

①利口な+人

(162) Während die internationale Erfahrung für den smarten Manager bei Siemens sicher von

²⁴⁷ 2018 年 5 月 4 日時点で検索された結果を表にしている。

Nutzen sein wird, muss er bei dem krisengeschüttelten Konzern als eine Art „Feuer-Löscher“ diverse Brandherde bekämpfen, wie die Korruptionsaffäre, die unabsehbare Folgen nach sich ziehen könnte. So soll die Höhe der ermittelten verdächtigen Zahlungen in der Affäre um schwarze Kassen laut „Focus“ auf bis zu drei Milliarden Euro gestiegen sein.²⁴⁸

- (163) Der 35-jährige smarte Immobilienmakler aus der Wiener Annagasse hat eine Leidenschaft, die seine Nähe zum britischen Königshaus erahnen lässt: Wie Queen Elizabeth herself züchtet er schottische Hochlandrinder, eine langhaarige Urrasse, deren Fleisch bei Gourmets allerorten als das Höchste gilt. Zynismus am Rande: Dass der Ururenkel von Kronprinz Rudolf auch in der britischen Thronfolge wenigstens noch Platz 3.158 einnimmt, sieht er relativ gelassen. Und bekennt realistisch: "Da müsste es schon ein Kettensägenmassaker geben, um mich auf den Thron zu bringen." Ansonsten widmet sich Hardegg, ehrenamtlich Obmann der "Arbeitsgemeinschaft Österreichischer Hochlandrinderzüchter", bodenständigen Geschäften.²⁴⁹

(162)の den smarten Manager bei Siemens は「Siemens 社で働く賢いマネージャー」であり、smart は「賢く敏腕な」の語義として使用されている。(163) Der 35-jährige smarte Immobilienmakler aus der Wiener Annagasse hat eine Leidenschaft, die seine Nähe zum britischen Königshaus erahnen lässt. は「ウィーン Annagasse 出身の、その 35 歳の敏腕な不動産仲介業者はイギリス王室に近づきたいという情熱を持ち合わせている。」であり、smart は「敏腕な」の語義で使用されていると考えられる。以上のように、ドイツ語の smart は、借用元の英語と同様に「利口な」という語義を有している。

第2の語義である「活発な」として使用される例文「②活発な+人、事象」は存在せず、対象外となった。

第3の語義である「エレガントな」について見てみたい。

③エレガントな+人 または 場所

²⁴⁸ BRZ07/MAI.09859 Braunschweiger Zeitung, 21.05.2007; Crommes Coup: Ein Feuer-Löscher

²⁴⁹ NEW05/MAR.00725 NEWS, 31.03.2005, S. 162; Die Windsors und wir

(164) Ein smarter Mann. Höflich, zuvorkommend. Alte Schule. Percy Stuart eben, nur mit silbrigem Haar. Er bietet von seinem Zuckerkuchen an, und während er ein Stückchen ums andere abbricht, schwärmt er vom Theater. „Ich wäre niemals auf den Gedanken gekommen, die Bühne zu verlassen.“ Immer wieder ein Glücksgefühl für Willeke, wenn er von oben die Reaktionen der Menschen unten spürt. „Das ist cool, das ist sensationell“, seufzt er.²⁵⁰

(164)の Ein smarter Mann.は「あるエレガントな（紳士的な）男性。」であり、ここで使用されている smart は、後続する文に Höflich, zuvorkommend.とあるように「エレガントな」という語義で使用されていると解釈可能である。以上のように、ドイツ語の smart は、借用元の英語と同様に「エレガントな」という語義を有している。

第4の語義である「厳しい」として使用される例文④「厳しい+状況、場面」は存在せず、対象外となった。

第5の語義である「ハイテクな」について見てみたい。

⑤ハイテクな+対象物

(165) Im Dienstleistungssektor und bei den Schreibtischjobs findet ein ähnlicher Stellenabbau statt, seit intelligente Technologien immer öfter Arbeitskräfte ersetzen. Bei Banken und Versicherungen, im Groß- und im Einzelhandel werden überall smarte Technologien eingeführt und machen Hilfspersonal überflüssig. Marktbeobachter erwarten während der nächsten vier Jahrzehnte einen ähnlichen Stellenschwund wie bei den Fabrikjobs, nachdem Unternehmen, ja ganze Industrien und die Weltwirtschaft sich global vernetzen.²⁵¹

(166) Damit sich das smarte Gefährt langfristig auf dem Markt etablieren kann, haben sich

²⁵⁰ BRZ08/SEP.12720 Braunschweiger Zeitung, 23.09.2008; „Wir müssen wieder lernen, zuzuhören“

²⁵¹ U03/DEZ.03938 Süddeutsche Zeitung, 23.12.2003, S. 2; Außenansicht

die Verkaufsstrategien einiges einfallen lassen. Mit edlem Design und jährlich einem neuen Modell soll verhindert werden, dass die Bretter zum reinen Modeartikel verkommen. Wer durch die Strassen wetzt und die Blicke auf sich zieht, soll stolz sein auf sein handliches Gerät.²⁵²

(165)の Bei Banken und Versicherungen, im Groß- und im Einzelhandel werden überall smarte Technologien eingeführt und machen Hilfspersonal überflüssig.は「銀行や保険会社、卸売業や小売業では至る所でハイテクな技術が導入され、補助スタッフを余計なものにしている」であり、smart は「ハイテクな」の語義で使用されている。(166)の Damit sich das smarte Gefährt langfristig auf dem Markt etablieren kann は「そのハイテクな乗り物が長期にわたって市場で定着できるように」であり、smart は「ハイテクな」の語義として使用されている。以上のように、ドイツ語の smart は、借用元の英語と同様に「ハイテクな」という語義を有している。

以上のように、ドイツ語で使用されている smart を英語の smart の語義の観点から見ると、英語には存在している語義がドイツ語では見られない場合があることが判明した。また smart の共起語 200 例を上記①～⑤に分類した結果、ドイツ語で使用されている smart は、その約 90%が、①「利口な、賢い、抜け目のない」、③「エレガントな、洗練された」、⑤「ハイテクな」の語義で使用されていることが判明した。

上で見たように、DUDEN ONLINE においては smart の第 1 の語義として clever、gewitzt、第 2 の語義として von modischer und auffallend erlesener Eleganz; fein が挙げられていた。しかし、本調査の結果により、smart は第 3 の語義としての ⑤「ハイテクな」の意味での使用がドイツ語に定着していることが判明した。(図 6) また、借用される語義の有無を表にまとめると以下のようなになる (表 10)。

²⁵² A00/FEB.11153 St. Galler Tagblatt, 14.02.2000, Ressort: TB-BOD (Abk.); Vor allem in der City wetzt der Wetzler

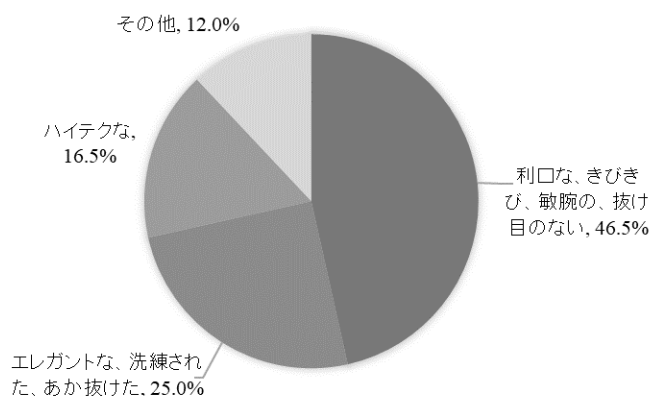


図 7 共起語から判断する smart の語義の内訳

語義・用法・使用場面	ドイツ語への借用（付加語的用法）
利口な（主に米）・限定/叙述・口語文語	○
活発な・限定・文語	×
エレガントな（主に英）・限定/叙述・口語文語	○
厳しい・限定/叙述・文語	×
ハイテクな・限定/叙述・口語文語	○

表 10 smart が有する語義のドイツ語への借用²⁵³

3.6 受容されない smart の語義

英語に存在する②「活発な」および④「厳しい」という語義で smart を使用する場合がないことが判明した。しかしこのような語義での使用は本当に見られないのだろうか。この点を確認するため、英語の smart が「活発な」という意味で使用される際の共起語として考えられる discussion と pace、「厳しい」という意味で使用される際の共起語として考えられる attack と apunishment に対応するドイツ語の名詞 Diskussion と Schritt, Angriff と Strafe が smart と共起することがあるかをコーパスで調査した。

(167) *? smarte Diskussion

²⁵³ 深水(2018)の調査結果を参考に、用法と使用場面を追記している。

- (168) *? eine/ die smarte Diskussion
- (169) *? smarter Schritt
- (170) *? der smarte Schritt
- (171) *? ein smarter Schritt
- (172) *? smarter Angriff
- (173) *? der smarte Angriff
- (174) *? ein smarter Angriff
- (175) *? smarte Strafe
- (176) *? eine/die smarte Strafe

調査の結果、(167- 176) の組み合わせはヒットしなかった。この調査結果から、smart を「活発な」及び「厳しい」の語義で使用するケースはドイツ語では存在しないと判断される。

以上の結果より、smart の借用の際には英語の語義がすべてドイツ語に取り入れられるわけではなく、借用されるのはその一部の語義のみであることが判明した。

4. Anglizismus の形容詞の統語的特徴²⁵⁴

Anglizismus の形容詞の形態的特徴については第 2 章の Anglisimus の形態的特徴で見たように、先行研究で明らかになっていることが多い。一方で、統語的な特徴の分析、即ち Anglizismus の形容詞がドイツ語の形容詞の扱い同様に、副詞的な使用や副詞との共起、他の形容詞との並列使用や名詞化、最上級としての使用がなされているのか等の統語的にドイツ語に統合がなされているかの分析はまだなされていないようで不十分である。

Anglizismus の形容詞は先行研究で明らかかなように形態的にはドイツ語に統合されていたとしても、統語的にはドイツ語に統合されていない可能性もある。

本章では Anglizismus の形容詞がドイツ語の形容詞同様に、副詞として使用されたり、他の副詞に修飾されたり、他の形容詞と並列に置かれたり、名詞化したり、比較級や最上

²⁵⁴ 第 4 章は伊東(2021)「現代ドイツ語における Anglizismen の特徴の形態的・統語的考察 — 「賢さ」を表す形容詞の最上級の単独使用を例として —」の内容に一部修正加筆を加えたものである。

級で用いられたりすることが可能であるのかという統語的な諸点に関して調査し、*Anglizismus* の形容詞の統語的特徴を考察する。このために、コーパスを用いた対象語を含むテキストの検索を行い、データを収集した。検索の際には *Leibniz-Institut für deutsche Sprache* の COSMASII の全てのコーパスを調査対象とし、データの抽出を行った。

4.1 *Anglizismus* の統語的分析

Anglizismus がドイツ語に統語的に統合しているのかを調査するために、コーパス (COSMAS II) を使用し、対象語を含むデータを抽出した。ここでは、各対象語を含んだ語、句が①副詞的な使用、②副詞との共起、③他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用がなされているか調査した。

4.1.1 *clever*

屈折変化された語も含める検索式 *&clever* を用いてコーパス検索をした結果、86925 例が抽出された²⁵⁵。そのうち 350 例をランダムで抽出し、①副詞的使用、②副詞との共起、③他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用について調査を行った。

①副詞的な使用例

(177) Und wir haben uns in einigen Situationen nicht clever verhalten.²⁵⁶

(178) Albanien agiert äußerst clever.²⁵⁷

②副詞と共起する例

(179) Erdogan sei echt clever, immer, wenn er die Armee eingesetzt habe,[...] ²⁵⁸

(180) ..., was wir auch sehr clever umgesetzt haben,[...] ²⁵⁹

²⁵⁵ 2021 年 6 月 7 日における総数を表示している。

²⁵⁶ BRZ09/AUG.10924 Braunschweiger Zeitung, 24.08.2009

²⁵⁷ SID/E16.00025 Sport-Informationen-Dienst: EM-Liveticker zum Spiel Rumänien - Albanien am 19.6.2016.

²⁵⁸ M19/OKT.05228 Mannheimer Morgen, 21.10.2019, S. 1

²⁵⁹ RHZ04/SEP.11825 Rhein-Zeitung, 13.09.2004

③他の形容詞と並列する例

(181) Kaum ein Künstler spielt so clever und witzig mit unseren Alltagsbildern,[...] ²⁶⁰

(182) Clever und abgeklärt wurde ein Erfolg nach Hause gebracht,[...] ²⁶¹

④形容詞の名詞化の例

(183) Das Clevere an den Machern der Toy Story ist aber, [...] ²⁶²

⑤最上級が単独で現れる例

(184) Beide Klubs also haben ihre Pflicht cleverst erledigt vor der nächsten Verabredung. ²⁶³

副詞的に使用される(177)と(178) や副詞と共起する(179)と(180)、ドイツ語の他の形容詞と共起する(181)と(182)、名詞化されて使用される(183) から、対象の形容詞がドイツ語の文構造に統合される形で使用されていることがわかる。しかし、最上級が単独で使用される(184)では、cleverst が形態的にはドイツ語の最上級の形成規則に従ってはいるが、通常のドイツ語の統語規則とは異なり、最上級が単独で副詞的に使用されている。この例も統語的な点でドイツ語に統合された形で使用されていないように見える。

4.1.2 cool

屈折変化された語も含める検索式 **&cool** でコーパス検索をした結果、192977 例が抽出された²⁶⁴。そのうち 350 例をランダムで抽出し、①副詞的使用、②副詞との共起、③他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用について調査を行った。

①副詞的な使用例

(185) [...], berichtet er cool. ²⁶⁵

²⁶⁰ L16/APR.03278 Berliner Morgenpost, 30.04.2016, S. 17

²⁶¹ SOZ05/AUG.02960 Die Südostschweiz, 18.08.2005

²⁶² P96/MAR.11727 Die Presse, 23.03.1996, Ressort: Kultur; Die Anatomie des Fehlerhaften

²⁶³ RHZ13/MAI.05204 Rhein-Zeitung, 06.05.2013, S. 21

²⁶⁴ 2021年6月7日における総数を表示している。

²⁶⁵ M12/JUL.09125 Mannheimer Morgen, 30.07.2012, S. 3

(186) Für die Schüler kam der Sieg nicht ganz unerwartet, behaupten sie zumindest cool.²⁶⁶

②副詞と共起する例

(187) Voll geil, der Elyas ist richtig cool.²⁶⁷

(188) Das ist unglaublich, einfach mega cool.²⁶⁸

(189) Ungarn war echt cool, [...] ²⁶⁹

③他の形容詞と並列する例

(190) [...] – cool, glatt, und rennmäßig professionell.²⁷⁰

(191) Ob diese Party wirklich innovativ und cool wird, ist völlig offen.²⁷¹

④形容詞の名詞化の例

(192) Die Coolen: Sie rasen die Abhänge hinunter und zeigen schwierige Sprünge.²⁷²

⑤最上級が単独で現れる使用例

(193) Definitiv coolst, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.²⁷³

(194) [...], als coolst vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.²⁷⁴

副詞的に使用される(185)と(186) や副詞と共起する(187-189)、ドイツ語の他の形容詞と共起する(190)と(191)、名詞化されて使用される(192) ことから、対象の形容詞が統語的にもドイツ語に統合されていることがわかる。しかし(193), (194)のように最上級が単独で使用される場合は、形態的にはドイツ語の最上級の語形変化の規則に従って使用されているが、(193)は他のドイツ語の形容詞と並列されており、(194)では coolst が als の補語となっており、これらはドイツ語の最上級を使用する際の文法規則から逸脱しているように見える。

²⁶⁶ A98/APR.21333 St. Galler Tagblatt, 04.04.1998

²⁶⁷ M17/NOV.01102 Mannheimer Morgen, 04.11.2017, S. 12

²⁶⁸ LTB16/DEZ.02544 Luxemburger Tageblatt, 31.12.2016

²⁶⁹ RHZ98/OKT.14666 Rhein-Zeitung, 24.10.1998

²⁷⁰ U16/JAN.03878 Süddeutsche Zeitung, 30.01.2016, S. 72

²⁷¹ E19/JUN.00328 Tages-Anzeiger, 06.06.2019, S. 3

²⁷² RHZ14/JAN.28332 Rhein-Zeitung, 30.01.2014, S. 24

²⁷³ B09/APR.02313 Berliner Zeitung, 17.04.2009

²⁷⁴ PRF11/MAI.00073 profil, 02.05.2011, S. 113

4.1.3 smart

曲用された語も含める検索式 &smart を用いてコーパス検索をした結果、101889 例が抽出された²⁷⁵。そのうち 400 例をランダムで抽出し、①副詞的使用、②副詞との共起、③他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用について調査を行った。

①副詞的な使用例

(195) Sie treten smart und gewandt auf, sind aber dennoch Fanatiker.²⁷⁶

(196) DaimlerChrysler tendiert zu einem Start seines Kleinwagens smart auf dem US-Markt.²⁷⁷

②副詞と共起する例

(197) Es geht um das, was Smartphones erst so richtig smart macht.²⁷⁸

(198) [...]wirkt weltgewandt, höflich und genauso smart.²⁷⁹

③他の形容詞と並列する例

(199) Kantonsrat Christian Meng ist smart und kompetent, als Teufner jedoch kein Thema.²⁸⁰

(200) Die europäische Grenzschutzagentur Frontex, deren Befugnisse in den letzten Jahren dramatisch ausgeweitet wurden, agiert inzwischen – flexibel und smart – weit vor den Grenzen, bis tief in der Sahelzone. Dazu wird das Gericht dieses Mal nichts sagen können.²⁸¹

④形容詞の名詞化の例

(201) Doch hat das Smarte seinen Preis.²⁸²

⑤最上級が単独で現れる例

²⁷⁵ 2021 年 6 月 11 日における総数を表示している。

²⁷⁶ SOL15/FEB.02242 Spiegel-Online, 23.02.2015

²⁷⁷ M06/FEB.16282 Mannheimer Morgen, 27.02.2006; Smart vor dem Start auf US-Markt

²⁷⁸ U14/OKT.02980 Süddeutsche Zeitung, 22.10.2014, S. 27

²⁷⁹ S16/OKT.00187 Der Spiegel, 08.10.2016, S. 130

²⁸⁰ A13/JAN.00883 St. Galler Tagblatt, 05.01.2013, S. 33

²⁸¹ U20/FEB.01433 Süddeutsche Zeitung, 13.02.2020, S. 6

²⁸² U09/DEZ.02589 Süddeutsche Zeitung, 16.12.2009, S. 11

(202) Samtfilter über Stimme & Instrumenten, smartest Zwischenkriegs-Classics und....²⁸³

(203) [...], weil die als smartest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...²⁸⁴

他の2つの対象語と同様、副詞的に使用される(195), (196) や副詞と共起する(197), (198)、ドイツ語の他の形容詞と共起する(199), (200)、名詞化されて使用される(201) を見る限り、対象の形容詞は統語的に問題なくドイツ語に統合されていると言える。しかし最上級が単独で現れる使用例の(202)では、smartest は形態的にはドイツ語の文法規則に従って使用されているが、Zwischenkriegs-Classics の付加語として語尾変化なしで使用されており、(203)は形態的にドイツ語の文法規則に従って使用されているが、(194)と同様に smartest が als の補語となっている。これらはドイツ語の最上級の一般的な使用と一致しておらず、ドイツ語の統語規則から逸脱しているように見える。

4.1.4 **Anglizismus** の形容詞の統語上の共通点

以上の調査により、すべての対象語がドイツ語の他の形容詞と同様に副詞的にも使用され、ドイツ語の副詞とも共起することが判明した。またドイツ語の形容詞との並列も見られ、(183), (192), (201)の Die Coolen, Das Clevere, Das Smarte のように名詞化も可能である。つまり、対象語 cool, clever, smart は統語構造上問題なくドイツ語の形容詞として使用されており、形態的のみならず統語的にもドイツ語に統合し、ドイツ語として扱われていると言えるだろう。

また本調査で判明したのは、cool と clever の英語の最上級は coolest と cleverest であるが、調査結果では coolst, cleverst で使用されていることである。これは **Anglizismus** の形容詞が原級の形でのみ取り入れられ、最上級の変化はドイツ語の規則に従っていることを示している。ドイツ語の最上級は「原級+-st」によって形成されるが、形容詞の語末が -t, -d, -ss, -ß, -sch, -z の場合の最上級は「原級+-est」になる。cool と clever の場合は原級の語末がこれらに該当しないため、ドイツ語の文法規則に従うと coolst, cleverst となる。これは先行研究を支持するものであり、最上級がこの形で使用されるのは **Anglizismus** の形

²⁸³ PRF15/APR.00323 profil, 27.04.2015, S. 105

²⁸⁴ <https://www.republik.ch/dialog?t=article&id=ad629d15-1a6e-4f73-b34f-5c3ab5817930&focus=5ee69ab7-012d-4d61-a48f-ae9418fe03e> (2021年6月11日)

容詞が最上級の形成についても、ドイツ語に統合されているためだと言える。なお **smart** の最上級はドイツ語と英語は同形であるため形態的に英語の最上級と区別できない。しかし、ドイツ語で使用される場合では「am 最上級+**-en**」もしくは「定冠詞と最上級+**-e**」の形で使われており、**smart** に関しても統語的にはドイツ語に統合され使用されていることが確認できる。

さらに **Anglizismus** の形容詞の最上級がドイツ語で使用される場合に統語的にドイツ語に統合されていないように見える調査結果も見られた。使用したコーパスでは最上級の語形変化なしの単独使用が4例 (**coolst** : 2例、**cleverst** : 1例、**smartest** : 1例) ヒットした。(203)はインターネットの検索による **smartest** の例である。

(184) Beide Klubs also haben ihre Pflicht cleverst erledigt vor der nächsten Verabredung.

(193) Definitiv coolst, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.

(194) [...], als coolst vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.

(202) Samtfilter über Stimme & Instrumenten, **smartest** Zwischenkriegs-Classics und....

(203) [...], weil die als smartest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...

(184)では **cleverst** が副詞的に使われている。(193)は他のドイツ語の形容詞と並列されており、(194)では **coolst** が **als** の補語となっている。(202)では **smartest** は **Zwischenkriegs-Classics** の付加語として使用されており、(203)は(194)と同様に **smartest** が **als** の補語となっている。これらはドイツ語の最上級を使用する際の文法規則から逸脱しているように見える。それはドイツ語での最上級は通常の場合、(204)と(205)に見られるように「am 最上級+**-en**」もしくは「定冠詞と最上級+**-e**」と語形変化するためである。

(204) Dieses Bild ist am wichtigsten schön.

(205) Anna ist die jüngste der drei Schwestern.

(Duden 2016, 380f.)

4.2 最上級の単独使用

統語的特徴にかかる調査で判明したのは、**cool** と **clever** の英語の最上級は **coolest** と **cleverest** であるが、調査結果では **coolst**, **cleverst** で使用されていることである。これは

Anglizismus の形容詞が原級の形でのみ取り入れられ、最上級の変化はドイツ語の規則に従っていることを示している。ドイツ語の最上級は「原級+*-st*」によって形成されるが、形容詞の語末が*-t, -d, -ss, -ß, -sch, -z* の場合の最上級は「原級+*-est*」になる。cool と clever の場合は原級の語末がこれらに該当しないため、ドイツ語の文法規則に従うと *coolst, cleverst* となる。これは先行研究を支持するものであり、最上級がこの形で使用されるのは Anglizismus の形容詞が最上級の形成についても、ドイツ語に統合されているためだと言える。なお smart の最上級はドイツ語と英語は同形であるため形態的に英語の最上級と区別できない。しかし、ドイツ語で使用される場合には「am 最上級+*-en*」もしくは「定冠詞と最上級+*-e*」の形で使われており、smart に関しても統語的にはドイツ語に統合され使用されていることが確認できる。

Anglizismus の形容詞がドイツ語で使用される場合に、最上級の単独使用がなぜ生じるのだろうか。この事象の説明については、いくつかの可能性が考えられる。ここでは 4.2.1 絶対的最上級 (Elativ) としての用法、4.2.2 *möglichst, äußerst* に類似する *-st* の派生、4.2.3 口語的用法の単独使用の 3 つの可能性を検討してみたい。

4.2.1 絶対的最上級 (Elativ) としての用法

形容詞の最上級が単独で使用される最上級の特別な用法として Elativ (絶対的最上級) がある。

- (206) bei bester Gesundheit
- (207) mit modernsten Maschinen
- (208) Es ist *ein* tiefster Zug der Unternehmungswirtschaft, einen endlos anwachsenden Markt für ihre Industrieerzeugnisse zu ersehen.
- (209) *Jede* leiseste Anspirlung...

(Duden Grammatik 2016, 380f.)

Duden Grammatik (2016, 380f.)によると最上級は通常は冠詞類を伴って屈折変化するが、Elativ は(206)や(207)に見られるような、定冠詞を伴わない表現である。また、(208)や(209)のように不定冠詞や不定冠詞類を伴うこともある。Fuhrhop/Vogel (2010, 85f.) は

Superlativ（最上級）の機能と Elativ の機能を含めた比較表現について次のようにまとめている。

	+ attributiv =flektierbar	– attributiv = nicht -flektierbar
Positiv	flektiert	unflektiert
Komparativ	flektiert	unflektiert
Superlativ - (Elativfunktion)	flektiert	unflektiert, <i>-ens</i>
Superlativ- (Superlativfunktion)	flektiert	<i>am Xsten</i>

表 11 現代ドイツ語における最上級の語形変化

表 11 では Elativ の機能と Superlativ の機能は、付加語的に使用される場合は双方が語尾変化を伴うが、付加語的に使用されない Elativ の場合は *-ens* もしくは語形変化しない形で使用され、Superlativ の場合は *am Xsten* の形で使用されるとしている。Fuhrhop/ Vogel (2010, 85f.) は付加語的に使用されない Elativ の例として以下を挙げている。

- (210) Die Schokolade ist/ schmeckt bestens.
 (211) die schnellstens gegessene Schokolade
 (212) die äußerst leckere Schokolade

(210) と (211) は Elativ の語尾 *-ens* が付加されている例であり、(212) は付加語的に使用されない最上級が語尾変化しない形で使用され、Elativ の機能を有している。最上級の単独使用については、Elativ が副詞的に語形変化なしで用いられたものとも考えられる。ここで本調査において得られた例を見てみたい。

- (184) Beide Klubs also haben ihre Pflicht cleverst erledigt vor der nächsten Verabredung.
 (193) Definitiv coolst, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.
 (194) [...], als coolst vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.
 (202) Samtfilter über Stimme & Instrumenten, smartest Zwischenkriegs-Classics und...
 (203) [...], weil die als smartest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...

(193), (194), (203)は述語的に使用されている一方で、(184)は副詞的に使用されている。(202)は付加語的に使用されているにもかかわらず語形変化を伴っておらず、完全にドイツ語の文構造に統合されていないが、この場合、*smartest* の後続の名詞が英語 (Classics) となっており、*smartest Zwischenkriegs-Classics* 全体が英語の規則によって形成された表現と考えることもできる。そのため (202)を対象外とし、それ以外の例文を *Elativ* の機能と比較すると、(184)は最上級が語尾変化しない形で使用されており *Elativ* とみなすことが可能である。それに対し(193), (194), (203)のように述語的に使用される場合においては、*Fuhrop/Vogel* が挙げている *Elativ* の例では通常-ens が付与された形で表現されるようだが、ここでは語尾変化しない形で使用されている。これらの例は *Elativ* 説では十分に説明できないと考えられる。

4.2.2 *möglichst* や *äußerst* に類似する-st の派生

通時的に見ると、初期新高ドイツ語以降に他の言語由来の接尾辞により形容詞化する造語法が見られる。即ち 16, 17 世紀にフランス語の接尾辞-able, -ible の影響を受けた-bar がこれに当たり、動詞を形容詞化する造語手段として広く用いられた²⁸⁵。

(213) a. Der Plan kann gemacht werden.

b. Der Plan ist machbar.

(須澤・井出 2020: 187)

(213a)は助動詞 *können* と受動文で表現するが、(213b)は動詞 *machen* を接尾辞-bar により形容詞化し、形容詞 *machbar* で表現する。現代ドイツ語では接尾辞-bar により生成された語は助動詞 *können* と受動文の変型とされ、したがって、(213)は同義表現である。

このように他言語由来の接尾辞による形容詞化も通時的に造語手段として用いられていることが観察されることと、ドイツ語では通常-st による造語は生産的ではないが、ドイツ語の形容詞 *möglichst*, *äußerst* 同様に接尾辞-st による造語が考えられる。但し、接尾

²⁸⁵ 須澤・井出 (2020:187)

辞-st による形容詞化は一般的ではないことから、英語由来の接尾辞-st で *Anglizismus* に限って生産的である可能性がある。接尾辞-st を含むドイツ語の形容詞 *möglichst*, *äußerst* を含む例を見てみよう。

(214) Kommen Sie möglichst nicht zu spät.

(215) *Mein Vater ist möglichst/äußerst.

(216) Sein Vater ist äußerst streng.

(217) *Wir halten das für möglichst/äußerst.

(214)の *möglichst* は副詞的に使用され、(215)は述語的に振る舞う例である。同様に(216)の *äußerst* も副詞的に使用され、(217)は述語的に使用される例である。このように接尾辞-st を含むドイツ語の形容詞 *möglichst*, *äußerst* は副詞的にのみ使用可能であり、(215)と(217)のようにこれらの語が述語的に振る舞う文は非文となる。それに対し、Elativ 説で見たように本調査で得られた用例は述語的に用いられているものも含まれた。本調査で得られた用例を再度見てみたい。

(184) Beide Klubs also haben ihre Pflicht cleverst erledigt vor der nächsten Verabredung.

(193) Definitiv coolst, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.

(194) [...], als coolst vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.

(202) Samtfilter über Stimme & Instrumenten, smartest Zwischenkriegs-Classics und...

(203) [...], weil die als smartest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...

(193), (194), (203)は述語的にも使用されており、*möglichst* と *äußerst* の用例に見られるように副詞的使用のみではなかった。このことから、対象語を含む用例のうち最上級の単独使用は *möglichst*, *äußerst* に見られる接尾辞-st による造語手段だとする立場は Elativ 説と同様に問題があると考えられる。

4.2.3 口語的用法の単独使用

ドイツ語の最上級は副詞的に使用される場合は通常「am 最上級+-en」、述語的に使用される場合は「定冠詞と最上級+-e」の形で使われる。ただし Duden Grammatik (2016, 374f.) によると口語的な場面では最上級を無変化で用いることができるという。

(218) Das Baby war allerliebste.

(218)は原級 lieb の最上級 liebste に最上級の意味を強める接頭辞 aller-を付与して使用しており、最上級を無変化で述語的に使用している。ここで本調査において得られた用例を見てみたい。

(184) Beide Klubs also haben ihre Pflicht cleverste erledigt vor der nächsten Verabredung.

(193) Definitiv coolste, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.

(194) [...], als coolste vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.

(202) Samtfilter über Stimme & Instrumenten, smartest Zwischenkriegs-Classics und....

(203) [...], weil die als smartest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...

4.2.1 Elativ 説にて述べた通り、(193), (194), (203)は述語的に使用されている一方で、(184)は副詞的に使用されている。(202)は先述通り対象外とすると、最上級を無変化で述語的に使用している(193), (194), (203)は(218)の用法と一致する。Anglizismus が口語的な場面において使用されることから、Anglizismus の形容詞の最上級が単独で使用されることは口語的単独使用の立場であることが十分に考えられる。

以上のことから Anglizismus の形容詞がドイツ語で使用される場合の最上級の単独使用は口語的単独使用説が有力である。

5. 結論と展望

これまで英語由来の借用語である Anglizismus の形容詞が有する特徴を巡って、形態的側面、意味的側面、統語的側面による分析を交えて論じてきた。

第1章においては、借用語の形式的な分類に関する先行研究 (Betz 1974, Haugen 1950) を示し、それらを踏まえてドイツ語における借用語の受容の歴史的変遷を辿ることにより、

Anglizismus は現代ドイツ語のみで生じる特異的な現象ではないことを示唆した。古ドイツ語においてもケルト語やラテン語などの隣接言語との接触により言語間の借用がなされ、中高ドイツ語においてはフランス語からの借用が顕著に見られた。新高ドイツ語においてはドイツ語浄化の取り組みが加速し、他言語からの借用に対して消極的にもなったが、依然として他言語からの借用が行われていた。現代ドイツ語では英語の重要性の高まりとともに英語からの借用語が増加した。英語からの借用は 17 世紀には観察され、19 世紀になるとその借用数が増加する。一方で、それまでの借用語に対する批判同様、Anglizismus に対する批判も集まるが、現代ドイツ語においても依然として Anglizismus の使用が数多く見られる。借用語がドイツ語で使用されるには、名詞の場合はドイツ語の名詞同様に性が付与され、曲用を要する。これは Anglizismus の名詞も同様で、英語では要さない性が付与され、曲用が観察される。動詞においてもドイツ語の既存の動詞同様に活用が見られ、形態的にドイツ語に統合することが判明している。本論文の考察対象である形容詞の形態的な特徴についても先行研究から多くのことが判明している。例えば、Eisenberg (2004, 2011) は音韻形態的な観点から Anglizismus の形容詞を分類した結果、外来語は基本的にドイツ語の文法規則に従うことが多いと指摘した。しかし、その中でも外来語の音韻形態的な特徴の影響により形態的にドイツ語に完全に統合されていない語もあることを指摘している。他方、形容詞が述語的に使用される場合は屈折変化を伴わないため、外来語はそのまま使用することができ、見かけ上はドイツ語への統合の度合いが判断できない。また、Anglizismus に対する意味的な調査や統語的な調査はこれまでの研究では十分になされていない。そこで本論文では多義的に使用される Anglizismus の形容詞の語義の受容といった意味面での特徴、ならびにドイツ語の文構造への統語的な統合の度合い、すなわち統語的な特徴も考察対象にすることで、包括的な言語学的視点による Anglizismus の形容詞のドイツ語への受容に着目した。考察対象は Anglizismus の形容詞のうち「賢さ」に関連する語義を有する *clever, cool, smart* とし、これらが形態、統語、意味の面でドイツ語にどのように統合されているのかを考察した。

以降は本論文における考察から導き出された結論を提示するとともに、それらを踏まえたいうえでの展望を述べることにする。

まず、第 2 章では対象とした Anglizismus の形容詞の形態的特徴の考察を行い、対象語が付加語的に使用される際の屈折変化の振る舞いの観察から、対象語が形態的におおよドイツ語に統合していることを示した。これは先行研究での指摘と一致する結果であった。

ただし付加語的に使用される対象語には例外なく屈折変化が観察されたものの、**smart** の比較級を含む屈折変化と最上級を含む屈折変化が本論文で主に使用したコーパスでは観察できなかった。**smart** は他の考察対象語よりも早い段階で使用例が見られる語である。付加語的に使用される用例を比較したところ、使用コーパスでの初出は **clever** が 1927 年、**cool** が 1980 年、**smart** が 1852 年であり²⁸⁶、比較級を含む屈折変化と最上級を含む屈折変化が出現しにくいこと以外は、早期にドイツ語に統合された語であると考えられる。また **smart** の最上級を含む屈折変化形は 1958 年、比較級を含む屈折変化形は 2004 年に使用されていることが確認された²⁸⁷。以上の結果から、本論文では **Anglizismus** の形容詞は媒体の種類により、その屈折変化に制限が見られる可能性があることを主張した。

第 2 章に関わる今後の展望としては、付加語的に用いられた **smart** に比較級、最上級が現れにくいという現象が、他の形容詞にも見られるのかを調査する必要が挙げられる。**Eisenberg** (2004, 2011) の **Anglizismus** の形容詞の音韻形態的な 8 タイプの類別のうち **smart** は **clean, cool, soft, fair, safe, tough** のタイプに属するものであるが、これらの形容詞は表記と音韻の特徴から明らかに外来語と判断できる形容詞とされている。このタイプに該当する形容詞に関して比較級と最上級を含む屈折変化について **smart** と比較し考察することが今後の課題となる。

第 3 章では **Anglizismus** の意味的特徴について、**Anglizismus** がドイツ語に借用される際の語義の受容について考察した。これまで **Anglizismus** を扱った研究の多くは借用語として実態を把握するための借用語の総数を実測することによる調査や、**Anglizismus** の形態的特徴に着目し、ドイツ語にどの程度同化しているかを扱う研究が主であり、**Anglizismus** の語義に関する研究は不十分であった。そこで本論文では、日本語の外来語の意味的調査を扱う宮田 (2007) を参考に英語の多義語の語義がドイツ語にどのように受容されるのか、また受容の際にどのような特徴が見られるのかを対象語のコーパスデータを基に考察した。その結果、英語で多義的に使用される語義のうちドイツ語には受容されていない語義があり、また借用される語義は口語的に頻繁に用いられる語義であることが関わっており、語義の借用が一定の条件のもとで行われていることが判明した。また、今回の調査で使用した **COSMAS II** や **DWDS** でのコーパスは基本的に文語コーパスであるが、**Anglizismus** の対象語に関しては口語的に用いられる語義が取り入れられることが明らかとなった。本論文

²⁸⁶ DWDS-Kernkorpus (1900-1999)

²⁸⁷ DWDS の Die Zeit (1946-2018) コーパス

で対象としたのは、対象とした形容詞の付加語的用法のみであった。述語的に使用される場合にも、本研究の考察結果と同様の結果となるのかについては、さらに今後の研究が必要である。付加語的用法では受容されなかった語義が述語的用法ではドイツ語に受容されている可能性もある。こういった点の考察は今後の課題としたい。

先行研究として取り上げた Yang (1990) は、Anglizismus として受容された語をドイツ語で表現しようとしても、その相当語が存在しない場合があることを指摘している。そのような場合に、あえてドイツ語で表現しようとするなら、類似の相当語を使用することになるが、そうすると語義のニュアンスの差が生じる。このことは Anglizismus を使用しなければならない状況が少なからず存在していることを示唆している。しかし、多少のニュアンスはあるにせよ既存語に類義語は存在しており、Anglizismus が借用されることで既存語が成す語場に何らかの影響が生じると考えられる。こういった既存語が成す語場に対し Anglizismus が与える影響についての考察も今後の課題としたい。

第4章では対象の Anglizismus の形容詞が付加語的に使用される際の統語的特徴を明らかにするため、①副詞的な使用、②副詞との共起、③他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用に関する調査を行った。その結果、Anglizismus はドイツ語の他の形容詞同様に振る舞い、統語的にもドイツ語に統合していることを指摘した。一方で、コーパスデータでは「最上級の単独使用」が確認された。最上級の単独使用とは、屈折語尾を伴わず、最上級が単独で使われる場合を指し、口語的にのみ可能であるとされる²⁸⁸。

(219) Ich möchte Sie daher dringendst bitten, für Anhilfe zu sorgen.

(220) Bei Dejans Strandbar wird ebenfalls fleißigst gebaut.

(221) Das hat übelst gestunken.

(222) Beim Eintreten wird man fröhlichst und mit offenen Armen von der stolzen griechischen Wirtin empfangen.

(223) Mann o mann, war das gediegenst!

(Duden Grammatik 2016: 374f.)

(219)-(223)が最上級の単独使用の例である。これは特定の形容詞に限定されておらず、比

²⁸⁸ Duden Grammatik (2016: 374, 380f.)

較的自由に形成可能である。考察対象の形容詞もこのような背景から単独で使われたと想定した。

本論文では以上のような文法書の記述をもとに、最上級の単独使用の要因を考察したが、今後の課題として既存の類義語 *weise*, *klug*, *intelligent* 等にも最上級の単独使用が見られるのかを調査したい。既存語においても最上級の単独使用が顕著に見られるのであれば、対象語の振る舞いを既存語に倣ったものとして解釈することも可能である。既存の類義語の振る舞いの考察を行うことで、対象語の最上級の単独使用の背景のより詳細な説明が期待できる。その方法としては、最上級の単独使用として対象語を含むデータ(184a)-(203a)を(184b)-(203b)のように既存語の相当語に置き換え、それがどの程度容認されるかを調査することが考えられるだろう。

(184)a Beide Klubs also haben ihre Pflicht cleverst erledigt vor der nächsten Verabredung.

(184)b Beide Klubs also haben ihre Pflicht weisest/ klugst/ intelligentest erledigt vor der nächsten Verabredung.

(193)a Definitiv coolst, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.

(193)b Definitiv intelligentest, identitätsstiftend, imagefördernd - große Worte.

(194)a [...], als coolst vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.

(194)b [...], als weise/ klugst/ intelligentest vorstellbare Krebspatientin mitten in der Chemotherapie.

(202)a Samtfilter über Stimme & Instrumenten, smartest Zwischenkriegs-Classics und....

(202)b Samtfilter über Stimme & Instrumenten, intelligentest/ geschicktest Zwischenkriegs-Classics und....

(203)a [...], weil die als smartest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...

(203)b [...], weil die als weisest/ klugst/ intelligentest angepriesene Lösung noch nicht verfügbar ist...

さらに本論文で取り上げた *Anglizismus* の形容詞は3つであったが、今後は *Anglizismus* の他の形容詞にも対象を広げ、本論文で明らかとなったことがさらに一般化できるのかどうかを検証していく必要がある。また本論文では考察できなかった音声・音韻レベルの考

察、通時的なドイツ語への統合の度合いの変化も含め、**Anglizismus** のドイツ語への統合について、さらに包括的な研究を目指すことが望まれる。

参考文献：

- Betz, Werner (1974): "Lehnwörter und Lehnprägungen im Vor- und Frühdeutschen." In: Friedrich Mauer /Heinz Rupp(Hrsg.): *Deutsche Wortgeschichte*. 3rd ed. Vol.1. Berlin. Walter de Gruyter. pp.135-163.
- Burmasova, Svetlana (2010): *Empirische Untersuchung der Anglizismen im Deutschen am Material der Zeitung Die WELT (Jahrgänge 1994 und 2004)*. Bamberg. University of Bamberg Press.
- Busse, Ulrich (1993): *Anglizismen im Duden : eine Untersuchung zur Darstellung englischen Wortguts in den Ausgaben des Rechtschreibdudens von 1880-1986*. Berlin, New York. Max Niemeyer Verlag.
- Bußmann, Hadumod (2008): *Lexikon der Sprachwissenschaft*. Stuttgart. Kröner.
- Dewald, Regna (2008): *Anglizismen in der deutschen Sprache. Sprachwandel oder Sprachverfall?* Saarbrücken. VDM Verlag Dr. Müller.
- Eisenberg, Peter (2001): "Die Grammatische Integration von Fremdwörtern: Was fängt das Deutsche mit seinen Latinismen und Anglizismen an?" In: Stickel, Gerhard (Hg): *Neues und Fremdes im deutschen Wortschatz*. Berlin, Boston. Walter de Gruyter. pp.183-209.
- Eisenberg, Peter (2004): "German as an Endangered Language?" In: Gardt, Andreas/ Hüppuf, Bernd: *Globalization and the Future of German*. Berlin, New York. Walter de Gruyter. pp.121-137.
- Eisenberg, Peter (2011): *Das Fremdwort im Deutschen*. Tübingen. Walter de Gruyter.
- Fuhrhop, Nanna/ Vogel, Petra Maria (2010): Analytisches und Synthetisches im deutschen Superlativ. In: Kodierungstechniken im Wandel: das Zusammenspiel von Analytik und Synthese im Gegenwartsdeutschen. Berlin et al. de Gruyter. pp.83-98.
- Glahn, Richard (2002): "Englisches im gesprochenen Deutsch- Einfluss und Bewertung." In: Herg. Hoberg, Rudolf (2002): *Deutsch – Englisch – Europäinisch. Impulse für eine neue Sprachpolitik*. Mannheim. Dudenverlag. pp.220-235.
- Haspelmath, Martin (2009): "Lexical borrowing: Concepts and issues." In: Haspelmath, Martin & Tadmor, Uri: *Loanwords in the World's Languages. A Comparative Handbook*. Berlin. Walter de Gruyter. pp.35-54.
- Haspelmath, Martin & Tadmor, Uri (2009): *Loanwords in the World's Languages. A Comparative*

- Handbook*. Berlin. Walter de Gruyter.
- Haugen, Einar (1950): "The Analysis of Linguistic Borrowing." In: *Language* 26. Den Haag. Linguistic Society of America. pp.210-231.
- Hoberg, Rudolf (2000): "Sprechen wir bald alle Denglisch oder Germeng?" In: Karin M. Eichhoff-Cyrus, Rudolf Hoberg (Hrsg.): *Die deutsche Sprache zur Jahrtausendwende. Sprachkultur oder Sprachverfall?* Mannheim. Dudenverlag. pp.303-316.
- Koelwel, E/ Ludwig, H (1977): 『洗練されたドイツ語』 乙政潤訳, 白水社.
- Kimura- Kano, Makimi (2006): *Lexical Borrowing and its Impact on English. With Special Reference to Assimilation Process of Newer Loanwords from Japanese and German and Impact on the Existing Lexical System in English*. Hituzi Syobo Publishing.
- Koller, Erwin (2007): *Zur Grammatik von Elativ und Superlativ*. Mannheim. Institut für Deutsche Sprache.
- Moser, Hugo (1965): *Deutsche Sprachgeschichte. Mit einer Einführung in die Fragen der Sprachbetrachtung*. Tübingen. Max Niemeyer Verlag.
- Muhr, Rudolf (2002): "Anglizismen als Problem der Linguistik und Sprachpflege in Österreich und Deutschland zu Beginn des 21. Jahrhunderts." In: Muhr, Rudolf/Kettemann, Bernhard (Hrsg.) (2002): *EUROSPEAK – Der Einfluss des Englischen auf europäische Sprachen zur Jahrtausendwende*. Graz, Wien. Peter Lang Verlag. pp.9-54.
- Munske, Horst Haider (2020): "Englisches im Deutschen. Analysen zum Anglizismenwörterbuch." In: Hrsg. von Barbara Kaltz, Gerhard Meiser und Horst Haider Munske (2020): *Englisch in europäischen Sprachen*. Erlangen. FAU University Press. pp.1-33.
- Niehr, Thomas (2002): "Linguistische Anmerkungen zu einer populären Anglizismen-Kritik. oder: Von der notwendig erfolgs bleibenden Suche nach dem treffenderen deutschen Ausdruck." In: *Sprachreport*. 4. Mannheim. IDS. S.4-10.
- Polenz, Peter von (1984): "Entwicklungstendenzen des deutschen Satzbaus." In: *Die deutsche Sprache der Gegenwart*. Göttingen. Vandenhoeck& Ruprecht. S.29-42.
- Polenz, Peter von (1991): *Deutsche Sprachgeschichte. Vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart*. Band I. Einführung, Grundbegriffe. Deutsch in der frühbürgerlichen Zeit. Berlin, New York. Walter de Gruyter.
- Polenz, Peter von (2000): *Deutsche Sprachgeschichte vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart*. Kt,

- Bd.1, Einführung, Grundbegriffe, 14. bis 16.Jahrhundert. Berlin, New York. Walter de Gruyter.
- Polenz, Peter von (1999): *Deutsche Sprachgeschichte. Vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart.* Band III. 19.20. Jahrhundert. Berlin, New York. Walter de Gruyter.
- Polenz, Peter von (1972,1978, 2009): *Geschichte der deutschen Sprache.* Berlin, New York. Walter de Gruyter.
- Sapir, Edward (1921, 1963): *Language. An introduction to the study of speech.* San Diego, New York, London. Harcourt Brance Jovanovich.
- Schmidt, Wilhelm (2007): *Geschichte der deutschen Sprache Ein Lehrbuch für das germanistische Studium.* 10. Auflage. Stuttgart. Hirzel Verlag.
- Schuhmann, Roland (2009): "Loanwords in Old High German." In: Haspelmath, Martin & Tadmor, Uri: *Loanwords in the World's Languages. A Comparative Handbook.* Leipzig. de Gruyter Mouton. pp.330-337.
- Stickel, Gehard (1999): "Zur Sprachbefindlichkeit der Deutschen: Erste Ergebnisse einer Repräsentativumfrage." In: Stickel, Gerhard (Hrsg.): *Sprache – Sprachwissenschaft – Öffentlichkeit.* Berlin, New York. de Gruyter. pp.16-44.
- Tadmor, Uri (2009): "Loanwords in the world's languages: Findings and results." In: Haspelmath, Martin & Tadmor Uri: *Loanwords in the World's Languages. A Comparative Handbook.* Leipzig. de Gruyter Mouton. pp.55-75.
- Thomason, Sarah Grey & Kaufmann, Terrence (1988): *Language Contact, Creolization, and Genetic Linguistics.* Berkeley, Los Angeles, Oxford. University of California Press.
- Weinreich, Uriel (1974): *Languages in contact. Findings and problems.* Paris. de Gruyter Mouton.
- Wells, Christopher J. (1990): *Deutsch: eine Sprachgeschichte bis 1945. Aus dem Englischen von Rainhild Wells.* Tübingen. Max Niemeyer Verlag.
- Wolff, Gehart (2004): *Deutsche Sprachgeschichte: von den Anfängen bis zur Gegenwart. Ein Studienbuch.* 6. Auflage. Tübingen, Basel. UTB fuer Wissenschaft.
- Yang, Wenliang (1990): *Anglizismen im Deutschen: am Beispiel des Nachrichtenmagazins Der Spiegel.* Tübingen, Niemeyer.
- Zisk, Matthew (2015): 「漢字・漢文を媒介とした言語借用形式の分類と借用要因」 斎藤倫明, 石井正彦編. 『日本語語彙へのアプローチ：形態・統語・計量・歴史・対

照』おうふう.

- 伊東沙織(2021):「現代ドイツ語における Anglizismen の特徴の形態的・統語的考察—
「賢さ」を表す形容詞の最上級の単独使用を例として—」 Southern Review 第 36
号. 沖縄外国文学会. pp.55-69.
- 伊東沙織(2023):「現代ドイツ語の Anglizismen に関する一考察—clever, cool, smart の
語義の受容—」 広島ドイツ文学 No.35. 広島独文学会. pp.1-20.
- 荻野蔵平(2007):「標準ドイツ語 (Hochdeutsch) 成立過程の特異性について」 国際化時
代の異文化受容 L'acculturation dans les époques d'internationalisation. pp.95-106.
- 荻野蔵平・齋藤治之(2015):『歴史言語学とドイツ語史』 同学社.
- 沖森卓也・阿久津智(2015):『ことばの借用』 朝倉書店.
- 小野光代(2008):「現代ドイツ語に見られる Denglisch という現象について—グローバル
化と英語の影響・ドイツ語と日本語—」 現代の東西文化交流の行方—国際化と
世界化の光と影—大阪教育図書株式会社. pp.171-189.
- 須澤通・井出万秀(2009, 2020):『ドイツ語史—社会・文化・メディアを背景として』 郁
文堂.
- 中山豊(2006):「ドイツ語の絶対比較級」『藝文研究』 Vol.91, No.2. 慶應義塾大学藝文学会.
pp.298-315.
- 深水沙織 (2018):「現代ドイツ語の Anglizismen における多義語の受容—smart を対象とし
たコーパス調査とその考察—」 Southern Review 第 33 号. 沖縄外国文学会. pp.55-
98.
- 福本喜之助 (1980):『ドイツ語史よりみた外来語の研究』 朝日出版社.
- 福本喜之助・寺川央 訳 (1975):『現代ドイツ意味理論の源流』 大修館書店.
- 前田満(2015):「意味変化」『意味論』 中野弘三 (編) 朝倉書店.
- 三輪信春(2014):『ソーシャルとサピアの言語思想—現代言語学を理解するために—』 開
拓社.

使用辞書

- DUDEN (2007): Deutsches Universalwörterbuch, 6. Auflage Bibliographisches Institut GmbH,
Mannheim.

DUDEN (2016): Die Grammatik Unentbehrlich für richtiges Deutsch Band 4, 9. Auflage

Dudenverlag, Berlin.

Oxford Advanced Learner's Dictionary (2015): 9th edition. Oxford University Press.

言語学小辞典(2001): 同学社.

ジーニアス英和大辞典 (2019): 大修館書店.

ドイツ言語学辞典(1994): 紀伊国屋書店.

独和大辞典 (2000): 小学館.

使用コーパス

[COSMAS II] Archiv der geschriebenen Sprache (W-öffentlich - alle öffentlichen Korpora des Archivs W.) <<https://cosmas2.ids-mannheim.de/cosmas2-web/>>

[DWDS] Digitales Wörterbuch der deutschen Sprache. <www.dwds.de>